

○因官挾勢乞索 凡ソ官ニ因リ勢ヲ挾ミ及豪強ノ人乞索スル者ハ贓ニ坐シテ論シ一等ヲ減ス。

注ニ曰、親故相與フル者ハ論スルナシト

○稱律令式不便於事 凡ソ律令式ノ事ニ便ナラサルヲ稱フル者ハ皆須ク太政官ニ申シテ議定奏聞スヘシ、申議セス輒チ奏シテ改行スル者ハ徒二年、即チ闕ニ詣リ上表スル者ハ坐セス。

第十四章 戸婚律

○脱戸者 凡ソ脱戸ハ家長ハ徒三年、脱口及年狀ヲ増減シ、以テ課役ヲ免ル、者ハ一口ニ答三十、三口ニ一等ヲ加フ、罪徒三年ニ止マル、无課役口ヲ漏ラス者ハ六口ヲ一口ト爲シ、罪徒一年半ニ止マル、即チ六口ニ滿タサレハ杖六十考課令集解

脱戸ハ全戸ノ戸籍ヲ隱匿スルヲ云ヒ、脱口ハ一戸内ノ家族ヲ隱匿スルヲ云フ、年狀ハ年齢ナリ。

○里長不覺脱漏 凡ソ里長脱漏増減ヲ覺ラサル者ハ一口ニ答三十、二口ニ一等ヲ加フ、杖一百ヲ過クレハ一等ヲ加ヘ、罪徒三年ニ止マル、脱戸ヲ覺ラサル者ハ漏口ノ法ニ從ルコトヲ聽ス、國郡ノ脱戸亦此ニ準ス、若情ヲ知ル者ハ各、家長ノ法ニ同シ全上

「過クレハ」下ニ、五口ト云フカ如キ字ヲ脱シタルモノ、如シ。

○國郡不覺脫漏 「凡ソ國郡脫漏増減ヲ覺ラサレハ郡内十口ニ管三十、三十口ニ一等ヲ加フ、杖一百ヲ過クレハ五十口ニ一等ヲ加ヘ、國ハ管スル所ノ郡ノ多少ニ隨ヒ通計シテ罪ヲ爲シ、若止タ一郡ヲ管セハ郡ノ罪ニ一等ヲ減ス、各、罪徒三年ニ止マル、情ヲ知ル者ハ各、里長ノ法ニ同シ<sup>全上</sup>」

國ハ國守ヲ云ヒ郡ハ郡領ヲ指ス、國守ノ罪ハ管下郡領ノ罪ノ合計ナリ。

○私入道 「凡ソ私ニ入道シ及之ヲ度スル者ハ杖一百、已ニ貫ヲ除キタル者ハ徒一年、本國主司及僧綱情ヲ知ル者ハ與ニ同罪」。

入道シテ僧尼トナルトキハ普通ノ戶籍ヲ除キ僧綱ノ所管ニ移リ、課役ヲ免セラル、ノ制ナレハ官許ヲ經スシテ入道シ及人ヲ度ス、

ルコトヲ禁シタルナリ。

○祖父母父母在而子孫別籍 「凡ソ祖父母父母在シテ、而シテ子孫籍ヲ別ケ財ヲ異ニスル者ハ徒二年、若祖父母父母別籍セシメ、及子孫ヲ以テ妄ニ人後ヲ繼ク者ハ徒一年、子孫ハ坐セス<sup>法曹至要抄全集解</sup>」

釋ニ曰「女子夫ニ從テ別籍セシムル者ハ禁セス」ト。

按スルニ祖父母父母ノ權力ヲ以テスルモ尙ホ子孫ヲシテ別籍セシムルコトヲ得サリシモノナリ、思フニ是レ家族ヲ保全スルノ主義ヨリ起ルコトナルカ、其ノ財ヲ分ツニ至リテハ祖父母父母ノ權力ヲ以テセハ則チ反法ニ非サリキ、法曹至要抄ニ曰「說者云フ已ニ異ニシタル後ハ悔還スルコトヲ得スト」。

○養異姓男 「凡ソ異姓ノ男ヲ養フ者ハ徒一年、與ル者ハ笞五十、其ノ遺棄ノ小兒ハ年三歳以下ナレハ異姓ト雖收養スルコトヲ聽ル、即チ其

ノ姓ニ從フ法曹至

男子ヲ養フテ子トスルハ必ス族類ニ求ムヘキコト令ニ規定シタリ、唯々三歳以下ノ棄兒ノミ他姓タリトモ養フコトヲ聽スナリ、姓ト云フハ支那ニ在リテ本邦ニナキモノナレバ、茲ニハ氏族即チノ義ニ解スルノ外ナシ。

○放家人壓而爲賤 「凡ソ家人ヲ放テ良トナシ、已ニ本屬ヲ經テ還ルヲ壓シテ而シテ賤ト爲ス者ハ徒二年本罪ト爲シ、其ノ行ニ依リテ放ス」裁判至

○雜戶養良人 「凡ソ雜戶良人ヲ養ヒテ子孫ト爲セハ徒一年半、家人奴ヲ養ヒテ子孫ト爲セハ徒一年」葉戶令

雜戶トハ官戶陵戶ナトノ類ニテ一種ノ賤民ナリ、然ルニ良人ヲ養子トシ、又ハ其ノ身良民ニシテ家人奴ヲ養子トスル者ハ罪アリ、即

チ民族等級ノ混亂ヲ許サ、ルナリ。

○相冒合戶 「凡ソ相冒シテ戶ヲ合スル者ハ徒二年、無課役ハ二等ヲ減ス」次戶ヲ合スヘクシテ合スルコトヲ聽サ、ル者ハ主司 次一百 逸律

○同居卑幼私用財 「同居ノ卑幼私ニ財ヲ取用スル者ハ五端ニ答十、五端ニ一等ヲ加フ、罪杖一百ニ止マル」同上

○妄認公私田 「妄ニ公私ノ田ヲ認メ若ハ貨物貨稅ヲ盜ム者ハ一段以下答五十、二段ニ一等ヲ加フ、杖一百ヲ過クレハ五端ニ一等ヲ加フ、罪徒二年半ニ止マル」。

妄ニ公私ノ田ヲ認メテトハ、稱シテ已カ地面ト爲スヲ云フ。

○許嫁女 「凡ソ女ヲ嫁スルヲ許シ、女既ニ聘財ヲ受ケ、而シテ輒ス悔ユ者ハ答五十」法曹至

注ニ曰、聘財ハ一端以上ヲ謂フ、酒食ハ非ラスト。

○爲「婚女家妄冒」凡「婚」ヲ爲シテ而シテ女家妄冒スル者ハ杖一百、男家妄冒スル者ハ一等ヲ加フ上全

○以「妻爲」妾「凡」ソ妻ヲ以テ妾ト爲シ、女家ノ婢ヲ以テ妻ト爲ス者ハ徒一年、各、之ヲ還正ス。

「若」シ女家ノ婢子アリ、及放テ經テ良ト爲ル者ハ妾ト爲スコトヲ許ス上全

還正ハ元ノ身分ニ引戻ヌヲ云フ。

○娶「逃亡」婦女「凡」ソ逃亡ノ婦女ヲ娶リテ妻妾ト爲シ、情ヲ知ル者ハ與ニ同罪逸律

○監臨之官娶所監女「凡」ソ監臨ノ官監臨スル所ノ女ヲ娶リ妻ト爲ス者ハ杖八十法曹至

○私娶人妻「凡」ソ私ニ人ノ妻ヲ娶リ、及之ヲ嫁スル者ハ徒一年半、妾ハ

一等ヲ減シ、各、之ヲ離ツ、即チ夫ノ自ラ嫁スル者モ亦同シ、乃チ兩ナカラ之ヲ離ツ上全

離ツハ離別セシムルナリ。

○妻無「七出」凡ソ妻ニ七出及義絶ノ狀ナリシテ之ヲ出ダス者ハ徒一年、七出ヲ犯スト雖三不去アリテ而シテ之ヲ出ダス者ハ杖八十、追還シテ復セシム、若惡疾及奸ヲ犯セハ此ノ律ヲ用非ス上全

七出、三不去ノ事、令ノ部ニ見エタリ。

「義絶」ヲ犯ス者ハ之ヲ離ツ、違フ者、杖一百上全

○居「夫喪」嫁妻「夫」ノ喪ニ居テ嫁娶スル者ハ徒二年法曹至

○犯「義絶」凡ソ義絶ヲ犯ス者ハ之ヲ離ツ、違フ者ハ杖一百上全

○嫁娶「違」律「凡」ソ嫁娶律ニ違ヘハ祖父母、父母、外祖父母、主婚ナレハ獨リ主婚ヲ坐シ、若二等尊長主婚ナレハ主婚ヲ首ト爲シ、男女ヲ從ト爲

シ、餘親主婦ナレハ事女ニ由レハ從ト爲シ、事男女ニ由レハ首ト爲シ、  
 主婦ヲ從ト爲ス、事主婦ニ由レハ首ト爲シ、男女ハ坐セス。戶集令  
 ○在官侵奪私園圃戶集令凡ソ官ニ在リテ私ノ園圃ヲ侵奪スル者ハ一段以  
 下答四十集解

○盜耕人墓地戶集令人ノ墓地ヲ盜耕セハ杖六十、墳ヲ傷ル者ハ杖一百、即チ  
 他人ノ地ニ葬ル者ハ答五十、墓地ハ一等ヲ加フ、若シ盜葬ヲ識ラサル者  
 ハ長ニ告ケ移埋セシメヨ、違フ者ハ答二十律

○部内有旱澇霜雹戶集令部内旱澇霜雹蟲蝗害ヲ爲スノ所アリ、主司言フヘ  
 シテ爲ニ言ハス、及妄ニ言フ者ハ杖七十、覆檢實ヲ以テセサル者ハ  
 與ニ同罪、若シ枉ケテ徵免スル所アルヲ致セハ、誣重キトキハ賊ニ坐シ  
 テ論ス律

「枉ケテ徵免スル所アレトハ災害ノ事實ヲ枉ケテ上申シ爲ニ免ス

ヘキ税額ヲ免セシテ徵シ、或ハ徵スヘキヲ免スルヲ云フ、誣重キ  
 トハ杖七十日ヨリモ重キトキヲ云フ。

○部内有田疇荒蕪戶集令凡ソ部内ニ田疇荒蕪アレハ十分ヲ以テ論シ、一分  
 ハ答三十、一分ニ一等ヲ加フ、罪徒一年ニ止マル、國郡ハ各、長官ヲ以テ  
 首ト爲シ、佐職ヲ從ト爲ス律

○應受復除而不給戶集令凡ソ復除ヲ受クヘクシテ給セズ、受クヘカラズシ  
 テ給スル者ハ徒二年、其ノ雜徭ハ答三十律

復除トハ狹郷ヨリ寬郷ニ移住セシムル等ノ如キ特別ノ理由ニ依  
 リ課役ノ一部ヲ免除スヘキ場合ヲ云フ。

○輸課税之物戶集令凡ソ課税ノ物ヲ輸シ、期ニ違ヒ充マサル者ハ十分ヲ以  
 テ論シ、一分ハ答四十、一分ニ一等ヲ加フ、國郡皆長官首ト爲シ、佐職從  
 ト爲シ、節級連坐ス律

輸トハ收税ナリ、一國一郡ノ全收納額ヲ十分シ其ノ一分部期ニ違  
フトキハ、管四十二處シ、一部ニ一等ヲ加フルナリ。

第十五章 賊盜律

賊盜律ハ刑法ノ本部ニシテ數種ノ犯罪ヲ括職シ、條項頗ル紛雜ナレハ  
試ニ左ノ六部ニ分類シタリ、其ノ括弧内ノ數字ハ律ノ條數ナリ。

第十 五 章 賊 盜 律

- (一) 皇室並國家ニ對スル罪
- (二) 親族ニ對スル殺傷ノ罪
- (三) 普通殺傷ノ罪
- (四) 蠱毒妖術ノ罪
- (五) 家宅侵入及盜偷ノ罪
- (六) 略人及和誘和同ノ罪

○ 謀反大逆 凡ソ謀反及大逆ハ皆斬、父子若ハ家人、資財田宅並ニ沒官

ス、年八十及篤疾ノ者ハ並ニ免ス、祖孫兄弟ハ皆遠流ニ配ス、籍ノ同異ニ限ラス、即チ謀反ト雖、詞理衆ヲ動カス能ハス、威力人ヲ率キルニ足ラサル者ハ亦皆斬、父子並ニ遠流ニ配シ、資財ハ沒限ニ在ラス、其ノ大逆ヲ謀ル者ハ絞、大社ヲ毀スヲ謀ル者ハ徒一年、毀シタル者ハ遠流。

謀反大逆以下ノ罪八虐ノ部ニ見エタリ、父子家人ニ至ルマテ官沒シテ公奴ト爲スナリ、資財ト云フ中ニ奴婢ヲ包含ス、籍ノ同異ヲ限ラストハ別籍スルモ既ニ血縁アレハ則チ此ノ罰ヲ適用スルヲ云フ、罪親族ニ及フヲ縁坐ト云フナリ。

○縁坐非同居 凡ソ縁坐ハ同居ニ非サル者ハ資財田宅沒限ニ在ラス、同居ト雖縁坐ニ非ス、及縁坐人ノ子流チ免スヘキ者ハ各、分法ニ依リ留還ス、其ノ出テ、養ハレ及入道スル者ハ並ニ追坐セス、僧尼及婦人若ハ官戸、陵戸、家人公私奴婢反逆ヲ犯ス者ハ止マ其ノ身ヲ坐ス。(二)

「分法ニ依リ」トハ未タ分家ヲ經スト雖戸令ニ依ルトキハ分居ヲ許スヘキ限ナルヲ以テ縁坐セシメサルヲ云フ。

○口陳欲反之言 凡ソ口ニ反セント欲スルノ言ヲ陳スルモ心ニ眞實ノ計ナク狀尋ス可キ無キ者ハ徒三年(三)

○謀叛 凡ソ謀叛ハ絞已ニ道ニ上ル者ハ皆斬、子ハ中流、若部衆十人以上ヲ率キタル者ハ父子遠流ニ配ス、所率十人ニ滿チスト雖故ヲ以テ害ヲ爲ス者ハ十人以上ヲ以テ論ス、即チ山澤ニ亡命シ追喚ニ從ハサル者ハ謀叛ヲ以テ論ス、其ノ將吏ニ抗拒スル者ハ已ニ道ニ上ルヲ以テ論ス(四)

「已ニ道ニ上ル」ハ既ニ實行ニ着手シタルヲ云フ。

○謀殺詔使若本主本國守 凡ソ詔使若ハ本主、本國ノ守ヲ殺サント謀ル者及吏卒ニシテ本部五位以上ノ官長ヲ殺サント、謀ル者ハ徒三年、

已ニ傷クル者ハ遠流、殺シタル者ハ皆斬(五)

是レ八虐ノ第八タル不義ノ罪ナリ

(二)親族ニ對スル殺傷罪ハ條々

○謀殺祖父母父母 「凡ソ祖父母、父母、外祖父母、夫、夫ノ祖父母、父母ヲ殺サント謀ル者ハ皆斬、嫡母、繼母、伯叔父、姑、兄、姉ハ遠流、已ニ傷クル者ハ絞、五等以上ノ尊長ハ徒三年、已ニ傷クル者ハ中流、已ニ殺ス者ハ皆斬、即チ尊長ノ卑幼ヲ殺サント謀ル者ハ各、故殺ノ罪ニ依リ四等ヲ減ス、已ニ傷クル者ハ二等ヲ減ス、已ニ殺ス者ハ故殺ノ法ニ依ル(六) 四等ヲ減スレハ徒二年、三等ヲ減スレハ徒三年トナル、故謀ノ法ハ即チ絞ナリ。

○家人奴婢謀殺主 「凡ソ家人奴婢ノ主ヲ殺サント謀ル者ハ皆斬、主ノ二等親及外祖父母ヲ殺サント謀ル者ハ絞、已ニ傷ケタル者ハ皆斬(七)

但シ主トハ主家ノ各人ヲ指スナリ、主家ノ戸主ノミニ非ス、主ノ二等親トハ主家ト別籍スルモノナリ。

○妻妾謀殺故夫祖父母父母 「凡ソ妻妾ノ故ノ夫ノ祖父母、父母ヲ殺サント謀ル者ハ徒三年、已ニ傷クル者ハ遠流、已ニ殺ス者ハ斬、家人奴婢ノ舊主ヲ殺サント謀ル者罪亦同シ(八)。

但シ故夫トハ夫亡スルノ後又ハ已ニ改家スルノ後ヲ云フ、若和離シ、又ハ出サレタレハ凡人ト同シケレハ別ニ重キヲ加ヘサルナリ。

○祖父母父母爲人所殺 「凡ソ祖父母、父母、外祖父母及夫人、ノ爲ニ殺サレ、私和スル者ハ徒三年、二等親ハ徒二年、三等以下ノ親ハ遞ニ一等ヲ減ス、財ヲ受ケ重キ者ハ各、盜ニ准シテ論ス、私和セスト雖二等以上ノ親ヲ殺スチ知リ三十日ヲ經テ告ケサル者ハ各、二等ヲ減ス(十二)。

三十日以内ニ告發セサレハ私和ヲ以テ論シ、二等ヲ減スルナリ。



(三)普通殺傷ノ罪

○謀殺人「凡ソ人ヲ殺サント謀ル者ハ徒二年、已ニ傷ケタル者ハ近流、已ニ殺シタル者ハ斬、從ニシテ功ヲ加ヘタル者ハ加役流、功ヲ加ヘサル者ハ近流、造意ハ行ハスト雖仍ホ首ト爲ス、即チ從者ニシテ行ハサルハ行者ニ一等ヲ減ス(九)。

「從ニシテ功ヲ加フトハ協謀シ且殺ス時自ラ下手セスト雖仍ホ其ニ相擁迫シ助勢シタルヲ云フ、造意トハ發起者ヲ云フ、元ト屠殺ノ計ヲ爲シテ已ニ行ヒタル者ハ身行ハスト雖首ナリ。

○殺一家非死罪三人「凡ソ一家死罪ニ非スシテ三人ヲ殺シ及人ヲ支解スル者ハ皆斬、子ハ徒三年(十二)。

同籍ノ各人、及二等親外祖父母ヲ合シテ一家ト爲ス、此ノ中ニテ死罪ニ非サル者ヲ一時ニ三人殺シ又ハ前後三人ヲ殺シタルトキハ

八虐ノ一ナル不道ノ罪ニ處スルナリ、支解ハ體軀支肢ヲ割離スルヲ云フ、即チ殺狀ノ慘忍ナルモノナリ。

○以物置人耳鼻「凡ソ物ヲ以テ人ノ耳鼻及孔竅ノ中ニ置キ妨クル所アル者ハ杖六十、其故サヲ人ノ服用飲食ノ物ヲ屏去シ、故ヲ以テ人ヲ殺傷スル者ハ、鬪殺場ヲ以テ論ス、若人ヲ恐迫シ、畏懼セシメ死傷ヲ致ス者ハ各、其ノ狀ニ隨ヒ故鬪殺傷ヲ以テ論ス(十四)。

(四)蠱毒妖術ノ罪

○造蓄蠱毒「凡ソ蠱毒ヲ造蓄シ及教令シタル者ハ絞、造蓄者同居ノ家口ハ情ヲ知ラサル者ト雖遠流若里長知テ而シラ糺サ、レハ徒三年、造蓄者ハ赦ニ會フト雖並ニ同居ノ家口及教令セシ人亦遠流、即チ蠱毒ヲ以テ同居ヲ毒スレハ毒セラレタル人ノ父母、妻、妾、子、孫ハ造蓄ノ

情ヲ知ラサレハ坐セス(十五)。

「赦ニ會フト雖并ニ」ト云フハ異例ノ文法ナレト赦ニ會フト雖尙ホ同居ノ家口及教令セシ人ト同シク遠流ニ處スルノ意ナリ。

○以毒藥々人「凡ソ毒藥ヲ以テ人ニ藥シ及賣ル者ハ絞即チ賣買シテ未タ用井サル者ハ近流凡ソ魚肉毒アリ曾テ人ヲ病スチ經ハ經ハ經ハ餘ハ速ニ之ヲ焚ケ違フ者ハ杖九十故サラニ人ニ與ヘテ食セシメ并ニ出賣シ人ヲシテ病マシメタル者ハ徒一年故ヲ以テ死ニ致ス者ハ絞即チ人自ラ食シ死ニ致ス者ハ過失殺人ノ法ニ從ル(十六)。

○憎惡造厭魅「凡ソ憎惡スル所アリテ厭魅ヲ造リ及符書ヲ造シ呪詛以テ人ヲ殺サント欲スル者ハ各謀殺ヲ以テ論シ二等ヲ減ス故ヲ以テ死ニ致ス者ハ各本殺ノ法ニ依ル以テ人ヲ疾苦セシメント欲スル者ハ又二等ヲ減ス(十七)。

○殘害死屍「凡ソ死屍ヲ殘害シ及屍ヲ水中ニ棄ツル者ハ各開殺ノ罪ニ五等ヲ減ス棄テ失ハス及髮ヲ髡シ若ハ傷クル者ハ各又二等ヲ減ス即チ子孫ノ祖父母父母ニ於ケル家人奴婢ノ主ニ於ケルハ各減セス(十九)。

○穿地得死人「凡ソ地ヲ穿チ死人ヲ得テ更ニ埋メス及塚墓ニ於テ狐貉ヲ燒燻シ而シテ棺槨ヲ燒ク者ハ杖一百屍ヲ燒ク者ハ徒一年五等以上ノ尊長ハ二等ヲ加フ卑幼ハ凡人ニ依リ二等ヲ減ス若子孫ノ祖父母父母ニ於ケル家人奴婢ノ主ニ於ケル狐貉ヲ燻スル者ハ徒一年棺槨ヲ燒ク者ハ徒二年屍ヲ燒ク者ハ徒三年(二十)。

狐貉ヲ獲ル爲ニ穴ヲ燻スルノ戲ハ古モアリシト知ルヘシ。

「凡ソ妖書及妖言ヲ造レハ遠流傳用シ以テ衆ヲ惑ハス者又之ノ如シ其ノ衆ニ滿タサル者ハ一等ヲ減ス言理害ナキ者ハ杖六十即チ私ニ

紙書ヲ有セハ行用セスト雖杖八十、言理害ナキ者ハ笞四十。  
衆ハ三人以上ヲ云フト注ニ見エタリ。

(五)家宅侵入及盜偷ノ罪

○夜無故入人家 「凡ソ夜故ナク人家ニ入ル者ハ笞三十、主人登時ニ格殺スル者ハ論スル勿シ、若侵犯ニ非サルヲ知テ殺傷スル者ハ闘殺傷ニ二等ヲ減ス、其ノ已ニ拘執ニ就キ而シテ殺傷スル者ハ各、闘殺傷ヲ以テ論ス死ニ至ル者ハ遠流(二十二)。

○盜大祀神御物 「凡ソ大祀神御ノ物ヲ盜ム者ハ中流、其ノ神御ニ供セント擬スルモノ若クハ饗膳ノ具已ニ饌呈スル者ハ徒二年、未タ饌呈セサル者ハ徒一年半、若釜甑刀七ノ屬ヲ盜メハ並ニ常盜ノ法ニ從フ。(二十三)。

○盜神璽 「凡ソ神璽ヲ盜ム者ハ絞、關契、內印、鑰鈴ハ遠流、乘輿服御ノ物

ハ中流、其ノ服御ニ供セント擬シ及供シテ廢闕シ若クハ將ニ御セントスルヲ食スル者ハ徒二年、食御ニ供セント擬シ及服ニ非スシテ御スルノ物帳帳性凡ハ徒一年半(廿四)。

官物及官中ノ物品ヲ盜メハ罰更ニ重キハ古ノ刑律ナリ。

○盜外印傳符 「凡ソ外印及傳符ヲ盜ム者ハ徒二年、餘印ハ杖一百、畜産ノ印ハ杖八十(廿五)。

○盜詔書 「凡ソ詔書ヲ盜ム者ハ徒二年、官文書ハ杖一百、要害文書ハ一等ヲ加フ(廿六)。

要害文書トハ徒罪以上ノ獄案、婚姻良賤ノ文書、勳賞、黜陟、授官、除免ノ文書ノ類ナリ。

○盜節刀 「凡ソ節刀ヲ盜ム者ハ徒三年、宮殿門庫藏及倉廩築紫城等ノ鑰ハ徒一年、宮城、京城、及官厨ノ鑰ハ杖一百、公廨及國厨等ノ鑰ハ杖六

十、諸門ノ鎗ハ答五十(廿七)。

○盜禁兵器「凡ソ禁ノ兵器ヲ盜ム者ハ徒一年半、弩具裝ハ徒二年、若盜罪輕ケレハ私造ノ法ニ同シ、餘ノ兵器及幡幟儀仗ヲ盜ム者ハ凡盜ニ一等ヲ加フ、若宮殿守衛ノ兵器ヲ盜ム者ハ又各、一等ヲ加フ、即チ軍ニ在リ及宿衛シテ相盜ミ還リテ官用ニ宛ツル者ハ各、二等ヲ減ス(廿八)。

○盜毀佛像「凡ソ佛像ヲ盜毀スル者ハ徒三年、即チ僧尼佛像ヲ盜毀スル者ハ近流、菩薩ニ非サルハ一等ヲ減ス、盜テ而シテ供養スル者ハ杖八十(廿九)。

○發塚「凡ソ塚ヲ發ク者ハ徒三年、己ニ棺槨ヲ開ク者ハ遠流、發シテ而シテ未タ撤セサル者ハ徒二年、其ノ塚先ツ穿チ、及未タ實セスシテ屍柩ヲ盜ム者ハ徒一年半、衣服ヲ盜ム者ハ一等ヲ減ス、器物ハ盜ヲ以テ論ス(三十)。

○盜山陵内木「凡ソ山陵内ノ木ヲ盜ム者ハ杖一百、草ハ三等ヲ減ス、若他人ノ墓塋内ノ樹ヲ盜ム者ハ杖七十(卅一)。

○盜官私馬牛殺「凡ソ官私ノ馬牛ヲ盜ミ而シテ殺ス者ハ徒二年半(卅二)。

馬牛ハ軍國ノ所用ナルカ故ニ餘畜ト法規ヲ異ニシタルモノナリ。以上數條ノ盜犯ニ於テハ先ツ罪名ヲ定メ、減罪スヘキハ則チ減罪シ、若凡盜ヨリモ輕キトキハ贓物ノ多少ニ依リ罪ヲ數ヘ、重ケレハ凡盜ヲ以テ論シテ一等ヲ加フルヲ法トス(本文三十三ニ依ル)。

○強盜「凡ソ強盜ハ財ヲ得サレハ徒二年、一尺ハ徒三年、二端ニ一等ヲ加フ、十五端及人ヲ傷ツル者ハ絞、人ヲ殺ス者ハ斬、其ノ杖ヲ持スル者ハ財ヲ得スト雖遠流、十端ハ絞、人ヲ傷クル者ハ斬(卅四)。

強盜ハ威若ハ力ヲ以テ其ノ財ヲ取ルヲ云フト註ニ見エタリ。

○竊盜 「凡ソ竊盜ハ財ヲ得サレバ笞五十、一尺ハ杖六十、一端ニ一等ヲ加フ、五十端ハ加役流〔卅五〕。

○故燒入舍屋 「凡ソ故サヲ人ノ舍屋及積聚ノ物ヲ燒キ而シテ盜ム者ハ燒ノ所ノ減價根減格ヲ計リ賊ニ併セ、強盜ヲ以テ論ス〔卅六〕。

○恐喝取人財物 「凡ソ恐喝シテ人ノ財物ヲ取ル者ハ盜ニ准シテ論シ一等ヲ加フ、畏忌スルニ足ラスト雖財主懼レテ自ラ與フレハ亦同シ、若財未々入ラサル者ハ杖六十、即チ五等以上ノ親自ラ相恐喝スル者尊長ヲ犯セハ凡人ヲ以テ論シ、卑劣ヲ犯ス者ハ本法ニ依ル〔卅七〕。

○本以他故毆人奪物 「凡ソ本ト他ノ故ヲ以テ人ヲ毆撃シ因テ其ノ財物ヲ奪フ者ハ賊ヲ計リ強盜ヲ以テ論ス、死ニ至ル者ハ加役流、因テ竊盜スル者ハ竊盜ヲ以テ論シ一等ヲ加フ、若殺傷アラハ各故闘ノ法ニ從ル〔卅八〕。

○盜五等親財物 「凡ソ五等親ノ財物ヲ盜ム者ハ凡人ニ一等ヲ減ス、四等以上ハ遞一等ヲ減ス、殺傷スル者ハ各、本殺傷ニ依リ論ス、若規求スル所有リテ故サヲ二等以下ノ卑幼ヲ殺ス者ハ絞〔卅九〕。

○卑幼將人盜 「凡ソ同居ノ卑幼人ヲ將テ己カ家ノ財物ヲ盜マシムル者ハ私輒財物ヲ用井ルヲ以テ論ス、他人ハ常盜ノ罪ニ一等ヲ減ス、若殺傷アル者ハ各、本法ニ依ル、他人殺傷シ縱ヒ卑幼情ヲ知ラサルモ仍ホ本殺傷ノ法ニ從リ之ニ坐ス〔四十〕。

○因盜而過失殺傷人 「凡ソ盜ニ因リ人ヲ過失殺傷スル者ハ鬪殺傷ヲ以テ論ス、死ニ至ル者ハ加役流、其ノ共盜シ、臨時殺傷アル者ハ強盜ヲ以テ論ス、同行シテ殺傷ノ情ヲ知ラサル者ハ止メ竊盜ノ法ニ依ル〔四十一〕。

○以私財奴婢貿易官物 「凡ソ私ノ財物、奴婢畜產ノ類ヲ以テ官物ヲ買

易スル者ハ其ノ等ヲ計リ盜ニ准シテ論シ、利スル所ヲ計リ盜ヲ以テ論ス(四十二)。

○山野物已加功力「凡ソ山野ノ物已ニ功力ヲ加ヘ刈伐積聚シテ而シテ輒取スル者ハ各、盜ヲ以テ論ス」。

○共盜併贓論「凡ソ共盜スル者ハ贓ヲ併セテ論ス、造意及從行シテ而シテ分ヲ受ケス、即チ分ヲ受ケテ而シテ行カス、各、本首從ノ法ニ依ル若造意者ニ於テ行カス又分ヲ受ケサレハ即チ行人ノ進止ヲ專ラニスル者ヲ以テ首ト爲シ、造意者ハ從ト爲シ、死ニ致スヘキハ一等ヲ減ス、從者行カス又分ヲ受ケサレハ答四十、強盜ハ杖八十、若本ヨリ同謀セスシテ相遇ヒテ共ニ盜メハ臨時進止ヲ專ニスルモノヲ以テ首ト爲シ、餘ハ從坐ト爲ス、主家人奴婢ヲ遣リテ盜ム者ハ物ヲ取ラスト雖仍ホ首ト爲ス、若盜ヲ行フノ後情ヲ知リテ財ヲ受クレハ強盜竊盜并

ニ竊盜ノ從ト爲ス(四十九)。

「贓ヲ併セ論ス」トハ例ヘハ十人アリ相共ニ十端ヲ盜ミ一人分當一端ヲ得ルモ各自ノ罪ハ尙ホ十端ヲ以テ計ルヲ云フ。「本首從ノ法ニ依ル」トハ造意者即チ發企者ハ從行シナカラ分ヲ受ケス又ハ行キ而シテ分ヲ受ケサルニ拘ラス首ト爲シ、其ノ他ヲ悉ク從ト爲スヲ云フ。

○共謀強盜不行「凡ソ共ニ強盜ヲ計ル者臨時行カス、而シテ行ク者竊盜ニ共謀スル者分ヲ受クレハ即チ贓物ヲ分取スレハ造意者ハ竊盜ノ首ト爲シ餘ハ並ニ竊盜ノ從ト爲ス、若分ヲ受ケサレハ造意者ハ竊盜ノ從ト爲ス、餘ハ並ニ答五十、若共ニ竊盜ヲ計リ、臨時行カスシテ而シテ行ク者強盜セハ其ノ行カサル者造意シテ分ヲ受ケタルハ情ヲ知ルモ情ヲ知ラサルモ並ニ竊盜ノ首ト爲シ、造意者ノ分ヲ受ケス、及從者ノ分ヲ

受ケタルハ俱ニ竊盜ノ從ト爲ス(五十)。

○盜經斷後三犯 「凡ソ盜斷テ經テ後仍ホ更ニ盜ヲ行ヒ前後三々ヒ徒ヲ犯ス者ハ近流三々ヒ流ヲ犯ス者ハ絞、其ノ親屬相盜ム者ハ此ノ律ヲ用井ス(五十一)。

「斷テ經テ」トハ一度處刑セラレタルヲ云フ、註ニ依ルニ止マ赦後ノ犯數ヲ計ルノミ、赦前ノモノハ算セス。

○公取竊取皆爲盜 「凡ソ盜ハ公取竊取皆盜ト爲ス(五十二)。

注ニ依ルニ公取トハ例ヘハ牛馬ノ如ク所有者ハアルモ一處ニ定存セスシテ放逸飛走スル物ヲ取ルヲ云ヒ竊取ハ闌園繫閉ノ屬ヲ盜ムヲ云フ。

○部內客止盜者 「凡ソ部內ニ一人盜ヲ爲ス者アリ、及盜者ヲ客止セハ里長答四十、三人ニ一等ヲ加フ、郡內ニ一人アラハ答廿、四人ニ一等ヲ

加フ、國ハ所管ノ郡ノ多少ニ隨ヒ通計シテ罪ヲ爲ス、各、罪徒二年半ニ止マル、強盜ハ各、一等ヲ加フ。

註ニ依レハ坊長モ亦里長ニ同シ、即チ郡內ニ於テ一人盜ヲ行フ者ヲ出タセハ郡領ニ於テ此ノ罪ニ當ルナリ、坊令モ亦同シ、國ハ例ヘハ五郡所管ノ國守ハ盜五人ニ答廿ニシテ廿人ニ一等ヲ加フルノ割合ナリ。里長郡令國守ノ盜發スルノ爲ニ罪ヲ受クルコト徒二年半ヲ最上限ト爲ス、而シテ強盜ヲ出シタル場合ハ里長ハ答五十、郡令ハ三十ナリ、國守之ニ準ス。註ニ曰「官長今云フ首ト成リ佐職從ト爲ルト。

「即チ盜ミ、及盜發シ人ヲ殺シテ後三十日ニシテ捕獲セハ主司各、論スル勿レ、限外ニ能ク捕縛セハ追テ三等ヲ減ス、若軍役ニ犯ス所アレハ隊正以上上殺以下部內征人冒名ノ法ニ准シ國郡ト同シク罪ヲ爲ス、

〔五十三〕。

注ニ依レハ所管部内ヨリ盜ヲ行フ者出テ、又ハ部内ノ人他郷ノ人ヲ殺シ、又ハ他郷ノ人ノ爲ニ殺サレタルトキ、事發スルノ後三十日以内ニ其ノ罪人ヲ捕縛スルコトヲ得タルトキハ、其ノ里長郡令又ハ國守ニ於テ自ラ捕縛シタルト餘人ニ於テ之ヲ捕縛シタルトテ問ハス其ノ罪ヲ論セサルナリ。又三十日經過ノ後タリトモ捕縛スルコトヲ得タルトキハ、既ニ刑ノ執行中ニ在リトモ三等ヲ追減スルナリ、然レトモ捕亡律ノ規程ニ依リ已ニ奏決ヲ經タルモノハ追減ノ例ニ在ラス。

(六)略人及和誘和同ノ罪

○略人略賣人、凡ソ人ヲ略シ、人ヲ略賣シテ奴婢ト爲ス者ハ、遠流、家人ト爲ス者ハ徒三年、妻妾子孫ト爲ス者ハ徒二年半、未ダ得サレハ各、囚

等ヲ減ス、和誘スル者ハ各、一等ヲ減ス、若和同シテ相賣リ奴婢ト爲ス者ハ徒三年(四十四)。

和セサルヲ略トス十歳未滿ハ和スト雖尙ホ略ヲ以テ論ス。○和同シテ相賣リトハ賣人ノ法禁ヲシテ爲ノ計策ナリ、即チ賣ル者ト賣ラル、者ト相謀リテ賣人ノ禁ヲ犯スナリ。

○略和誘奴婢、凡ソ奴婢ヲ略スル者ハ強盜ヲ以テ論シ、和誘スル者ハ竊盜ヲ以テ論ス、各、罪中流ニ止マル、則チ奴婢別ニ財物ヲ贖ラヌモノハ自ラ強竊ノ法ニ從ヒ累ネテ科スルヲ得ス。

若奴婢ヲ奪フト同時ニ其ノ奴婢ノ身ニ付キタル衣服及其ノ他ノ財物ヲ取ルモノハ此ノ財物ニ對スル竊盜強盜ノ罪ヲ以テ論シ、奴婢ノ身ヲ以テ財物ニ併セ科セサルナリ、即チ畧ニ因ルモノハ一尺ニ徒三年、二端ニ一年ヲ加ヘ和諭スル者ハ一尺ニ杖六十、一端ニ一



等ヲ加フルナリ。

「若逃亡ノ奴婢ヲ得官ニ送ラスシテ賣ル者ハ和誘ヲ以テ論ス、藏陰スル者ハ一等ヲ減シ之ニ坐ス、即チ私ニ奴婢ニ從ヒ子孫即チ奴婢子孫ヲ買ヒ及乞ヒ取ル者ハ盜ニ准シテ論ス、乞ヒ賣ル者ハ與ニ同罪卅五」。

按スルニ奴婢ハ人ノ私有ニシテ親子ノ緣故アルモ所有權ノ移轉ニ從ヒ子ハ必スシモ親ニ從フコトヲ得ス、甲ノ主人奴婢ヲ乙ノ主人ニ賣ルニ當リテモ其ノ奴婢ノ子ハ尙ホ甲ノ所有權ニ屬ス、然レトモ既ニ親ヲ買ヒ得タル乙ハ親子ノ緣ニ從ヒテ其ノ子ヲ取リ又ハ乞ヒ買フハ最モ平易ナル手段ナルヲ以テ律ニ此ノ一條ヲ設ケ以テ所有權ヲ保護シタルモノナリ、乞ヒ買フトハ所有主ニ於テ賣ルノ意ナキモノヲ強ヒテ買フヲ云ヒ乞ヒ賣ルトハ親ノ賣主ニ於テ買フノ意ナキニ強ヒテ買ハシムルヲ云フ。

○賣ニ等卑幼及兄弟孫外孫「凡ソ二等ノ卑幼及兄弟孫外孫ヲ賣リテ奴婢ト爲ス者ハ各一等ヲ減ス、其ノ餘親ヲ賣ル者ハ凡人和略ノ法ニ從ル四十六」。

二等卑幼トハ弟妹若ハ兄弟ノ子ヲ謂フ、疏ニ曰其ノ妻妾ヲ賣リテ婢ト爲ス者ハ是レ二等ナリト雖之ヲ卑幼ト同フスヘカラス、唯ダ彼ノ餘親ト同シク凡人和略ノ法ニ從ルヘシト

○知略和誘和同相賣「凡ソ略和誘和同ヲ知リテ相賣リ及奴婢ヲ略シ和誘シテ之ヲ買フ者ハ各賣ル者ノ罪一等ヲ減ス、」

「祖父母父母子孫ヲ賣ルヲ知リテ買フ者ハ各賣ル者ノ罪ニ一等ヲ加フ四十七」。

略シ和誘シ和同シテ相賣ル等ノ情ヲ知リテ故意ニ之ヲ買フ者ハ各前條ニ准シ賣者ノ罪ニ一等ヲ減シ論スルナリ。

疏ニ曰、展轉情ヲ知リテ而シテ買フ者ハ各、始メ買フ者ト同シト。  
又曰、買フ時知ラスト雖後ニ知リテ而シテ言ハサレハ又情ヲ知ル  
ヲ以テ論スト。

祖父母父母ノ子孫ヲ賣ルヲ知リテ買フ者ノ罪ニ限り賣ル者ヨリ  
一等重ク爲シタルハ是レ其ノ事ノ性質ニ於テ一層不善ナルノ故  
ニ非ス、賣者即チ祖父母父母ノ子孫ヲ得ルハ一等尊屬ノ卑幼ヲ賣  
ルコトナルヲ以テ元來其ノ罪ヲ平均ヨリモ輕クシタルト情ヲ知  
リ買フ者ニ至リテハ平均ヨリモ輕クスヘキ理由ナキニ因ル。

○知略和誘強竊盜、凡ソ略、和誘及強盜、竊盜ヲ知リテ而シテ分チ受ク  
ル者ハ各、受クル所ノ賊ヲ計リ竊盜ニ准シテ論シ、一等ヲ減ス。

「盜賊ヲ知リテ故サテ買フ者ハ賊ニ坐シテ論シ、一等ヲ減ス、知テ而シ  
テ爲ニ藏ス者又一等ヲ減ス(四十八)。」

例ヘハ人アリ強盜ト知り、布五端ヲ受ケタル者ハ竊盜ノ一等ヲ減  
シ杖九十二合ス

第十六章 厩庫律

○牧馬牛 凡ソ牧馬牛、除ク所ニ准ヌル外、死失シ、及課ニ充タサル者ハ二牧子ニ答廿、三ニ一等ヲ加フ。

○驗畜産不以實。凡ソ畜産ヲ驗ヌルニ實ヲ以テセサル者ハ一ニ答廿、三ニ一等ヲ加フ、罪杖一百ニ止マル、若故ヲ以テ價ニ増減アレハ賊重キ者ハ増減スル所ヲ計リ、賊ニ坐シ論ス、己レニ入ル者ハ盜ヲ以テ論ス。

○受官腐病畜産 凡ソ官ノ腐病畜産ヲ受ケ養療法ノ如クナラサレハ答廿、故ヲ以テ死ニ致ス者ハ一ニ答卅、四ニ一等ヲ加フ、罪杖六十ニ止マル。

○應乘官牛馬 凡ソ官ノ牛馬乘スヘキモノ私ニ物ヲ駄スルコト十斤

ヲ過クルヲ得ス、違フ者ハ五斤ニ答十、十斤ニ一等ヲ加フ、罪杖六十ニ止マル、其ノ車ニ乘スル者ハ三十斤ニ過クルヲ得ス、違フ者ハ十斤ニ答十、二十斤ニ一等ヲ加フ、罪杖八十ニ止マル。

○乘駕官馬牛 凡ソ官ノ馬牛ニ乘駕シ而シテ脊破レ領穿テハ創三寸ニ答廿、五寸以上ニ答五十、若放飼シテ瘦ヌル者ハ一分ヲ計リテ坐ヲ爲シ、一分ハ答廿、一分ニ一等ヲ加フ、即チ十ニ滿ヌサレハ一ニ答卅、一ニ一等ヲ加フ、各罪杖一百ニ止マル。

○畜産噬犬 畜産及噬犬、人ヲ舐キ蹄リ嚙アリテ而シテ幪幪羈絆法ノ如クナラス、若クハ狂犬殺サル、者ハ答三十、故ヲ以テ人ヲ殺傷ヌル者ハ過失ヲ以テ論ス、若故サヲ放テ人ヲ殺生セシムレハ闘殺傷ニ一等ヲ減ス。

雜令ニ依ルニ畜産人ヲ舐ク者ハ兩角ヲ截シ、人ヲ踢ル者ハ之ヲ絆

シ、人ヲ鬻ム者ハ兩耳ヲ截ス、此レ標幟羈絆ノ法ト爲ス法書至要抄中卷四十七  
 ○故殺官私馬牛「凡ソ私ノ馬牛ヲ故殺スル者ハ徒一年、贓重ク及餘ノ  
 產畜ヲ殺シ若クハ傷クル者ハ減價ヲ計リ盜ニ準シ論ス、各、減スル所  
 ノ價ヲ償ハシム、價減セサル者ハ答廿、其ノ過殺傷ハ坐セス、但シ其ノ  
 減價ヲ償ハシム、主自ラ牛馬ヲ殺ス者ハ杖一百」。

疏ニ曰「贓重ク」トハ贓ヲ計リテ罰ヲ算スレハ一年ノ徒ヨリ重キヲ  
 云フ、假令ハ馬直布十端ナルモノヲ殺サハ盜ニ準シ一年半ノ徒ニ  
 處スルナリ。「減價ヲ計リ盜ニ準シ論ス」ハ殺傷ノ爲ニ損減シタル  
 分ノ價格ヲ計リ盜ニ準シ論スルナリ。  
 注ニ曰「血ヲ見、踣跌スレハ則チ傷ト爲ス、傷重クシテ五日内ニ死チ  
 致ス者ハ、殺罪ニ從テ論ス、疏ニ云「血ヲ見レハ傷處ノ多少ニ限ラス、  
 但シ血ヲ見即坐踣跌シ、血ヲ見スト雖骨節踣跌ス亦即チ傷トナス。」

○殺五等以上親馬牛「五等以上ノ親ノ馬牛ヲ殺ス者ハ主自ラ殺スト  
 同シ、餘畜ヲ殺ス者ハ贓ニ坐シテ論ス、罪杖六十ニ止マリ、各其ノ減價  
 ヲ償フ同上四。

「官私ノ畜產ヲ放チ、官私ノ物ヲ損食セシムレハ答二十、贓重ケレハ贓  
 ニ坐シ論ス、失即チハ二等ヲ減シ、各、損スル所ヲ償フ、若官畜官物ヲ損  
 セハ坐シテ而シテ償セシメス」。

○官私畜產毀食官私之物「官私畜產官私ノ物ヲ毀食シ、登時即チ現殺  
 傷セハ各、故殺生ニ二等ヲ減シ、減スル所ノ價ヲ償ハシム、畜生ハ毀ス  
 所ヲ備フ即チ還ス」。

今按スルニ大寶律中馬牛ノ爲ニ故サテ一章ヲ設ケタルハ、唐律ヲ  
 摸倣スルニ因ルト雖亦本邦ノ上世ニ於テ特ニ牛馬ヲ貴重スヘキ  
 兵備上若クハ經濟上ノ理山アリシニ因ル所ナキヲ得ス。

○監臨主守私自貸「凡ソ監臨主守官物ヲ以テ私ニ自テ貸リ若ハ人ニ貸シ及之ヲ貸ル者ハ文記ナケレハ盜ヲ以テ論シ、文記アレハ盜ニ准シ論ス、判案ヲ立テ二等ヲ減ス。

此ノ以下ハ庫倉ニ關ル罰例ナリ。

○財物安置不如法「凡ソ財物ヲ安置スル法ノ如クナラス、若ハ曝涼時ヲ以テセス損敗ヲ致ス者ハ損敗スル所ヲ計リ贓ニ坐シ論シ、二等ヲ減ス。」

○放散官物「凡ソ官物ヲ放散スル者ハ贓ニ坐シテ論ス、物在リ官ニ還リ、已ニ散用セハ徵スル勿シ。」

○應輸課稅詐匿不輸「凡ソ輸フ應キノ課稅及官ニ入ルノ物ニシテ廻避詐匿シテ輸セス、或ハ巧ニ濕惡ナリト偽ル者ハ關ク所ヲ計リ、盜ニ准シテ論ス。」

○有所輸及出給留難「凡ソ輸ヒ及出給スキ所アリテ受給ノ官故ナク留難シ、受ケス給セサル者ハ一日ニ管卅、二日ニ一等ヲ加フ、罪杖一百ニ止マル。」

○官物有印封擅開「凡ソ官物印封アリ、主典擅ニ開ケハ管四十。」

第十七章 擅興律

○擅發兵 「擅ニ兵二十人以上ヲ發セハ杖一百五十人ハ徒一年五十人ニ一等ヲ加フ若逃亡ノ盜賊アリテ權リニ人夫足ヲ差シ以テ追捕シ及公私ノ田獵ニハ此ノ律ヲ用井ス」。

「私ニ禁兵器ヲ有スル者ハ徒一年」。

此ノ一條ハ後ニ屢詔勅ヲ以テ其ノ効力ヲ補ヒタル所ニシテ封建以後ノ形勢ト比較セハ發明スル所アルヘシ。彈正式ニ本條ヲ解釋シテ曰「刀子長サ五寸以上ハ輒テ帶スルコトヲ得ス但シ衛府ハ之ヲ聽スト。然ルニ此ノ式ノ行レ難カリシヲ以テ孝謙天皇天平勝寶九年六月九日更ニ勅シテ曰「一ニ武官ヲ除キ以外ハ京裏兵ヲ持スルヲ得ス勅書前已ニ施行ス然レトモ猶ホ止マヌ宜シク所司

ニ告ケ堅ク斷禁ヲ加フベシト」。

○連接寇賊 「前若寇賊ニ連接シ遣サレテ斥候シ賊來ルヲ覺ラサル者ハ徒二年」。

○主司役防人衛士 「前若主司防人衛士ヲ役スルニ理ヲ以テセス逃走ヲ致ス者ハ一人ニ答三十三人ニ一等ヲ加フ」。

第十八章 鬪爭律

○於宮内悉爭 「宮内ニ於テ悉爭スル者ハ笞五十、聲御在所ニ徹シ及相  
毆ツ者ハ杖一百、刃ヲ以テ相向フ者ハ徒二年、殿内ハ一等ヲ加フ、傷重  
キ者ハ各鬪傷ニ二等ヲ加フ。」

疏ニ云、大極等ノ門ヲ殿門ト爲スト。

○鬪毆人 「人ヲ鬪毆スル者ハ笞三十、傷キ及他物ヲ以テ人ヲ毆ツ者ハ  
杖六十、傷及髮方寸以上ヲ拔ケハ杖八十、若血耳目ヨリ出テ及内損吐  
血スル者ハ各二等ヲ加フ。」

毆ハ手足ヲ以テ撃ツヲ謂ヒ、血ヲ見ルヲ傷ト爲シ、他物トハ手足ニ  
非ス又兵刃ニ非サル各物ヲ云フ。

「凡ソ人ヲ鬪毆シ、齒ヲ折リ、耳鼻ヲ決シ、一目ヲ眇シ、及手足ノ指ヲ折リ、

若クハ骨ヲ破リ、湯火人ヲ傷クル者ハ徒一年、二齒二指以上ヲ折リ及  
髮ヲ髡スル者ハ徒一年半。」

○鬪毆折跌人支体 「凡ソ鬪毆シテ人ノ支体ヲ折跌シ、及其ノ一目ヲ害  
スル者ハ徒三年、羣内ニ平復スル者ハ各二等ヲ減ス、餘條ノ折跌平復  
之ニ準ス。」

支ヲ折ルハ骨ヲ折ルナリ、體ヲ跌スルハ骨節差蹴シテ常處ヲ失ス  
ルナリ、羣トハ平復ヲ待ツノ日限ヲ謂フ、即チ下條ニ明ナリ。

「即チ二事以上ヲ損シ二種以上ノ損傷及舊患ニ因リ篤疾ニ至ラシメ  
若クハ舌ヲ斷チ、及人ノ陰陽ヲ毀敗スル者ハ遠流。」

○鬪毆殺人 「凡ソ鬪テ人ヲ毆殺スル者ハ絞、亦チ以テシ及人ヲ故殺ス  
ル者ハ斬、鬪ニ因ルト雖兵刃ヲ用ヰル者ハ故殺ト同シ。」  
鬪爭ニ因ルニ非ス事ナクシテ殺スチ故殺ト云フト注セリ。

○保辜 「凡ソ保辜ハ手足ヲ以テ人ヲ毆傷スレハ十日ヲ限り、他物ヲ以テ毆傷スレハ廿日、刃及湯火ヲ以テ傷タル者ハ卅日、支體ヲ折跋シ及骨ヲ破ル者ハ五十日、限内ニ死スレハ各、人ヲ殺スニ依リ論ス、其ノ限外ニ在リ、及限内ニ在リト雖他ノ故ヲ以テ死スル者ハ本毆傷ノ法ニ依ル。」

注ニ云、他ノ故トハ別ニ餘患ヲ増シテ死スル者ヲ謂フ。

○戲殺傷人 「凡ソ戲レテ人ヲ殺傷スル者ハ闘殺傷ニ二等ヲ減ス。」

即チ戲殺ハ徒三年ナリ、戲傷ハ徒二年ナリ。

○過失殺人 「凡ソ過失人ヲ殺傷スル者ハ各、其ノ狀ニ依リ贖ヲ以テ論ス。」

過失ナルヲ以テ徒流死ノ嚴罰ニ當テス、其ノ罰ニ準シ贖ヲ許スハ合理ノ處分ナリトス、贖ノ割合ハ管十ニ銅一斤、廿ニ三斤、三十ニ三

斤、四十ニ四斤、五十ニ五斤ナリ、杖六十ニ六斤、七十ニ七斤、八十ニ八斤、九十ニ九斤、一百ニ十斤ナリ、徒一年ニ廿斤、一年半ニ三十斤、二年ニ四十斤、二年半ニ五十斤、三年ニ六十斤ナリ、近流ニ一百斤、中流ニ一百二十斤、遠流ニ一百三十斤ナリ、絞罪斬罪ハ共ニ二百斤ナリ、獄令ニ贖銅ヲ出ヌスヘキ日限ヲ定メテ曰、贖死刑ハ八十日ヲ限り、流ハ六十日、徒ハ五十日、杖ハ四十日、管ハ三十日、若故ナクシテ限ヲ過キ輸ハサル者ハ赦ニ會フトモ免サスト。贖銅ハ之ヲ被害者ノ家ニ給ス、但シ僧尼ハ元ヨリ財物ヲ蓄フルコトナシ、故ニ贖ヲ取ラズ放免ス。(法曹至要抄說)

○晉祖父母父母 「凡ソ祖父母父母ヲ晉ル者ハ徒三年、祖父母父母ヲ毆ツ者ハ字<sup>欠</sup>若子孫教令ニ違犯シ而シテ祖父母父母毆殺スル者ハ徒一年半、刀ヲ以テ殺ス者ハ徒二年、故サラ殺ス者ハ各一等ヲ加フ、即チ發



父母殺ス者ハ又一等ヲ加フ、過失殺ス者ハ各論スル勿レ。  
父祖ヲシテ子孫ニ對シ殆ト生殺ノ權アラシメタルハ古今法制ノ  
相異ナル所ナリ。

○毆傷家人「凡ソ家人ヲ毆傷スル者ハ凡人ノ一等ヲ減シ、奴婢又一等  
ヲ減ス」。

○奴婢有罪主殺「奴婢罪アリ、其ノ主官司ニ請ハスシテ殺ス者ハ杖八  
十、罪無クシテ殺ス者ハ杖一百、家人ハ各、皆一等ヲ加フ、過失殺ハ各論  
スル勿レ」。

○拒國郡以上使「凡ソ國郡以上ノ使ヲ拒スル者ハ杖六十」。

國郡以上ト云ヘハ京師ノ諸省ヲ包含セリ、但シ詔使ニ拒スルハ八  
虐ノ一ニシテ本條ノ適用スル所ニ非ス。

○投匿名書「凡ソ匿名ノ書ヲ投シテ人ノ罪ヲ告クル者ハ徒三年、書ヲ

得タル者ハ即チ之ヲ焚ケ、若官司ニ持送セハ杖一百、官司受ケテ而シ  
テ理ヲ爲ス者即チ受理者ハ二等ヲ加フ、被告者ハ坐セス、即チ上聞スル  
者ハ徒二年半」。

上聞トハ匿名誣告ノ書ヲ天子ニ上ルヲ云フ。

○誣告人「凡ソ人ヲ誣告セハ各反坐ス、即チ糺彈ノ官私ヲ挾ミテ事ヲ  
彈スル實ナラサルハ、又之ノ如クス」。

反坐トハ誣告者ヲシテ自ラ其ノ誣告シタル所ノ罪ニ對スル罰ヲ受  
ケシムルヲ云フ、注ニ云、反坐罪ヲ致スハ前人即チ誣告者罪ニ入ル  
ノ法ニ準ス、死ニ至リ而シテ前人未ダ決セサル者即チ死罪ニ當ル  
セサルモ決ハ一等ヲ減スルヲ聽ス即チ告發者其ノ本杖及贖ヲ  
加フヘキハ止マ杖贖ノ法ニ依ルト。

「被殺被盜ハ盜ト雖皆反坐セス」。

殺人盗犯ヲ告發スル場合ニハ假令事實ナラサルモ反坐セシメス。  
 ○監臨主司不舉劾「凡ソ監臨主司所部ニ法ヲ犯スモノ有ルヲ知リ舉劾セサルハ罪人ニ三等ヲ減ス。即チ同伍保内ニ家ニ在リテ犯スモノアリ、知テ而シテ糾サ、ル者ハ死罪ハ徒一年、流罪ハ杖一百、徒罪ハ杖七十、其ノ一家唯々婦女及男年十六以下ナル者ノミナレハ皆論スル勿レ。」  
 里長以上ノ有司其ノ管轄部内ニ律令格式ニ違犯スル者アルモ糾彈ノ緒ニ着カサルトキハ本犯罪者ノ罪ニ三等ヲ減シタルモノニ當テラル、ナリ。

○子孫違教令「凡ソ子孫教令ニ違反シ、及供養闕ケル有ル者ハ徒二年。」  
 說者云不孝ノ子財ニ預ル可カラズト。

○威力使人毆擊「凡ソ威力字欠人チシテ毆擊シメ而シテ死傷スル者ハ

手ヲ下マサスト雖猶ホ威力ヲ以テ重ト爲シ、下手ハ一等ヲ下ル。」

○家人奴婢過失殺主「凡ソ家人奴婢過失主ヲ殺ス者ハ絞、傷ケ及醫ル者ハ流、即チ主ノ五等ノ親ヲ毆テハ徒一年、傷重ケレハ凡人ニ一等ヲ加フ。」

○毆五等親「凡ソ五等ノ親家人奴婢ヲ毆テハ折傷以上ハ各、凡人奴婢殺傷ノ二等ヲ減ス。」

凡人ノ下「奴婢」二字恐クハ衍

○毆傷妻「凡ソ妻ヲ毆傷スル者ハ凡人ニ二等ヲ減ズ、死セハ凡人ヲ以テ論ス。」  
 凡人ヲ以テ論スレハ絞ナリ、刃ヲ以テシ及故殺ハ斬ナリ。

○妻毆夫「凡ソ妻夫ヲ毆テハ杖一百、妾ハ一等ヲ加フ。」

○毆兄弟「凡ソ兄弟ヲ毆ツ者ハ徒一年半、伯叔父姑、外祖父姑、外祖母

ハ各、一等ヲ加ス。

○妻妾、其夫之父母、凡ソ妻妾夫ノ父母ヲ辱ル者ハ徒三年。

○毆見受業師、凡ソ見ニ業ヲ受クルノ師ヲ毆テハ凡人ニ二等ヲ加フ、死セハ斬。

○知謀反及大逆不告、凡ソ謀反及大逆ヲ知ル者ハ隨近ノ官司ニ密告スヘシ、告ケサル者ハ絞。

○告小事、凡ソ小事ヲ告ケ、虚ニシテ而シテ獄官其ノ告ニ因リ檢シテ重及事等シキヲ得タル者、若ハ其ノ事ニ類スレハ則チ其ノ罪ヲ除ク、其ノ事ヲ離ルレハ則チ本誣ニ依リ論ス。

重及事等シキヲ得タル者トハ布ヲ盜ムト告ケ檢察シテ絹ヲ盜ミタルコトヲ發見スル如キヲ云フ、則チ告訴スル所ヨリモ更ニ重クシテ刑名ハ等シク盜犯ナルナリ、其ノ事ニ類ストハ甲家ノ馬ヲ盜

ムト告ケ、檢察シテ乙家ノ牛ヲ盜ミタルコトヲ發見シタル類ナリ、斯ク告クル所實ヨリモ重クシテ罪狀同一ナルカ又ハ類似ノ犯罪ナルトキハ反坐ヲ免スト、雖若檢察シテ得ル所全ク初メ告訴スル所ニ異ナルトキハ則チ反坐セシムルナリ。

第十九章 詐偽律

○偽造神璽 「凡ソ神璽ヲ偽造スル者ハ斬、内印ヲ造ル者ハ絞」。

○奏事上書 「事ヲ奏シ書ヲ上ルニ詐テ實テ以テセサル者ハ徒二年」。

○詐爲詔書 「凡ソ詐テ詔書ヲ爲ス者ハ遠流」。

說者云太上天皇ノ宣モ亦同シ。

○詐假與人官 「凡ソ字欠詐テ人官ヲ假與シ及假ヲ受クル者ハ近流、其ノ

法ニ於テ官タル應カラスシテ詐キテ官ヲ得ル者ハ徒二年」。

○詐爲官文書 「凡ソ詐テ官ノ文書ヲ爲ル者ハ杖一百」。

官ノ文書トハ符、移、解、牒ノ類ナリ。

○詐爲官私文書 「凡ソ詐テ官私文書ヲ爲リ、増減シ、以テ財貨ヲ求ムル者ハ盜ニ准シテ論ス」。

○詐爲官 「凡ソ詐テ官ヲ爲リ、及官ノ遣ス所ト稱シ人ヲ捕フル者ハ徒

二年」。

○詐欺官私以取財物 「凡ソ官私ヲ詐欺シ以テ財物ヲ取ル者ハ盜ニ準シテ論ス」。

○妄認良人 「凡ソ妄ニ良人ヲ認メテ奴婢家人妻妾子孫ト爲ス者ハ人ヲ畧スルヲ以テ論シ一等ヲ減ス、妄ニ家人ヲ認ムル又一等ヲ減ス、妄ニ奴婢及財物ヲ認ムル者ハ盜ニ准シテ論シ一等ヲ減ス」。

○詐偽瑞應 「凡ソ詐テ瑞應ヲ爲ル者ハ徒一年、若災祥ノ類アリ而シテ所司實ヲ以テ對ヘサレハ三等ヲ加フ」。

○醫違方詐療病 「凡ソ醫法ニ違ヒ詐テ病ヲ療シ而シテ財物ヲ取ル者ハ盜ニ准シテ論ス」。

○詐疾病 「凡ソ疾病ヲ詐ル者避クル所アレハ杖一百、若故サテ自身傷殘セハ徒一年、避ル所アリ避ル所ナキ等シ」。

○詐稱祖父母父母死「前若詐テ祖父母父母ノ死ヲ稱シテ假ヲ求メ及  
避クル所アル者ハ徒一年半。」

第二十章 雜律

○坐賊致罪 凡ソ賊ニ坐シ罪ヲ致スハ一尺ニ答十、一端ニ一等ヲ加フ、  
十二端ハ徒一年、十二端ニ一等ヲ加フ、罪徒三年ニ止マル、與ル者ハ五  
年ヲ減ス。

疏ニ與フ者トハ監臨主司ニ非スシテ事ニ因リ財ヲ受クル者ヲ云  
フトアリ。

○向官私宅射 凡ソ官私ノ宅ニ向ヒ若クハ道經ニ射ル者ハ答五十、彈  
ヲ放チ及瓦石ヲ投スルハ答三十、因テ人ヲ殺傷セハ各、鬪殺傷ニ一等  
ヲ減ス、若故サラ宅中ニ入ラシメ人ヲ殺傷シタル者ハ各、鬪殺傷ヲ以  
テ論ス、死ニ至ル者ハ加役流。

○醫爲人合藥不如本法 凡ソ醫人ノ爲ニ藥ヲ合ハシ、及題疏鍼刺誤テ

本方ノ如クナラスシテ人ヲ殺ス者ハ徒一年、其ノ故サラ本法ノ如ク  
セスシテ人ヲ殺傷スル者ハ故殺傷人ニ一等ヲ加フ、即チ賣藥本法ノ  
如クナラスシテ人ヲ殺傷スル者亦之ノ如シ。

○受寄財物輒費用 「凡ソ財物ヲ受寄シテ而シテ輒チ費用スル者ハ賊  
ニ坐シテ論シ一等ヲ減ス。」

受寄トハ預ルヲ云フ、賊ニ坐シ罪ヲ致スハ一尺ニ答十、一端ニ一等ヲ  
加フ十二端ニ徒一年、十二端ニ一等ヲ加フ、罪徒三年ニ止マルナリ。

○負債違約不償 「凡ソ負債契ニ違ヒ償セサルコト一端以上ニシテ廿  
日ヲ違フ者ハ答廿、廿日ニ一等ヲ加フ、罪杖六十ニ止マル、廿端ニ二等  
ヲ加ヘ、百端又三等ヲ加フ、各、備償セシム。」

疏ニ云、負債ハ出舉ノ物ニ非ス令ニ依テ理ニ合スルモノ或ハ公私  
ノ財物ヲ鬻負シ約ニ違ヒ期ニ乖リ償セサル者ヲ謂フト、即チ質入

シタルモノハ出舉納利ノ制ニ依ルヘク、本條ノ謂フ所ハ交易ニ於テ  
鬻負スルモノナリ。

○負債不告官司 「凡ソ負債官司ニ告ケスシテ財物ヲ強牽シ本契ニ過  
クル者ハ賊ニ坐シ論ス。」

○博戲賭財物 「凡ソ博戲ニ財物ヲ賭スル者ハ各、杖一百、賊重キモノハ  
各、己カ分ニ依リ盜ニ准シテ論ス。」

「賊重キ」トハ得ル所ノ財物ヲ賊トシテ論スルトキハ杖一百ヨリモ  
重キニ當ル場合ヲ云フ。

○姦者 「凡ソ姦スル者ハ徒一年、夫アレハ徒二年、強ハ各、一等ヲ加フ、官  
戸陵戸家人良人ヲ姦セハ各、一等ヲ加フ、官私ノ婢ヲ姦スル者ハ杖六  
十、他人及官戸陵戸ノ婦女ヲ姦スル者ハ杖七十。」

○姦父祖妾 「凡ソ父祖ノ妻ヲ姦スル者ハ徒三年、妾ハ一等ヲ減ス。」

○奴姦良人「凡ソ奴良人ヲ姦スル者ハ徒二年半、其ノ家人及奴ノ主ヲ姦スル者ハ絞、妾ハ一等ヲ減ス」。

○和姦「凡ソ和姦本條ニ婦女罪名ナキ者ハ男子ト同シ、強ハ婦女坐セス」。

○造器用之物「凡ソ器用ノ物及絹布ノ屬ヲ造リ、行濫短狹アリ而シテ賣ル者ハ各、杖六十、利賊ヲ得タル者ハ盜ニ准シ論ス」。

疏ニ曰、半ナラサル之ヲ行ト謂ヒ真ナラサル之ヲ濫ト云フ、即チ横刀及箭鏃ヲ造リ柔鐵ヲ用キル者之ヲ濫ト爲ス、注ニ曰、其ノ行濫ノ物即チ官ニ没シ、短狹ノ物ハ主ニ還ル」。

○買奴婢牛馬「凡ソ奴婢馬牛ヲ買ヒ、已ニ價ヲ過シテ即チ仕券ヲ立テ拂ヒテサル三日ヲ過クレハ管州、賣ル者ハ一等ヲ減ス、券ヲ立ツルノ後舊病アル者三日内ハ悔ヲ聽ス、病無ク欺ク者ハ市法ノ如クシ、違フ者ハ管

三十。

悔トハ買賣契約ヲ取消スヲ云フ。

○盜決堤防「凡ソ堤防ヲ盜決スル者ハ杖八十」。

堤防ヲ決シテ私ニ水ヲ取り使用スルノ罪ナリ。

○失火燒田野「凡ソ火ヲ失シ及時ニ非スシテ田野ヲ燒ク者ハ管五十、非時非ス」トハ三月一日以後十月卅日以前ヲ云フト注ニ見エタリ。

○於官府失火「凡ソ官府廡院及倉庫内ニ於テ火ヲ失スル者ハ官内ニ在リテハ二等ヲ加へ、間内、宮闕及大社ニ延燒セハ遠流」。

○故燒官府「凡ソ故サラ官府廡舍及私家舍宅若クハ財物ヲ燒ク者ハ徒三年、即チ故火シテ賊即チ故火シテ盜即チ故火シテミタルモノ五端ニ滿ツレハ近流、十五端ハ絞、人ヲ殺傷スル者ハ故殺傷ヲ以テ論ス」。

即チ當初ハ放火ヲ死刑ト爲サ、リシナリ、然レトモ後ニ寶龜四年

八月廿九日ノ官符ヲ以テ之ヲ死刑ニシタルヨリ今ニ至リ然リト爲ス、即チ曰「如シ行火盜賊ヲ捕獲シ勘當シテ實ヲ得ルアラハ宜シク衆ニ示シテ格殺シ、後惡ヲ懲スヘシト」。

○水火有所損敗「凡ソ水火損敗スル所アリ、故サテ犯ス者ハ償ヲ徵ス、誤失ハ坐セス徵セス」。

是レ水火ニ依リ損害ヲ官私ノ財産ニ及ホシタル場合ニシル故意ナレハ刑罰ノ外ニ賠償ノ義務ヲ付加スルモノナリ、然レトモ實ハ民事上ノ規程ニシテ律ニ屬スヘキモノニ非ス。

○於官私田園食菓實「凡ソ田園ニ於テ輒チ瓜果ノ類ヲ食セハ賊ニ准シテ論ス、棄毀スルモ亦之ノ如シ、即チ持去ル者ハ盜ニ准シ論ス、主司番人給與セハ與ニ同罪、強テ持去ル者ハ盜ヲ以テ論ス、主司即チ言フ者ハ坐セス」。

○棄毀官私物「凡ソ官私ノ物ヲ棄毀シ、樹木稼穡ヲ毀伐スル者ハ盜ニ准シテ論ス、官私器物ヲ棄毀亡失シ及誤テ毀ス者ハ各、償ヲ備ヘヨ、若強盜セラルレハ各、坐セス償セス」。

○得闕遺物不送官「凡ソ闕遺ノ物ヲ得官ニ送ラサル者ハ各、亡失ノ罪ヲ以テ論ス、私物ハ賊ニ坐シテ論シ、二等ヲ減ス」。

○違令「凡ソ令ニ違フ者ハ答五十」。  
禁制ニシテ律中ニ罰ノ制裁ナキモノニ違犯セハ皆此ノ條ヲ適用スルナリ、諸省ノ別式ニ違犯スル者ハ一等ヲ減ス、是レ今日ノ違警罪ノ本源ナリ。

○不應得爲而爲之「凡ソ爲スヲ得ヘカラスシテ之ヲ爲ス者ハ答四十、事理重キ者ハ杖八十」。

是レ概括シテ行政司法ノ諸官ガ命令ニ違背スルノ所爲ヲ懲罰ス



ル所以ナリ。

第廿一章 捕亡律

○隣里被強盜「凡ソ隣里強盜ヲ被ムリ及人ヲ殺スニ告ケテ而シテ救助セサル者ハ杖一百聞テ而シテ救助セサル者ハ一等ヲ減ス、力勢赴キ救フ能ハサル者ハ速ニ隨近ニ告ケヨ、若告ケサル者ハ亦救助セサルヲ以テ論ス、其ノ官司ノ即チニ救助セサル者ハ徒一年、竊盜ハ各、二等ヲ減ス」。

之ヲ按スルニ邑里隣居シ而シテ強盜ヲ被ムリ及人ヲ殺ス者アルトキハ皆速ニ告ケ、即チニ之ヲ救助スヘシ、若告ケテ而シテ救助セサル者ハ杖一百、ヌル可キモノナリ。

○主守不覺失囚「凡ソ主司覺ラスシテ囚ヲ失フ者ハ囚ノ罪二等ヲ減ス、若囚拒捍シテ走ル者ハ又二等ヲ減ス、皆一百日ノ追捕ヲ聽ス、限内

ニ自テ捕ヘ得レハ其ノ罪ヲ除ス、即チ外ヨリ捕ヘ得及囚已ニ死シ若クハ自首スル者ハ各、又追テ一等ヲ減ス、監ニ當ルノ官ハ各、主守ノ三等ヲ減ス、故サラニ縦ツ者ハ捕限ヲ給セス、即チ其ノ罪ヲ以テ之ヲ罰ス、未タ斷決セサル間能ク自ラ捕ヘ得ルカ及他人捕ヘ得ルカ若クハ囚已ニ死スルカ及自首スレハ各、一等ヲ減ス。

○知情藏匿罪人「凡ソ情ヲ知リテ罪人ヲ藏匿シ、若過テ資給ヲ致シ隱避セシムル者ハ各、罪人ノ罪一等ヲ減ス。」

注ニ云、藏匿ニ口限ナシ、過テ資給ヲ致スハ亦同シ、若卑幼藏匿匿狀已ニ成リ尊長知テ而シテ之ヲ聽セハ獨リ卑幼ヲ坐ス、家人奴婢首メニ隱シ、主後ニ知ル者ハ與ニ同罪、即チ尊長罪人ヲ匿シ、尊長死スルモ卑幼尙ホ匿ス者ハ五等ヲ減ス、尊長死スルノ後匿ヲ經ト雖已ニ遺去シテ事發シ、及相容隱スルコトヲ得ル者ノ侶ヲ藏クセハ罪

ニ坐セス、四等以下ノ親、亦減例ヲ同シクス、若赦前藏匿シテ而シテ罪人赦免ニ合ハス、赦後匿スコト故ノ如クナル者人罪アルヲ知ラス、容寄シテ後知テ而シテ匿クス者ハ皆坐スルコト律ノ如クス、其ノ展轉相使フテ而シテ罪人ヲ匿クシ情ヲ知ル者ハ皆坐ス、知ラサル者ハ論スル勿レ。又曰、罪人數罪アレハ止メ知ル所ニ坐ス。

○捕罪人「凡ソ罪人ヲ捕ヘントスルニ罪人伏ヲ持シ拒悞セハ其ノ捕フル者之ヲ格致ス、及走レハ逐フテ而シテ殺ス、若窘逼シテ自殺スル者ハ皆論スル勿レ、即チ空手拒悞スルヲ殺ス者ハ徒二年、已ニ拘執ニ就キ及拒悞セサル者ヲ殺シ、或ハ之ヲ折傷セハ各、鬪致傷ヲ以テ論ス、刃ヲ用井ル者ハ故致傷ノ法ニ從ル、罪人本犯ハ應サニ死スヘクシテ殺ス者ハ遠流、即チ捕フ者ヲ拒悞セハ罪一等ヲ加フ、傷ル者ハ鬪傷ニ二等ヲ加フ、殺ス者ハ斬ル。」

○被<sub>レ</sub>人毆擊「人ニ毆擊折傷セラレ、以上若ハ盜及強姦ハ傍人ト雖皆捕擊シテ以テ官司ニ送ルヲ得、若餘犯ハ言請セスシテ輒チ捕擊スル者ハ管州」。

即チ殺傷毆擊盜及強姦ハ傍人直ニ捕擊スヘシ、其ノ他ノ犯罪ニ至リテハ官司ニ言請シテ以テ處分ヲ竣ツヘキナリ。

○追捕罪人力不能制「凡ソ罪人ヲ追捕シテ而シテ力制スル能ハスシテ道路ノ行人ニ告クルニ其ノ行人能ク之ヲ助クルモ助ケサル者ハ杖八十、勢助<sub>レ</sub>クルヲ得サル者ハ論スル勿レ」。

○非亡而浮浪他所「凡ソ亡ニ非スシテ他所ニ浮浪スル者ハ十日ニ管十、罪杖一百ニ止マル、即チ官事アリテ還テサル亦此ノ如シ、資財ヲ營求シ及學官ハ各、論スル勿レ、賦役ヲ闕ク者ハ各、之ノ法ニ依ル」。

是レ古ノ浮浪者ナリ、即チ人民營業勉學ノ外ハ在籍ノ地ヲ離レテ

永ク他所ニ在ルコトヲ制シタルモノナリ。

○部内容止他界逃亡「凡ソ部内ニ他界ノ逃亡浮浪者一人ヲ容止シタルトキハ里長ハ管州十五日以上ヲ經レハ下」。

第廿二章 斷獄律

○囚應禁而不禁 「凡ソ囚禁ス應クシテ禁セス、枷紐肱禁結禁ス應クシテ枷紐肱禁結禁セス、及脱巾ハ杖罪ハ笞卅、徒罪以上ハ一等ヲ加フ、苦禁ス應カラスシテ禁シ、及枷紐肱禁結禁スヘカラスシテ枷紐肱禁結禁シタル者ハ杖六十」。

○囚應請給衣食醫藥而不給 「凡ソ囚衣食醫藥ヲ請給スヘクシテ請給セス、及家人ノ入視ヲ聽スヘクシテ聽サス、枷等ヲ脱去スヘクシテ脱セサル者ハ笞五十、故ヲ以テ死ニ致ス者ハ杖一百、即チ囚ノ食ヲ減竊セハ笞四十、故ヲ以テ死ニ致セハ加役流」。

○應議請減 「凡ソ議請ノ減ニ應シ、若クハ年七十以上十六及癘疾ナル者ハ并ニ拷訊スヘカラス、皆衆證ニ據リテ罪ヲ定ム、違フ者ハ故失ヲ

以テ論ス、其ノ律ニ於テ相容隱スルヲ得、即チ八十以上十以下及篤疾ハ皆其ノ證ト爲サシムルヲ得ス、違フ者ハ罪人ノ罪三等ヲ減ス」。

疏ニ云、其ノ律ニ於テ相容隱スルヲ得ト謂フハ同居若クハ三等以上ノ親及外祖父母孫若クハ孫ノ婦、夫ノ兄弟、及兄弟ノ妻及家人奴婢ハ主ノ爲ニ隱スヲ得、其ノ八十以上十歳以下及篤疾等其ノ刑ヲ加フルニ堪ヘサルヲ以テノ故ニ證ト爲スヲ許サス、若律ニ違ヒ遣證セハ犯罪者ノ罪ニ三等ヲ減スト。

○縱死罪囚 「死罪ノ囚ヲ縱ク、其ノ逃亡セシメ、後還リ捕フルコトヲ得、及囚已ニ身死シ、若クハ自首シ、應サニ死罪ヲ減スヘキハ、其ノ囚ヲ得、及死シ自首シタルノ處即チ使ヲ遣ハシ速ニ報スルヲ須チ應サニ之ヲ減スヘシ、所在驛處共ニ驛ヲ發シ之ヲ報セヨ、若使人ヲ警留シテ減スルヲ得サラシムル者ハ人ヲ罪ニ入レ、故サラ告スルヲ以テ論シ一

律獄斷章二十二第

等ヲ減ス。

之ヲ案スルニ囚ヲ逃レシムルノ罪ハ囚罪ノ輕重ニ隨フ、又故サテ  
縱ツ者ハ事重シ、失シテ逃ス者ハ事輕シ、形ニ隨テ流徒ニ處シ、或ハ  
散禁ニ處セシム、但シ囚ヲ失スレハ捕日限ヲ給スルコト前顯ノ如  
シ。

貞永式目

第廿三章 貞永式目總說

○一貞永式目ノ來歷 今傳フル所ノ貞永式目ハ、帝國史略ニ記ス  
ル如ク、鎌倉幕府ノ世ニ至リテ、政事ノ實權ハ將軍ニ移リ、北條氏執權ト  
ナリテ之ヲ行フニ當リ、律令ハ時勢ニ適セサルニ至リシヲ以テ、北條時  
房泰時等賴朝以來武家成敗ノ慣例ヲ集メ、傍ラ律令ニ參酌シテ編纂ス  
ル所ナリ。

東鑑廿八貞永元年五月十四日ノ條ニ、武州時泰政道ヲ專ニシ給フノ餘、御  
成敗ノ式條ヲ試ムルノ由日來内々沙汰アリ、今日已ニ之ヲ始メシメ給  
フ、中偏ニ玄蕃允康連ニ仰セ合サル、所ナリ、法橋圓全執筆マリ、是レ關  
東ノ諸人論訴ノ事兼日ニ法ヲ定メ置カル、モ幾ナラサル間時ニ於テ  
粹カキテ兩端ニ亘リ儀一揆ナラス、之ニ因リ其ノ法ヲ固メ濫訴ノ起ル所ヲ斷

ツ爲ナリトアリ、又八月十日ノ條ニ、武州造ラシメ給フ御成敗式目篇ヲ終ラル、五十箇條ナリ、今日以後論訴ノ是非ハ固ク此ノ法ヲ守リ裁判セラルヘキノ由定メラル云云トアリ。此ノ時ヨリ北條氏末世ニ至ルマテ武家ニ向ヒテハ專ラ此ノ法ヲ行ヒ又屢之ニ追加シタルモノヲ集メテ新編追加ト云フ、凡ソ三百六十一條アリ。北條氏亡ヒ足利氏ニ至リ、政治ノ規模ハ尙ホ鎌倉幕府ノ舊ニ依ルモノ多ク、貞永式目モ亦其ノ襲用スル所ト爲リ、屢追加シタル所ヲ以テ建武以來追加ト云フ、凡ソ二百十條アリ、而シテ織田氏豊臣氏ヲ經テ徳川氏ニ至リ、又法制ノ規模ヲ式目ニ取リタルハ、概シテ式目ハ我國封建時代ノ法律ノ基本ナリト謂フコトヲ得ヘキナリ。

○節貞永式目ノ組織 式目五十一條五十條ト云ハ非ナリハ、法律トシテ之ヲ天下ニ公布シタルニ非ス、是レ評定衆ノ記請ノ條々ナリ、評定衆トハ、

將軍カ總追捕使トシテ諸國ノ守護職ノ上ニ立チテ、天下ノ刑罰ヲ總督スルト、總地頭トシテ本補新補ノ地頭ノ上ニ立チテ、其ノ支配スル所ノ土地ニ關ル訴訟ヲ裁判スルトノ爲ニ設クル所ノ役員ナリ、即チ評定衆ニ於テ自ラ私曲ヲ避ケ、公平ニ就ク爲ニ五十一條ノ起請ヲ立テタルナリ、其ノ事ハ式目ノ末ニ載セタル起請文ニテ明ナリ、曰

「右愚暗ノ身了見ノ及ハサルニ依テ、若旨趣相違ノ事更ニ心ノ曲ル所ニ非ス、其ノ外或ハ人ノ方人ト爲リ、道理ノ旨ヲ知リナカラ無理ノ由ヲ稱申シ、又ハ非據ノ事ヲ爲シ證據在リト號シ、人ノ短ヲ顯サマランカ爲ニ子細ヲ知リナカラ善惡ヲ付シ、之ヲ申サ、レハ意ト事ト相違シ、後日ノ訛謬出テ來ラン歟、凡評定ノ間理非ニ於テハ親疎アルヘカラス、好惡アルヘカラス、只道理ノ推ス所、心中ノ存知、傍輩ヲ憚ラス權門ヲ恐レス、詞ヲ出ス可キナリ、御成敗事切ノ條々縱ヒ道理ニ違ハス

ト雖一同ノ憲法ナリ、誤テ非據ヲ行ナハルト雖一同ノ越度ナリ、自今以後訴人並其ノ縁者ニ相向ヒ自身ハ道理ヲ存スト雖傍輩ノ中其人ノ説ヲ以テ違亂ヲ致スノ由其ノ聞エアラハ、己レ一味ノ儀ニ非ストモ殆ト諸人ノ嘲ヲ貽サンモノ歟、兼テ又道理ナキニ依リ評定ノ庭ニ棄テ置カル、ノ輩越訴ノ時評定衆ノ中ヨリ一行ヲ書キ與フレハ自餘ノ計皆以テ無道ノ由獨リ之ヲ存セラル、ニ似タレリ、條々ノ子細此ノ如シ、若一事マリト雖曲折ヲ存シ遣ハシメタル者ハ梵天帝釋四大天王總テ日本國中六十餘州大小神祇殊ニ伊豆函根兩所ノ權現三島大明神八幡大菩薩天滿大自在天神部類眷屬神罰冥罰各罷リ蒙ムル可キ者ナリ、仍テ起請如件

貞永元年七月十日

此ノ下ニ沙彌淨圓、相模大椽藤原業時、玄蕃允三善康連、左衛門少尉藤原

朝臣基綱、沙彌行然、散位三善朝臣倫重、加賀守三善朝臣康俊、沙彌行西、前出羽守藤原朝臣家長、前駿河守平朝臣義村、攝津守中原朝臣師員、武藏守平朝臣泰時、相模守平朝臣時房ノ連署アリ。

○三節 貞永式目ノ法理 貞永式目ハ幕府ノ法律ナリ、故ニ公平ヲ旨トスル間ニ幕府權勢ヲ強固ニスルノ政略ヲ挾ミタリ。民事ニ於テハ

領地ニ關スル爭權ノ判決法ハ殊ニ十分ニ發達シタリ、然レトモ權利ヲ權利トシテ重スルカ故ニ發達ヲ來シタルニ非スシテ裁判ヲ公平精密ニスルトキハ自ラ幕府ニ甘從スル者多キニ因リ政略上ヨリ此ニ至リタルモノナリ。又賴朝ヨリ二位尼ニ至ルマテノ裁決ヲ得タル事件ハ理否ヲ問ハス、之ヲ改メサルカ如キハ、明ニ幕府ノ威光ヲ先ニシテ公平ヲ後ニスルモノナリ。當時天下莊園多ク其ノ領權ニ就キ訴訟起ルモ、京都ハ院政衰ヘテ執行ノ力ナカリシヲ以テ、人自ラ幕府ノ裁判ニ依賴ス

ルニ至リタリ。又刑事ニ於テ嚴密ナル規程ヲ設ケタルモ守護地頭ヲシテ非違ヲ檢斷セシムルノ職權ニ由リ幕府ノ權力ヲ普ク各地方ニ及ホサンカ爲ナリ、而シテ謀叛ノ爲ニ一定ノ刑名ヲ定メサルカ如キハ朝敵ハ必スシモ幕府ノ敵ニ非サルニ因ルモノニシテ專ラ公平ノミヲ主トセサルノ一證ナリ。

○四節貞永式目ノ範圍 此ノ法律ハ上述ノ如ク評定役人ノ自ラ守ル爲ナレバ其ノ範圍ハ幕府裁判權ノ及フ所ニ止マレリ、即チ人ニ就テ言ヘハ守護地頭及其ノ他ノ將軍御家人ナリ、土地ニ就テ言ヘハ莊園、私領、恩地ナリ。是ヲ以テ公家及國衙ハ此ノ範圍外ナリ、然レモ第一ノ範圍ハ上述ノ如ク段々ニ廣ク成リシナリ。其ノ證ハ武藏守泰時ヨリ六波羅ナル駿河守時重ニ送ラレタル假字御書ニ、關東の御家人守護所、地頭には遍く披露して此心を得させられ候べく候なり、且書寫して守護

所へ面々配りて其國中の地頭御家人共に仰せ含められ候べく候云云トアルニテモ知ルベシ。

憲法志料ニ載セタル古本式目ニ附録スル所ノ假名御書ニモ左ノ如ク見エタリ。

「かやうに兼日カネヒにさため候はずして、或はとの理非をつぎにして、其人のつよきよはきにより、或は御裁許ふりたる事を、わすらかしておこしたて候、かくのとく候ゆへに、かねて御成敗の躰をさためて、人の高下を論せず、偏頗なく裁定せられ候はむために、子細記録しをかれ候者也、この状は法令のをしへに相違するところなど、少々候へども、たとへは律令格式ハ、眞名をしりて候もの、ために、やがて漢字を見候がとく、假名ばかりをしれるもの、ためには、まなむかひ候時ハ人の目しいたるかことくよて候へば、この式目は、たゞかなをしれるも



の、無間にたはく候がとく、あまねく人にも心ろやすからんために、武家の一人の御はからひのかるへきにあらず候也、凡法令のをしへ、めてたく候あれども、武家のならひ、民間の法、それをうか、ひしりたるもの、百千か中に一兩もありかたく候歟、仍諸人しらす候處に俄に法意をもて理非を勘候時、法令の官人、心にまかせて輕重の文どもを引きかんかへ候なる間、其勘録一同ならせ候ゆへに、人皆迷惑と云云、これによりて、文盲の輩もかねて思惟し、御成敗も變々ならず候はむために、この式目を註置れ候者也、京都人々の中に、傍難を加へ候は、此趣を御心え候て御問答あるべく候恐々謹言

サレハ刑事ハ守護ノ職權ヨリ全國ニ及ビ民事ハ御家人ノ領地ノミニ及ヒタルナリ。

○節五貞永式目ノ用語 式目五十一條ノ中ニハ當時ノ裁判上ノ用

語トモ稱スヘキモノ頗ル多ク、注釋ニ依ラザレバ解シ難シ、而シテ貞永式目抄トテ別ニ注釋ノ書アレト後人ノ作ナリ、然ルニ近コロ式目未練抄ト云フ書ヲ發見シテ續群書類從ニ收メタリ、是レ式目制定ノ後五十年計リノ頃即チ弘安元年ニ北條時宗カ若年ノ指南ノ爲ニ著シタルモノニシテ却テ式目ニハ見エサル訴訟ノ手續キマテモ見エ、尤モ貴重スヘキモノナリ。時宗ハ元ノ來襲ヲ退ケタル人ニテ弘安元年ハ元寇ノ四年ハカリ前ナリ、今先ツ此ノ書ニ就キ重ナル用語ヲ解釋シテ後ニ式目ノ本條ニ涉ルヘシ。

一 訴人トハ人ヲ訴テ云フナリ(即チ今ノ原告)論人トハ陳スル人ヲ云フナリ(即チ今ノ被告)是ヲ論訴人ト謂フ(即チ今ノ原被告)。

一本解狀トハ最初ノ訴狀ナリ、又申狀トモ云フナリ(今ノ起訴狀)。

一 初答狀トハ初陳狀ナリ、又初陳トモ又支狀トモ云フ(今ノ答辨書)。

- 一 二問狀トハ重ノ訴狀ナリ又重申狀トモ云フ。
- 一 二答狀トハ重陳狀ナリ。
- 一 三問狀トハ三ケ度ノ訴狀ナリ。
- 一 三答狀トハ三ケ度ノ陳狀ナリ。之ヲ以テ三問三答ノ訴陳狀トナスナリ。
- 一 追加申狀トハ三問三答ノ外、追訴狀ナリ。
- 一 目安トハ訴陳狀ノ内肝要ノ段、目安ニ之ヲ書クナリ。
- 一 與奪狀トハ一具ノ沙汰事ヲ本奉行ニ申渡ス訴狀ナリ(案スルニ是レ今ノ判決令ナリ奉行ハ執行官ナリ)。
- 一 書狀トハ折紙ニ書ク小申狀ノ事ナリ訴狀ト書狀ハ書榜各別ナリ
- 一 具書トハ訴陳狀ニ兩方所進ノ證文等ノ事ナリ(案スルニ證據書類ナリ)。

- 一 所務沙汰トハ所領ノ田畠下地爭論ノ事ナリ、關東ハ六波羅ニ於テ引付ケ其ノ沙汰アリ、取務爭論ノ事出來セバ先ツ訴狀具書ヲ調へ所務ノ賦、可上ノ賦、奉行請取ノ賦、双紙ニ沙汰ノ篇目ヲ書付ケテ差出サシムルナリ。
- 一 雜務沙汰トハ利錢、出舉、質米、年紀、諸負物、諸預物、放券、估却、田畠、奴婢、雜人、勾引以下ノ事ナリ、是等ノ事ヲ相論スルヲ以テ雜務沙汰ト名ツク
- 關東御分國雜務ノ事ハ問注所ニ於テ其ノ沙汰アリ、又引付ケ所務賦ノ事問注所ニ於テ之レ在リ、鎌倉中ノ雜務ノ事ハ政所ニ於テ其ノ沙汰アリ、亦將軍家諸色御公事支配ノ事等ハ同注所ニ於テ之レ在リ。
- 一 六波羅雜務沙汰事。五方引付ニ於テ定奉行人、今ハ國々引付衆ニ分充テ共ニ其ノ沙汰有リ、賦者其ノ午頭人訴狀ニ書銘シ直奉行ニ之ヲ賦ス、關東ニハ差付ト云フ直ハ當直

一 檢斷沙汰トハ謀反、夜討、強盜、竊盜、山賊、海賊、殺害、刃傷、放火、打擲、蹂躪、私書加之、大袋、晝強盜但追捕狼藉、路次、狼藉トハ路次ニ於テ人、追落、女捕、ヲ奪ル事ナリ、田、妨島以下ノ事ナリ、是等ノ相論ヲ以テ檢斷ノ沙汰ト名ツク、關東ニハ侍所ニ於テ其ノ沙汰有リ、京都ニハ檢斷頭人管領其ノ沙汰アリ、賦事ハ侍所兩頭人許ヨリ訴狀ニ書銘シ直奉行許ヘ之ヲ賦ス、次第沙汰引付ケニ同シ。

一 呂符御教書日數ノ事。關東御教書ニハ美濃國尾張國日數三十日ナリ、六波羅御教書日數ハ二十箇日ナリ、國御ニ催促ハ十日ナリ、以上此ノ日數ヲ過クル者ハ遠背ト言フナリ、但依國々近遠、日數遲速在之、(按スルニ是レ公文到達ノ日數ヲ定メタルナリ、國御ハ國衙ノ當字ナルヘシ)。

一 奉行書下日數ノ事。關東六波羅同前、訴論人當參ノ時宿所在所注シ置クナリ、日數十箇日以上三箇度極ム可シ、三ケ度ノ書下ハ奉行ノ使

ヲ以テ直ニ付クルナリ。

一 江成御教書宛所ノ事。關東六波羅ハ同前、地頭御家人ニハ二箇度マテハ其ノ身ヲ宛之ヲ成ス、凡下ノ輩ハ初度ヨリ御使ニ仰セ之ヲ成ス、何レモ三箇度ノ御教書ハ御使ヲ以テ之ヲ成ス、以上三ケ度之ヲ極ム可シ。

一 繼訴陳狀ノ事。三問三答狀訴陳狀ヲ究ムルノ後、訴陳狀ヲ返進シ、正文ハ奉行所ニ於テ訴論人共奉行所ニ寄合ヒ訴陳狀ヲ繼キ封裏スヘキナリ、上判下判ノ事ハ正員ト代官トハ正員ハ上判スヘシ、代官ト代官トハ上下ヲ打字テスマシ、領家誰レト地代官トハ子細同前、封裏ノ後、正文ヲハ直ニ奉行所ニ進ム可シ、御下知ノ後、事切文書ト書キ文倉ヘ遣候ナリ、(按スルニ是レ判決ノ後書類ヲ繼キ合セ關係役員署名シ封印シテ保存シオクノ制ナリ)。

一 問答ノ事。先件ノ訴陳奥書等案文ヲ以テ其ノ午頭人衆中ニ廻シ能ク訓譯スヘキナリ、次ニ奉行所ニ於テ内問答ヲ遂ケ其ノ後引付ニ於テ問答ヲ遂クヘキナリ。

一 覆問ノ事。問答ノ後訴訟人共所存アレハ重テ問答ヲ遂ク、是ヲ覆問ト云フ。

一 引付沙汰ノ事。頭人衆中皆參ノ時引付御座當奉行人事書ヲ召合セ問答ヲ遂ケ其ノ後兩方役立御座衆中一同評議シ是非ヲ勘録シ之ヲ以テ引付沙汰ヲ爲シ落居。

一 事書取捨ノ事。引付落居ノ趣ヲ以テ奉行人事書ヲ書キ案ヲ付ケ引付ニ披露ス是ヲ取捨引付ト云フ。

一 評定沙汰ノ事。關東ニハ兩所、京都ニハ兩六波羅殿五方引付頭人衆中皆來ノ時、評定所ニ於テ其ノ沙汰有リ、先ツ以テ孔子意見ノ次第ヲ

定メ、其ノ後其ノ手開闔一人合奉行一人有リ、開書奉行トモ云フ、文書ヲ以テ評定所ニ參リ御前各敷ニ向ヒ引付勘録ス、事書ヲ讀上ク、是ヲ讀進申ト云フ、開闔ニ非サレハ讀マズ、讀申ノ後孔子、次弟ヲ守リ面々御意見アリ、引付勘録ス、子細アレハ本引付ニ返サレ重ネテ其ノ沙汰有ル可シ、勘録子細ナケレハ相違無ク云云。

一 同評議終ルノ後ノ事。書ノ頭々是非ヲ書付ラル、是ヲ頭書ト云フ、執筆評定衆中ノ一人ヲ以テ之ヲ定ム、是ヲ以テ評定沙汰ノ落居ト爲ス。

一 御下知成サル、事。評定落居事書ヲ以テ奉行御下知案文ヲ書キ披露ニ付ス、取捨ヲ御下知案文治定ノ後、或ハ當奉行、或ハ請書奉行書上ノ時、探題探題ニハ六波羅兩所京都兩御判ヲ被成、其ノ午頭人御下知ノ裏ヲ封シ、一方得理ノ訴訟人ヲ召シ、引付御座ニ於テ直ニ下給スルナリ、是ヲ

事切ノ御成  
敗ト云フ

一覆勘ノ事。此ノ如ク御下知成サル、ノ後論訴人ノ中ニ先ノ御沙汰  
參差ノ由參差目ナリハ頭人ニ於テ子細申スノ時、取申其ノ謂レ有レハ本  
引付ニ於テ先ノ御下知ヲ以テ重テ其ノ沙汰アリ是ト云フ取申子  
細無クハ沙汰ノ限ニ非ス。

一越訴沙汰ノ事。御下知成サル、ノ後覆勘ニ及ハス屢越訴ノ方ニハ  
先ッ御沙汰參差ノ由委細申狀ヲ以テ越訴頭人ニ之ヲ申シ、申ス所其  
ノ謂レ有レハ内談ノ時先ッ入門ヲ以テ其ノ沙汰アリ入門トハ肝先  
度御沙汰落居事書ヲ召渡シ、後越訴申狀勘合シ、内談ノ時誠ニ先度ノ  
沙汰眼前參差ノ儀有レハ御教書ヲ下サレ、重ネテ御沙汰ヲ經ル所ナ  
リ、次第ノ沙汰ノ躰引付同前。

一庭中ノ事。引付庭中ハ引付御座中ニ於テ、御前ノ庭中ハ御評定御座

無ク調ヲ以テ之ヲ申ス。

一内訴ノ事。關東ニハ兩所、京都ハ兩六波羅ニ内々之ヲ申ス、或ハ直レニ

或ハ奏者  
ヲ以テス

一御寄合ノ事。評定衆中ニテ宗人ニ御秘密内談之レアルナリ。

一奏者ノ事。引付評定越訴庭中ニ棄置クヲ以テ訴訟人共之ヲ歎ク是

ト云フ者六波羅ニ之レ無シ。

一寺社沙汰、引付外賦并頭人奉行之レ有リ、寺社沙汰相論ノ事、落居ノ本  
躰引付沙汰ニ同シ。

一官途ノ事。地頭御家人等ハ關東ノ吹舉御教書ヲ帶セサレハ之ヲ成  
ス可カラズ、自由任官ニ於テハ其ノ科有リ、又自由出家同前。

一安堵ノ事。關東ニ於テ其ノ沙汰アリ、奉行人三方ナリ、隨思之ヲ申ス、  
先ッ本御下文并手繼讓狀先祖相傳圓圖等此ノ如キ具書等ヲ書關へ

奉行所へ之ヲ上ル可シ、取申子細之レ無クハ其ノ國ノ守護或ハ一門親類等へ奉行奉書シ、當知行ノ有無ヲ尋問セラル、ナリ是ヲ問云フ支申ス仁無キノ由請文相違無クハ安堵成サセラル當世ハ外頭安堵兩所御判成若又支申ノ仁ハ引付成サセラレ、理非ニ付キ其ノ沙汰アルナリ、又沽却地安堵ニ於テハ問注所ニ於テ其ノ沙汰アリ。

一將軍家トハ右大將家以來代々關東政務ノ君ノ御事ナリ。

一兩國トハ武藏相模兩國ノ國司ノ御名ナリ、將軍家執權ノ御事ナリ權執御代官ナリ又兩所トモ之ヲ申ス、但シ武藏守相模守ハ時ニ依リ官爵定マラサルナリ。

一六波羅トハ洛中警固并西國成敗ノ御事ナリ。

一鎮西九國成敗ノ事、管領頭人奉行六波羅ノ如ク之アリ。

一東夷成敗ノ事關東ニ於テ其ノ沙汰アリ東夷トハ蝦夷ノ事ナリ以上此等ノ如キ

成敗ハ武家沙汰トモ云フ。

一地頭トハ右大將家以來代々將軍家奉公衆御恩人ノ事ナリ。

一新補地頭トハ承久變乱ノ時ヨリ沒収地ヲ以テ所領ニ宛給ル等ノ事ナリ地頭徳分率法御事之レナリ

一本新兩様所務ノ事、兩様兼帶所務トハ本補地頭トシテ下地一圓管領ノ上、又新補率法ノ得分ニ關ルナリ、兩様兼帶ヲ云フナリ、地頭ハ其ノ咎有リ。

一御家人トハ往昔以來開發領主ト爲シテ武家御下文ヲ賜フ人ノ事ナリ、開發領主トハ根本ノ主領ナリ、又本領トモ云フ。

一非御家人トハ身ミ與侍ドモタリト雖當役勤仕ノ地ヲ知行セサル人ノ事ナリ。

一本秩トハ地頭御家人先租ノ俗姓ナリ、縱ヒ近年中安堵ヲ給ヒ關東六

- 波羅御公事ニ勤仕セシムト雖將軍家本御下文ヲ帶セス本秩糺明ノ時與ニ皆以テ非御家人ナリ但總領本御下文ヲ帶セハ子等帶セサルモ總領ニ同シ
- 一外様トハ將軍家奉行地頭御家人等ノ事ナリ。
- 一御内方トハ開發領主トシテ代々武家御下文賜ヒ田畠等所領スル事ナリ、又私領トモ云フ。
- 一本司トハ地頭補任以前ノ領主ノ名ナリ。
- 名主ナシ庄官、下司、公文田所、惣追捕使ナリ、惣追補使ナリ、又檢非違使トモ云フ檢斷職以下職人等ノ事。
- 一件所ノ職等ハ惣地頭、領家進止ノ職ナリ進止トハ進但シ帶谷列御下文有限(明)公事課役ノ外地頭領家私ノ下知ニ隨フ可カラス。
- 一甲乙人トハ凡下百往等ノ事ナリ。
- 一地頭御家人ノ外ハ直訴ニ及フ可カラス名主庄官以下ハ在所地頭ノ

- 舉狀ヲ帶シ訴訟ニ及フヘキナリ、但シ西國所務大官ニ於テハ舉狀ヲ帶セスト雖直訴ニ及フナリ、所務代官ノ科ニ依リ正負之ヲ存知セスト雖其ノ科ニ懸クルノ法ナリ、(代官罪アレハ本地主罰ヲ被ルナリ)。
- 一賦奉行トハ最初本解狀ヲ奉行ニ上ル所ナリ、關東六波羅之レ有リ。
- 一引付トハ頭人、上衆、奉行、會合御沙汰ノ事ナリ。
- 一評定トハ關東ニハ兩所、京都ニハ兩六波羅殿五方引付、頭人衆中、等會合評定ノ事ナリ。
- 一問注所トハ關東諸方沙汰ノ所ナリ、關東ニ之レ在リ六波羅ニ之レ無シ
- 一政所トハ將軍家政事ノ所ナリ、同前。
- 一公文所トハ相模守殿御内沙汰ノ所ナリ、同前。
- 一侍所トハ關東檢斷沙汰ノ所ナリ、同前。
- 守殿ノ御代官御内人頭人ト爲リ其ノ沙汰アリ、奉行人ハ外様人ナリ、

京都ニハ兩六波羅殿ノ御代官ヲ以テ頭人ト爲シ其ノ沙汰有リ、奉行同様。

一文庫トハ引付評定事切文書等置ク所ナリ、又文倉トモ云フ、又文殿ト云フ、京都關東ニ之レ在リ。

一御下文トハ將軍家御恩許領ノ御下文ナリ。

一安堵トハ父母ノ所領田畠ヲ讓得シタル等知行ス可キノ由御下知シ給フ事ナリ、當世ハ外題安堵トテ讓狀袖ニ兩所御判成サルナリ。

一御下知トハ訴訟人相論ノ事ニ就キ將軍家御成敗ノ下知狀ナリ、又裁許トモ云フナリ。

一御教書トハ關東ニハ兩所御判京都ニハ兩六波羅殿御判成サル、チ云フナリ。

一御文トハ武家ヨリ進セ被ル、本所御教書ナリ、武家トハ武藏守ノ家

チ云フ。

一奉書トハ諸方頭人奉行ノ奉書ナリ。

一施行トハ御使副狀ナリ。

一催促狀トハ同前。

一請文トハ御教書奉書等ニ就キ左右ヲ申ス狀ナリ、又教狀トモ云フナリ。

一押書トハ未成事ヲ兼テ入レ置ク狀ナリ。

一契狀トハ約束狀ナリ。

一沽却狀ハ田畠等賣買狀ナリ、又放券トモ云フナリ。

一壁書トハ訴訟人禁忌差合ノ時奉行書ノ押狀ナリ。

一不易法トハ是非ニ就キ改御沙汰ニ及ハサル事ナリ、武藏前司入道殿故最明寺殿、法光寺殿三代以上御成敗ノ事ナリ。



(以上三人及其ノ以前ノ裁判ハ是非ヲ問ハス永ク改メサルナリ)  
 一勘進沙汰トハ諸方頭人奉行中、年中奉公、出仕、參否、着到、方々奉行ノ事  
 事切沙汰等、勘進ノ事ナリ、十二月月迫ニ及ヒ御評定アリ、其ノ後御沙  
 汰止ムナリ。

○公家御沙汰事。

(是ヨリ以下ハ京都政府ニ關スル公事ノ明義ヲ釋明セリ、而シテ誤認  
 頗ル多シ、是レ當時ノ無學ヲ證スルニ足ルナリ)。

- 一聖談トハ公家御評定ノ事ナリ。
- 一僉議トハ公卿以下評定ノ事ナリ。
- 一繪旨トハ帝王ノ奉書ナリ、天氣所云云ト書ク可シ。
- 一院宣トハ院法王ノ奉書ナリ、御氣色所也ト書ク可シ。
- 一令旨トハ女院宮ノ奉書ナリ、何レモ女院令旨ノ所候也ト書ク可シ

以上繪旨院宣令旨者無御判ナリ、以時執事平諸定實證也(不<sub>明</sub>)

- 一應宣トハ廳ノ御下文ナリ。
- 一國宣トハ國司ノ奉書ナリ。
- 一消息トハ西遠寺以下時人ノ御教書ナリ。
- 一奏狀トハ天奏申狀ナリ。
- 一職事トハ執事奉行ナリ。
- 一傳奏トハ時ノ奏者ノ事ナリ。
- 一奏聞トハ王帝院家へ申上ノ詞ナリ。
- 一天應トハ同前
- 一攝祿トハ時ノ關白ナリ、關白トハ帝王執權ナリ又殿下トモ申ス。
- 一別當トハ公家ノ檢斷ナリ。
- 一除目トハ公家武家人ニ官爵ヲ沙汰スル事ナリ。

- 一 除書トハ除目ノ時ノ記録ナリ、又聞書トモ云フナリ。
- 一 記録所トハ公家ノ沙汰所ナリ、内表ニ之レ在リ。
- 一 官廳トハ大學會以來大禮行ハセラル、所ナリ、當時政務ノ廢レヌルヲ見ルベシ。
- 一 神祇官トハ諸社ノ神事行ハセラル、所ナリ。
- 一 官外記トハ公家文書等ノ奉行ナリ。
- 一 即位トハ帝王御位ヲ即キ給フ事ナリ。
- 一 行幸トハ帝王ノ御幸ナリ。
- 一 御幸トハ院法皇ノ御行ナリ。
- 一 行啓トハ后所ノ御幸ナリ、后所トハ帝王ノ后モナリ又女御トモ又國母トモ申ス
- 一 御出トハ關白殿ノ御行ナリ。
- 一 崩御トハ帝王院法皇御隱レノ事ナリ。

- 一 諒闇トハ天子御忌ノ事ナリ。
- 一 廢帝トハ公家御隱レノ事ナリ。
- 一 薨トハ大臣逝去ノ事ナリ。
- 一 卒トハ同前。
- 一 本家トハ本領主ノ御事ナリ。
- 一 領家トハ朝恩ノ所領ナリ。
- 一 家領トハ本家重代ノ御領ナリ。
- 一 國司トハ一國管領ノ事ナリ。
- 一 目代トハ國司ノ代官ナリ。
- 一 留守所トハ本所御領所務ノ代官ナリ。
- 一 雜掌トハ本所沙汰ノ代官ナリ。
- 一 勅使トハ帝王ノ御使ナリ。

- 一 院使トハ院家ノ御使ナリ。
  - 一 違勅トハ公家御下知違背ナリ、但武家被官ノ人ハ違勅之儀ナシ
  - 一 (即チ天皇ノ命令ハ將軍任命ノ官ニ居ル者ニ及ハサリシナリ)
  - 一 被宣旨トハ重科ノ輩ニ仰セラル、宣旨御教書ナリ。
  - 一 告書トハ我カ父祖ノ不可チ云フ詞ナリ。不可トハ惡事ナリ
  - 一 (大寶律ニ依リ八虐ノ一ニ居ル)
  - 一 過言トハ惡口同詞ナリ。
  - 一 両舌トハ一事ヲ兩議申ス詞ナリ。
  - 一 一事兩様トハ事ト詞ト違目ナリ。
  - 一 強訴トハ理不盡訴訟ナリ。山門南部以下ノ諸社ニ之レ在リ
  - 一 謗訴トハ當時チ非シ相論スル仁ニ着申ス可カラザル事ナリ。
- (着申スハ訴訟ヲ勝タスルヲ云フ案スルニ法庭チ非謗スル者ハ理

否チ論セス敗訴トスル大寶令ノ制ヲ指スナリ

- 一 法令トハ公家法令ノ記録ナリ。
  - 一 格式トハ公家代々ノ日記ナリ、(是レ亦其ノ無識チ証スルニ足ル)
  - 一 家記トハ家々人々ノ日記ナリ。
  - 一 大番トハ諸國地頭御家人等内裏警衛ノ番役ナリ。
  - 一 在京人トハ落中警衛ノ武士ナリ。
  - 一 笹册屋トハ在京人ノ役所ナリ。
- 六 貞永式目ノ本條 貞永式目總計五十一條アルヲ類ニ依リ分ツトキハ左ノ五種アリトス。
- (一) 寺社ノ條々
  - 即チ佛寺神社ノ修繕領地等ニ關スル條々ナリ。
  - (二) 諸國守護職地頭ノ條々

即チ武家ノ職權ヲ示シ非曲ヲ戒メタル條々ナリ。

(三)安堵ノ條々

當時土地領有ノ事ヲ總シテ安堵又ハ所帶ト言ヒタルニテ知行下知家督相續沒収等ニ係ル條々ナリ、是レ式目ノ最大部分ヲ爲スモノナリ。

(四)身分ノ條々

即チ公家ト武家トノ身分關係、養子等ニ係ル條々ナリ。

(五)論訴檢斷ノ條々

即チ民刑事裁判ノ手續處分ニ係ル條々ナリ。

第廿四章 貞永式目條々

○一 寺社條々 寺社ノ事ハ第一、第二、及第四十二見エタリ、蓋開卷第

一ニ神佛ニ關スル一條ヲ置キタルハ神佛ヲ崇欽シ安穩ヲ祈願スルノ意ナルヘキモ一言朝廷ニ及ハサルハ當時既ニ帝權衰微シ武家ノ眼中ニ天子ナカリシ一證ナリ、寺社ト云ヒ社、寺ト謂ハサルハ古代ノ法文皆然リトナス。

一、神社ヲ修理シ祭祀ヲ專ニスヘキ事(第一)

右神ハ人ノ敬ニ依リ威ヲ増シ、人ハ神ノ德ニ依リ運ヲ添フ、然レハ則チ恒例ノ祭祀陵夷致ス可カラス、如在ノ禮奠怠惰セシムル莫レ、茲ニ因リ關東御分ノ國々並ニ庄園ニ於テハ地頭神主等各、其ノ趣ヲ存シ精誠致ス可キナリ、兼テハ又有封ノ社ニ至リテハ代々ノ符ニ任リ、小

破ノ時且修理ヲ加ヘ、令シ大破ニ及ハ、子細ヲ言上シ、其ノ左右ニ隨ヒ其ノ沙汰アルヘキナリ。

一、寺塔ヲ修造シ、佛事等ヲ勤行ス可キ事。(第二)

右寺社ハ崇敬ヲ異ニスト雖仍ホ同シ、修造ノ功ナリ恒例ノ勤ナリ宣シク前條ニ准シ、後勘ヲ招ク莫レ、但シ恣ニ寺用ヲ貪リ、其ノ役ヲ勤メサルノ輩ハ早ク彼ノ職ヲ改易セララルヘキナリ。

一、鎌倉中僧徒恣ニ官位ヲ辭フ事。(第四十)

右綱位ニ依リ薦次ヲ亂ルノ故ニ、猥リニ自由ノ昇進ヲ求メ、彌、僧綱ノ員數ヲ添フ、宿老有智高僧マリト雖、少年無才ノ後輩ニ越エラル、是レ且ハ衣鉢ノ資ヲ傾ケ、且ハ經教ノ儀ニ乖ル者ナリ、自今以後免許ヲ蒙ラス、昇進ノ輩寺社ノ供僧タル者彼ノ職ヲ停廢セララルヘキナリ、御歸依ノ僧マリト雖、同シク以テ停止セララルヘシ、此ノ外ノ禪侶ハ願盼ノ

人ニ仰セテ諷諫ノ誠有ルヘキナリ。

〇二諸國地頭守護人條々 武家ノ官職及懲戒ニ關スル條々左ノ如シ

一 諸國ノ守護人奉行ノ事。(第三)

右右大將家ノ御時定メ置カル、所ハ大審催促謀叛殺害人付タリ、討強、監山、賦海等ノ事ナリ、而シテ近年ニ至リテハ代官ヲ郡郷ニ分補シ、公事ヲ村庄保ニ宛課ス、國司ニ非スシテ而シテ國務ヲ妨ケ、地頭ニ非スシテ而シテ地利ヲ貪ル、所行ノ企、甚々以テ無道ナリ、抑、重代御家人爲リト雖、當時ノ所帶ナシハ、駭懼スル能ハス、兼テハ又所々ノ下司庄官以下、其ノ名ヲ御家人ニ假リ、國司領家ノ下知ニ對捍ス云云、然ルカ如キ輩ハ守護所役ヲ勤ム可キノ山望ミ申スト雖、一切催ヲ加フ可カラズ、早ク大將家ノ御時ノ例ニ任セテ、大番役并ニ謀叛殺害ノ外、守護ノ沙汰

ヲ停止セシム可キナリ、若シ此ノ式目ニ背キ、自餘ノ事ヲ相交ノル者  
或ハ國司領家ノ訴訟ニ依リ、或ハ地頭土民ノ愁鬱ニ就テ非法ノ至リ  
顯然タラハ、所帶ノ職ヲ改メラレ、穩便ノ輩ヲ補スヘキナリ、又代官ニ  
至リテハ一人ニ定ムヘキナリ。

〔環翠軒抄ノ注释ニ曰、諸國トハ六十餘州ヲ指セリ、守護ノ事昔ハ國守アリテ守護ナシ、國守各、其ノ國ニ在テ善政ヲ行ヒ、猶ホ朝廷ヨリ勅使ヲ遣テ國々ヲ檢知セラル、其ノ使ヲ觀察使ト云ヒ、又巡察使トモ云ヘリ、弘仁ノ比マテ此事アリシナリ、守護ノ號ハ文治建久ノ比ヨリ相始マル歟、但文治建久ノ比賴朝卿守護ノ事所見ナシ、又守護ト云フ名モ見エス、唯タ其國ニ往テ其國ヲ鎮メヨト云フ賴朝ノ下知ハカリナリ、建久元年ニ賴朝上洛ノ時平家ノ餘黨ノ起ラヌヤウニトテ諸國ノ守護ヲ置ル、ト云カ是モ宣下アリトモミエス、諸國惣追捕使事壽永元年拜領ト云フ、守護

宣旨ノ事ハ正治元年ニ賴家ニ父ノ跡ヲ續ケヨト云フ事ニ就テ宣旨ヲ成サル、時ニ舊ノ如ク諸國守護ノ事ヲ奉行アレト書ケリ、是レ守護宣下ノ始メナリ、舊ハ如ク、ト書ケルヲモテ知ヌ前ヨリ守護等ハ存知アレトモ宣下ハ成サレサリシナリ、守護ノ二字莊子守テ失フ莫レト云フ心ナリ、守護ハ鎮護ノ義ナリ、德行ヲ先ニシ刑罰ヲ後ニシテ國家ヲ鎮護スヘキナリ、昔ハ守護ヲ望ム人ナシ、守護存知スレハ國ヲ治ニ苦勞アリテ徳分ハ多カラス、故ニ望ム事ナシ、當時ノ如キハ沙汰ニ及ハヌ事ナリ、建久十正治元正月五日宣旨ニ右近衛權中將源朝臣賴家續前征夷大將軍同朝臣ノ遺跡彼家人郎徒等ヲシテ舊ノ如ク奉行セシム、戶令ニ云フ國ハ毎年一巡屬郡ニ行キ風俗ヲ觀ル云云、巡行スルハ民ノ患ヒ苦ム所ヲ知リ、農業ヲ勸メ、好學者ヲ舉ケ、不孝不悌ニシテ禮ヲ亂ル者ヲ正サン爲ナリ、郡境ニ至ルノ時田地ノ荒レス能ク治レハ郡領ノ能トス、又田地モ

荒レ盗ナトアルハ郡領ノ不能トス、此等ヲ正サン爲ニ毎年巡行スルナ  
 リ、奉行ハ奉テ行フナリ上ノ仰ヲ奉テ下ニ行フナリ、經ニ云フ信受奉行和  
 漢共ニ之レヲ用ユ、此ニ諸國守護人成敗ト書カスシテ奉行ト書クハ守護  
 ハ其國ヲ我儘ニセス上ノ仰ヲ奉テ行フト云フ心ニテ奉行ト書ケルナリ。  
 「右大將家」ハ賴朝ノ御事家。ハ公卿ノ美稱ナリ、惣シテハ家ト云フモ殿ト  
 云フモ同シ心ナリ、右幕下ノ御時守護トシテ沙汰スヘキ事ノ定メ置カ  
 ル、分ハ大番催促ノ事、謀叛ノ事、殺害ノ事、夜討ノ事、強盜ノ事、山賊ノ事、  
 海賊ノ事等ナリ、大番トハ諸國ノ武士關東ノ下知ヲ帶ヒテ番ニヨリテ  
 在洛シテ帝都ノ警固ヲ申ス事ナリ、此號賴朝ノ御時ヨリ始マリシ歟、平  
 家追討以後ノ事ナリ、九州ノ侍ハ大番役ヲ御免ナリ、異國ヨリ襲ヒ來ラ  
 ン時ニ防カシメン爲ナリ、大番ノ事關東ニモ亦此事アリ、守護トシテハ  
 此ノ大番ヲ勤メヨト催促シテ都ニ上スヘキナリ、謀叛トハ第九章ニ見

ユ、夜討トハ夜陰ニ紛レ姓名ヲ知ラサス人ヲ討ツノ事ナリ、強盜竊盜第  
 三十三章ニ見ユ、夜討山賊海賊罪ヲ斷スル事強盜竊盜章追加ニ見ユ、  
 「而シテ近年ニ至リ代官ヲ郡郷ニ分補シ、公事ヲ庄保ニ宛課シ、國司ニ非  
 スシテ國務ヲ妨ケ、地頭ニ非スシテ地利ヲ貪ル」以下ハ守護ノイロウマ  
 シキコトヲ云フ、而トハ上ヲ受ケ云鬚ナリ、ホウヒケニ譬ヘテ上ヘモ付  
 キ下ヘモ付ク字ナリ、論語ニ、學而時ニ之レヲ習フトアリ、其ノ而ノ字ノ  
 心ナリ、近年トハ治承四ヨリ貞永五十三年ニ至ルマテナリ、此間ヲ指ス  
 歟、賴朝薨スル正治元年ナリ、此ノ如キ守護ノ無道ハ賴朝薨シテヨリ後  
 ナルヘシ、而ラハ正治元年以來三十四年ナリ、此間ヲ指ス歟、分補ト云ヨ  
 リ以下ハ守護ノ我意ニ任セタル體ヲ云フ、郡ニモ代官ヲ置キ郷ニモ代  
 官ヲ置テ百姓ヲ惱スヲ云フ、在々所々并ヒニ守護不用ノ處ニシテ無理  
 ヲ致ス體ナリ、公事ヲ庄保ニ宛課ス、トハ公事課役ヲ庄ニモカケ保ニモ

カクルナリ、國務ノ務ノ字ヲマツリコト、令ニ讀メリ、國ノ政ヲ國務ト云ヒ、廢務ト云フハ、マツリコトヲヤムト訓ス、國司ニ非スシテ國中ノ政ヲ恣ニスルト云心ナリ、六韜ノ内ニモ國務ノ章アリ、ソレモ國ノ政ト云フ心ナリ、舊ハ國司今ハ守護ナレ、國司ノスル政、守護ノ奉行スル事トハ相替ルヲ近年ハ守護カ國司ニモアラスシテ國ノ政ヲ爲スナリ、或ハ國務ヲ國ノ所務徵稅ト云ト見ヘシト云フ義アレトモ政ト云フ中ニハ所務モコモルホドニ只國政ト見ヘキナリ、地頭ニ非スシテ地利ヲ貪ルトハ新補ノ地頭德分事貞應ノ宣旨ニ見エタルハ一段別五舛ナリ、コノ地利ヲハ地頭ノ取ルヲ守護トシテ貪ルト云フ、所所ノ企甚マ以テ無道ナリトハ而シテト云ヨリ以下ヲ決スル辭ナリ、コレヲ中決ノ決語ト云フナリ、企亦跋ニ作ル、踵ヲ舉ル心ナリ、無道ノ二字ヲアチキナシト日本紀ニヨメリ、味ナシト云心也、無道ノ代ニハ美食モ味ナキヤウナルヲ

云、國司ヲハ烹鮮之職ト云、老子經ニ治國家如烹小鮮ト云ヘリ、鮮ハ魚也、小キ魚ヲニルニハ、アチヘウチカヘシ、コチヘ折カヘシアツカヘハ碎テノクル也、又折ヤリサマニシテモワルシ、治國ノコトモサノミコマカニスルモワルシ、又大ヤウナルモワルシ、ヨイホドニスルガヨキ也、小魚ヲニルカ如クスヘシト也、仍國司ヲ烹鮮ノ職分憂ノ官ト云也。  
抑、重代ノ御家人爲リト雖當時ノ所帶ナキ者ハ催促スル能ハス、ハ假令譜代ノ御家人ナリトモ、無足ノ者ナラハ大番役ヲ守護トシテ駈催スヘカラスト也、當時ノ字ニ心ヲ付クヘシ、昔ハ大番役ヲ勤タル輩ナリトモ當時ハ無足ナラハ元ノ例ヲ以テ駈催スヘカラスト也、重代トハ賴朝以來賴經マテノ御家人歟、ナチ其ヨリ前ヨリノ御家人歟、御家人トハ家禮ノ人也、主從ノ禮ヲナス輩ヲ云。

一同ク守護人事由ヲ申サス罪科ノ跡ヲ沒收スル事。(第四)



右重犯ノ輩出テ來ラム時ハ須ク子細ヲ申シ左右ニ隨フヘキノ處實  
 否ヲ決セス、輕重ヲ糾サス。恣ニ罪科ノ訟ト稱シテ沒收セシムル條理  
 不盡ノ沙汰、甚々自由ノ奸謀ナリ、早ク其ノ旨ヲ注進シ、宜シク裁斷ヲ  
 蒙ラシムヘシ、猶以テ違犯セハ罪科ニ處セラルヘシ、次ニ犯科人ノ田  
 畠在家并ニ妻子資財ノ事、重科ノ輩ニ於テハ守護所ニ召シ渡スト雖  
 田宅妻子雜具ニ至テハ付渡スニ及ハス、兼テハ又同類ノ事縱ヒ白狀  
 ニ藏スト雖財物無キ者ハ更ニ沙汰ノ限ニ非ス。

一、諸國ノ地頭年貢所當ヲ抑留セシムル事。(第五)

右年貢ヲ抑留スルノ由本所ノ訴訟アル者ハ即チ結解ヲ遂ケ勘定ヲ  
 請ク可シ、犯用ノ條遁ル、所無キ者ハ員數ニ任テ之ヲ辨償ムヘシ、但  
 シ少分タルニ於テハ早速ニ沙汰致スヘシ、過分ニ至リテハ三ヶ年中  
 ニ辨償ス可キナリ、猶ホ此ノ旨ニ背キ、難澁セシメハ所職改メラルヘ

キナリ。

〔本條ハ元來ノ領主ヘ其ノ領地ヨリ送ルヘキ年貢ヲ領地ノ地頭ニ於テ  
 抑留スルヲ制スルナリ、結解トハ地頭ト其ノ地ニ在ル領主ノ代官ト立  
 合ヒ留分ヲ計算スルナリ、算用終リ其ノ理解タルト註セリ、勘定ハ未進  
 過上ノ勘定ナリ、少分ハ急促シ、過分ハ却テ三年猶豫スルコト理ニ合ハ  
 ス、還翠軒ノ說ニ過分トハ資財ヲモ盡ク出シテ尙ホ未進ヲ償フニ足ラ  
 サル部分ヲ云フト謂ヘリ、或ハ然ラン、是レ議論アル一條ナリ、難澁セシ  
 ムトハ困難セシムルノ義ニ非ス、中古ノ法律語ニテ難澁ト云ヘハ所務  
 ノ上納ヲ遲延スルコトナリ〕

一、惣地頭所領内ノ名主職ヲ押妨スル事。(第三十八)

右惣領ヲ給ハルノ人、所領ノ内ト稱シテ各別ノ村ヲ掠領スルコト、所  
 行ノ企罪科ヲ遁レ難シ、爰ニ別ノ御下文ヲ賜ハリテ名主職ダリト雖、

惣地頭若シ庭弱ノ隙ヲ伺ヒ限アル沙汰ノ外、非法ヲ巧ウシ濫妨ヲ致サハ、別納ノ御下文ヲ名主ニ給スヘキナリ、名主又事ヲ左右ニ寄セ先例ヲ顧ミス地頭ニ違背セハ名主職ヲ改メラルヘキナリ。

〔是レハ何々ノ庄何々ノ郷ト限ラス、一郡總体ヲ賜リタルキ、其ノ内ノ或ル庄園ノ從來他人ノ領有ニ屬スルハ除ク義ナルモ、是レマテ一手ニ領有セントスル地頭ノ濫暴ヲ制シ、又一方ニ於テ全部地頭ノ庭弱ナルニ乘シ、其ノ管下ノ格別ノ領主即チ名主カ地頭ノ命ニ背クヲ制スルノ條ナリ、概シテ一人ノ領地内ニ他人ノ領分ノ入り雜レルヨリ起ル紛義ヲ解ク爲ナリ。〕

以上數條ニ於テ之ヲ觀ルニ當時守護職地頭ハ往々職權外ノ働ヲ爲セシモノニシテ、其ノ專横ヲ被ル者ハ將軍家ニ訴ヘサレハ有効ノ裁判ヲ受ケ難カリシヨリ御家人外ノ輩モ自ラ將軍ノ命ヲ奉スルニ至リシモノナリ。

○三 安堵ノ條々 上文言フ如ク當時安堵トハ土地領有權ノ總稱ニシテ將軍家ヨリ所領安堵ノ敎書ヲ受クルヲ竣テ始メテ此ノ領有ノ權ヲ全ウスルコトヲ得タルニ因リ此ノ稱アリ、即チ是レ封建時代ニ於ケル所有權ノ原則ナリ、今其ノ條項ノ主ナルモノ及注疏ノ大要ヲ擧ク

レハ左ノ如シ。

一、右大將家以後代々ノ將軍並二位殿御時宛テ給フ所ノ所領等本主ノ訴訟ニ依リ改補セラルヘキヤ否ノ事。

右或ハ勳功ノ償ヲ募リ或ハ官任ノ勞ニ依リ之ヲ拜領シタルコト由緒無キニ非ス、而シテ先祖ノ本領ト稱シ裁許ヲ蒙ランニ於テハ一人喜悅ノ眉ヲ開クト雖傍輩定メテ安堵ノ思ヒヲ成シ難カラシカ、濫訴ノ輩停止セラル可シ、但シ當時ノ給人罪科アランノ時本主其ノ次ヲ

守リテ訴訟ヲ企テテ事禁制スル能ハサルカ、次ニ代々ノ御成敗畢ルノ後申シ亂サント擬スル事其ノ理無キニ依テ捨テ置カル、ノ輩歲月ヲ經タルノ後訴訟ヲ企ツルノ條、存知ノ旨、罪科輕カラス、自今以後代々ノ御成敗ヲ顧ミス、猥リニ面々ノ濫訴ヲ致サハ須ク不實ノ子細ヲ以テ所帶ノ證文ニ書キ載セラルヘシ。

〔本條ハ賴朝以來代々ノ將軍及二位、尼ノ時ニ功臣ニ與ヘタル領地ニ限リ、裁判權ノ外ニ置キ、現領主ニ於テ犯罪アルトキノ外ハ其ノ所有權ヲ動カサ、ル爲ニ設ケタリ、又下半句ハ代々將軍及二位、尼ノ裁決ヲ經タルモノハ更ニ其ノ裁判ヲ動カサ、ル爲ニ設ケタリ。〕

環翠軒抄ノ注釋ニ曰、代々將軍トハ賴家、實賴、賴經等也、二位殿ハ平政子也、賴朝ノ後室二代將軍ノ母、建保六年四月十六日從三位同年十一月十七日從二位嘉祿三年七月十七日薨、右幕下御誤アル事ヲモ諫メ玉ヘリ、

幕下ノ御後ハ鎌倉ヲ管領アリテ、イミシキ成敗トモアリ、承久ノ兵亂ノ時モ二位殿ノ仰トテ義時カ諸大名ヘ回文ヲマワシタリ、此ニ二位殿ト載タルニ二ノ心アリ、將軍ニ非サレハ代々將軍ト云内ニハコモラヌホトニ別ニ載タル也、一ニハ尼公成敗ヲハ改ムヘキカト云疑アルヘシ、是ヲモ改マシキニヨリテ別テシルス、此等ノ御代ニ御家人等ニ被下タル所領ヲ本領ト号シテ訴訟申サハ返サルヘキ歟、返サレマシキ歟ト云事也、勳功官仕ニ依テ拜領スル領知ノ人ニ宛テ先祖ノ本領ト稱シテ訴訟申サンヲ卒爾裁許アラハ本領主ハ喜悅ノ眉ヲ開クト云、賞ト勞トニ依テ拜領ノ輩ハ數百人アルヘキカ、皆安堵ノ思ヲ成シカタカルヘシ、其故ハ本領主ノ訴訟アラハ如何カ召返ルヘシト思ヘケレハ也、然ラハ勳功モ官仕モ誰カ深切ナランヤ、濫訴ハミタリナル訴也、濫ハ水ノ汎濫シテドコニモ充滿スルヲ云、濫訴ノ輩トハ一人眉ヲ開ク人ヲ云、但シトハ

上ヲサヘタル詞也、當時ノ給人トハ勳功官仕ニヨツテ所領下サレタル人也、此者自然罪ヲ犯シテ罪科ニ處セラル、事アラフ、時元來ノ領主時ヲ得テ訴訟ヲ申サン事ハ禁制アルヘカラスト也。代々トハ右幕下以來ヲ云、代々御成敗ニ理非已ニ決シテ御成敗畢ル事ヲ己レモ非ト知ナカラ申マキラカサントテ訴訟スル事也、不實ノ子細ヲ以テトハ出帶ノ證文ニ代々非タルニ依テ捨テ措カル、ノ由ヲ墨クログロニ書付ケテ其主ニ返サルヘシトナリ云云。

一、御下文ヲ帶スト雖、知行セシメスシテ年序ヲ經タル所領ノ事。(第八) 右當知行ノ後廿箇年ヲ過キタルモノハ右大將家ノ例ニ任シ理非ヲ論セス改替スルコト能ハス、而ルチ知行ノ由ヲ申シ御下文ヲ掠給ルノ輩彼ノ狀ヲ帶フト雖叙用ニ及ハス。

〔環翠軒抄ノ注釋ニ曰〕此ノ當知行ト云ハ御下文ヲ申給者ノ敵方也、御下

文ヲ申給者ハ不知行ノ者也、廿年當知行セハ他人訴訟申トモ改テカラスト也、是右大將家以來ノ例也、不知行ノ由ヲ申ストモ當知行ノ由申シ御下文ヲ掠給ル事アリ、其科尤モ重シ、罪條曆應三年ノ制符ニ見エタリ、又此式目四十三條ノ義符合セリ、曆應三年ノ符ニ云、以不知行地稱當知行掠給院宣輩ノ事、此罪條雖贖銅可被分召所領ト但此文ノ心ハ不知行ノ在所ヲ當知行ト申シ御下文ヲ掠給ヒ年序ヲ送り沙汰ニ及ハスシテ、便ヲ見テ訴訟申時ノ御法也、其故ハ御下文ヲ掠給ノ事當座ニ露顯セハ上ニイヘル罪科ニアツベキホドニ訴訟ノ沙汰ニ及ハスシテ年月ヲ經テ申時ノ事也、知行ノ由ヲ申シトハ不知行ノ申詞也、彼狀トハ掠給ハル御下文也、年紀ヲツナカン爲ニ申給ル御下文也、其證文アリト云ル御許容アルヘカラスト也、不知行ヲ當知行ト申シ御下文ヲ掠給フ事當座ニ露顯セハ上ニイヘル罪科ニアツベキ段勿論也、後日ニ年月ヲ經テ

アヲハルレハ如何ナルヘキト云、或説ニ後年タリトモ可被處罪科ト云、然ハ「叙用ニ及ハス」ノ下ニ罪條ヲ何ソ載セサルヤト云ニ、ソレハ四十ニ箇條ニ讓テ不記ト云ヘリ、此説不足信用、其故ハ「彼狀ヲ帶フト雖叙用ニ及ハス」ト云ハ訴訟ノ時ノ事也、罪科ニ處スヘキナラハ訴訟ノ理非ノ沙汰タルヘカラス、叙用ニ及ハスト云ニ及ハサル事也ト。

此ノ條ニ依ルトキハ不動産ニ就キテハ廿年間之ヲ取用シテ他ニ權利ヲ争フ者無ケレハ則チ其ノ物ハ現取用者ノ所有ニ歸スト看做スノ例ナリシコト明ナリ是レ古ノ時効ナリ。

一、承久兵亂ノ時沒收シタル地ノ事。(第十六)

右京方合戰ヲ致スノ由聞シ召シ及フニ依リテ所帶ヲ沒收セラレ、ノ輩其ノ過無キノ旨證據分明ナレハ其ノ替<sup>カハリ</sup>ヲ當給人ニ宛テ給ヒテ本主ニ返シ給フ可キナリ、是レ則チ當給人ニ於テハ勳功奉公アルノ

故ナリ、次ニ關東御恩ノ輩ノ中、京方ノ合戰ニ交ルコト罪科殊ニ重シ仍テ即チ其ノ身ヲ誅セラレ所帶ヲ沒收セラレ畢ハシ、而ルチ自然ノ運ニ依テ遁レ來ルノ族、近年聞食シ及ハ、緋<sup>ヒ</sup>巳ニ違期ノ上最モ寛宥ノ儀ニ就キ所領ノ内ヲ割テ五分ノ一ヲ沒收セラレ、ヘシ、但シ御家人ノ外、下司庄官ノ輩、京方ノ咎、縦ヒ露顯スト雖、今更改メ沙汰スル能ハサルノ由去年議定セラレ畢、者<sup>アイレバ</sup>異議ニ及ハス、次ニ同シキ沒收ノ地ヲ以テ本領主ト稱シ訴ヘ申スコト、當知行ノ人其ノ過有ルニ依テ之ヲ沒收シ、勳功ノ輩ニ宛テ結ヒ畢ハシ、而ルチ彼ノ時ノ知行ノ者ハ非分ノ領主ナリ、相傳ノ道理ニ任<sup>ヨリ</sup>テ之ヲ返シ給ル可キノ由訴申スノ類多ク其ノ聞エアリ、既ニ彼ノ時ノ知行ニ就テ普ク沒收セラレ畢ハシ、何ソ當時ノ領主ヲ<sup>サレオキ</sup>閣テ往時ノ由緒ヲ尋スヘキヤ、今ヨリ以後濫望ヲ停止スヘキナリ。

〔本條ハ承久ノ亂ニ關スル賞罰ト所領權トノ交渉ヲ整理スルモノナリ。環翠軒抄注釋ニ曰承久兵亂ハ承久三年也、賴家實朝以後時政カ子義時自然天下ノ柄ヲ弄ヒ、威ヲ四海ニ振ヘリ、後鳥羽院義時カ武威ヲ下ニ振テ朝義ノ上ニ廢ル、事ヲ歎キ思食セリ、鎌倉ニハ光明峯寺ノ御息賴經下向アレト、幼稚ニマシマス、此時ヲ以テ鎌倉ヲ退治シ、義時ヲ亡サントシ玉ヘリ、是ニ於テ承久ノ兵亂起レリ、此時宇治勢多ニテ合戰ニ及フト雖モ、官軍敗北ス、仍ホ後鳥羽院、土御門院、順德院此三院ヲ義時カ沙汰トノ遠流ニ處シ奉ル、先帝順德皇子追拂奉テ後堀河院ヲ立奉ル、三院ノ御方ヲ京方ト云、後堀河院ノ御方ヲ鎌倉方ト云、此時諸侍京方ヲ致ス者ヲハ關東ヨリ沒收スル也、京方ヲシテ合戰スルヨシ聞食及ニヨツテ、其者ノ所領ヲ沒收シテ關東方ヲ致ス侍ニ被下也其過無シトハ京方ノ合戰ヲセスト云證據分明ナラハ替地ヲ當給人ニ

々條目式永貞章四十二第

被下テ其後本主ニ返給ヘシ、宛トハ相當ホトノ心ナルヘシ、是レ則ト云ヨリ下ハ上ヲ決ス、替地ヲ被下ヘキ故ハ勳功奉公ニ依テ被下ホトニ其レヲ取上テ其功ヲ空シクセヌダメ也、奉公トハ「キミニヌマテマツリ」トヨメリ我身ヲ公方ヘ奉ル也、關東ノ恩ヲ受クル者ノ京方ヲスルハ罪科殊重シ依テ其身ヲハ誅シ、其跡ヲハ沒收セラル、ト也、一義ニ手ニマワル者ヲハ誅シ手ニマワラヌ者ヲハ所帶ヲ沒收セラル、也、而ルヲ自然ノ運ニ依テ三院ノ御方申セシ事人ニ知レズノ遁來ルノ族、數年ヲ經テ後近年聞食及ナラハ、既ニ時移リ事去ル上ハ、寬宥ノ義ヲ以テ其身ヲ助ケラレテ、所領ヲ五分ノ一ヲトシ召レテ殘四分ヲハ本ノ如ク知行セラルヘシト也、是レ仁恕ノ至リ也、近年トハ承久兵亂以後ヲ云、緋ハ毛韵ニ事也、トス「違期」トハ以後ノ義ニハ非ス其期ニ違フヲ云フ、前モ違期也、今ヨリ後モ違期也、コ、ハ遁來ト聞及ト時刻違フヲ違期ト云也、按スルニ期

滿特許ノ義ナリ寛宥ニ三寛ト云ハ一ニ遺亡ニ過失三不議コノ三ヲ云五分ノ一ヲ下ニ無所帶ト云ハサレハ所帶アル者サヘ寛宥セラル、況ヤ無所帶者ハ違期ニ就テハナホ沙汰ニ及ハサルナリ、御家人トハ前ノ御恩ノ輩ト云者也、去年ハ寛喜三年也、議定ハ泰時朝臣ノ狀ニ曰、大内裏有議定所、自由之儀依テ不知案内也、向後可爲評議云云者ノ字ハ宣旨ニ多クカケリ、テイレハトヨマセテ心ハナシ、置字也、本領主トハ舊主ノ外ニ往代ノ領主也、同沒收ノ地トハ承久ノ亂ニ沒收ノ地ヲ云、沒收セラル、領地ヲ沒收セラレタル人ヨリモ前ニ知行スル領主ナリトテ訴訟申事也、當知行ノ上ニ右ノ字ヲ置テ見ヘシ、其過トハ京方ヲ致ス過也、而彼ノ時ト云ヨリ多ク其聞エアリト云マテハ往代ノ領主ノ望申詞也、彼時トハ承久亂以前ヲ云、承久亂以前ニ京方スル者ノ知行シタレハ一旦非分ノ儀ヲ以テスル領主也、我ハ代々相傳ヘテ元來ノ領主ナレハ此知行

ヲ又別人ニ可被下ノ事ハ不便也、此刻ニ可返給ト訴訟申ヌ類多アリ、如此理非云マテ、次ニ決之、彼時トハ自承久大亂以前至承久云、普クトハ、勳人ニ限ラスオシナメテト云心也、當時ノ領主トハ勳功奉公ノ人ヲ云一功奉公ノ人ヲ閣テ往代由緒ノ人ニ送ルヘキニアラス、自今以後本領主ノ濫望ヲ止ヘシト也、但此ハ寺社本所領ヲ取テ人ニ遣ハシテ寺社本所ノ本領主ノ訴訟ヲ止メヨト云義ニハ非ス、此時分ハサヤウノ無理ハナカリシ也、此文ノ心ハ武家ノ被官人ノ敵御方シテオチタル知行ノ事也、本領主トハ武家被官人ノ上古ニオトサレタル知行ヲ今別人持タル時其主人ノ又沒收セラル、上古ノ持手出テ、訴訟スル之ヲ本領主ト云也、尋ハ燔ト同シ温燔故食ト云ハモト煮タル者ハ始メテ煮ルヤウニ刀ヲ用井サレトモヤカテ温マルナリ、コレヲ燔ト云フ、往代ノ由緒ヲ求ムルハ一タヒ冷タル物ヲ又温ムルカ如シ、之ヲ尋ヌト云、尋盟ト云モ是

レナリト。一、賣買所領ノ事。(第四十八)

右相傳ノ私領ヲ以テ要用ノ時沽却セシムルハ定レル法也、而シテ或ハ勳功ヲ募リ、或ハ勤身ニ依リ別ノ御恩ニ預ルノ輩、恣ニ之ヲ賣買スル條、所行ノ旨其ノ科ナキニ非ス、自今以後、慥ニ停止セラルヘシ、若又制符ニ背テ沽却セハ賣人ト云ヒ買人ト云ヒ共ニ罪科ニ處セラルヘシ。

〔本條ニ依ルトキハ武家ノ所有地所ニ二種ノ別アリ、一ハ公儀ヨリ勳功ヲ賞スル爲ニ知行セシメラル、所ノ家督地處ニシテ、二ハ私産トシテ傳來スル所ナリ、而シテ私産ハ必要ノ時賣買スルコトヲ許シタルモ公然ノ家督ニ至リテハ一切離權ヲ禁シタルモノナリ。〕

一、當知行ト稱シテ他人ノ所領ヲ掠給ハリ、所出物ヲ貪給フ事。(第四十二)

右無實ヲ搆ヘ掠領スルコト式目ノ推ス所、罪科ヲ脱シ難シ、仍テ押領物ニ於テハ早ク糺返セシムヘク、所領ニ至テハ沒收セラルヘキナリ、所領ナキ者ハ遠流ニ處セラルヘシ、次ニ當知行ノ所領ヲ以テ指次無ク安堵ノ御下文ヲ申給ハルコト、若其ノ次ヲ以テ私曲ヲ致サンカ自今以後停止セラルヘシ。

〔環翠軒曰「無實トハ不知行ヲ當地行ト申テ云、推ス所トハ式目ノ法ヲ推量スト云フ心ナリ、押領物トハ所出物ナリ、年貢ヲハイカホト取り、公事物ヲハナニホト取タリト糺返<sup>ダシカ</sup>サシムヘシ、無實ヲ搆ヘタル者ノ所領ヲハ沒收スヘシ、他人ノ所領ヲ掠取シタル罪科ナリ、所領トハ此間無爲ニ持タル知行ナリ、掠領スル地行ニ非ス、指次無クトハ論訴モ無ク讓與モナキヲ云、若ト云字ノ上ニ右ノ字ヲ置テ見ヘシ、御下文ヲ申フレニマキヲカシテ曲折ヲ致ンカ、自今以後故ナク御下文ヲハ停止セラルヘシト。〕



即チ本條ニ依リ將軍家ヨリ安堵ノ御下文ヲ下サル、場合ハ相續ト訴  
訟ノ結果トノニ限リシナリ。

一、傍輩ノ罪科未斷以前ニ彼レノ所帶チ競望スル事。(第四十四)

右勞功ヲ積ムノ輩所望チ企ツルハ常ノ習也、而ルニ所犯有ルノ由風  
聞セルノ時、罪狀未定ノ處、件ノ所領チ望シカ爲ニ其ノ人チ申沈メン  
ト欲スルノ條、所爲ノ旨敢テ正義ニ非ス、彼レノ申狀ニ就テ其ノ沙汰  
有ランニハ虎口ノ讒言蜂起シテ絶ユ可カラサル歟、假使運<sup>ダト</sup>運<sup>ヘ</sup>ノ訴訟  
メリト雖<sup>カキテ</sup>兼日ノ競望チ叙用セラレザルミシ。

〔本條ハ同僚ノ中罪犯ニ依リ所領チ奪ハレントスル者アルトキ、其ノ獄  
ノ未々決セサルニ既ニ其ノ所領チ得ント望ミ争フチ制スルモノナリ  
當時ノ人心所領ノ一ニ傾キ、利己ノ心頗ル盛ナリシ様チ想見スルニ足  
レリ。〕

一、所領得替ノ時、前司新司沙汰ノ事。(第四十六)

右所當年貢ニ於テハ新司ノ成敗タルヘク、私物、雜具、並ニ取從ノ馬牛  
等ハ新司抑留ニ及ハス、況ヤ耻辱ヲ前司ニ與ヘシムルニ於テハ別ノ  
過怠ニ處セラレヘキ也、但シ科重ニ依リ沒收セラレ、者ハ沙汰ノ限  
ニ在ラス。

〔本條ハ前國司ノ任限滿チテ新國司ト交替スルトキノ事務分轄ナリ、此  
ニ國司ト云フハ地頭又ハ知行者ノ義ナリ、即チ年貢ハ赴任ノ時ヨリ新  
司ノ管轄ニ屬スレト、其ノ他ノ私物、雜具ハ舊司ノ處分ニ任シ、新司之ヲ  
抑留スヘカラス、若勢ニ乘シテ舊司ヲ凌辱スル如キアレハ地頭ニモア  
レ所帶ニモアレ新シク知行スル事ヲ止メ、別ノ過怠ニモ處セラレヘキ  
トナリ。〕

一、不知行ノ所領文書ヲ以テ他人ニ寄附スル事ニ付テリ名主職ヲ以テ

本所ニ觸レズ權門ニ寄進スル事。(第四十七)

右自今以後寄付ノ輩ニ於テハ其ノ身ヲ追却セラルヘキナリ、請取ノ人ニ至テハ寺社ノ修理ニ付セラルヘシ、次ニ名主職ヲ以テ本所ニ知ラシメス權門ニ寄附スレコト自然ニ之レ在リ、然ル如キノ族ハ名主職ヲ召シテ地頭ニ付ラルヘシ、地頭ナキ所ハ本所ニ付ラルヘシ。

〔本條ハ自家ノ現在所領セサル土地ニ付キ他人ト授受ノ契約ヲナスヲ禁制シ以テ争訟ノ道ヲ塞クナリ、例ヘハ他人ノ現有スル地處ニ對シ訴訟ヲ起シ、理ヲ得テ勝トナルトキハ其ノ幾分ヲ分與センナト約束スルコト也、環翠軒解付タリ以下ハ名主職トシテ本所即チ本領主ノ同意ヲ經ス其ノ地ヲ權門勢家ニ寄付シ、以テ其ノ保護ヲ受ケント計ルコトヲ禁制シタルナリ。追却ハ追放ナリ、又其ノ寄付ヲ受ケタル者ハ之ヲ召上ケラル、ハ勿論ナリ、別ニ罰トシテ社寺ノ修理ヲ負擔セシメラル、ナリ。

サレバ當時ノ法制ニテハ契約ノ自由ナク、他日争訟ノ原因トナルノ恐アル者ハ之ヲ禁シタルナリ。

一、百姓逃散ノ時、逃毀ト稱シテ損亡セシムル事。(第四十二)

右諸國ノ住民、逃脫ノ時、其ノ領主等逃毀ト稱シテ妻子ヲ抑留シ、資財ヲ奪取ルコト所行ノ企甚々仁政ニ背ケリ、若召シ決セラル、ノ處、年貢所當ノ未濟アレハ其ノ償ヲ致スヘシ、然ラサレハ早ク損物ヲ糺返セラルヘシ、但シ去留ニ於テハ宜シク民意ニ任スヘキ也。

〔本條ハ泰時善政ヲ以テ民意ヲ收ムル爲ニ年貢ヲ納ムルコトヲ得ヌシテ逃亡シタル百姓ノ妻子資財ヲ領主ニ於テ恣ニ抑留スルコトヲ制止シタルモノナリ。〕  
「損物」トハ被奪品ヲ云フ。逃亡者アルトキハ直ニ遺物ヲ押取セス、本人ヲ召出シテ次第ヲ糺問シ、年貢未濟ナレハ之ニ當ル財物ハカリテ領主ニ收メシムルナリ、實ニ式目五十一條中ニ下民ノ生

活ニ關スルモノハ唯此ノ一條アルノミ。去就ヲ民意ニ任ストハ其ノ領地ニ留マリ住居スルト他郷ニ移轉スルトハ本人ノ自由ニ任スヘシトナリ。本人所在分明ナラサル間ハイツマテモ遺財ニ手ヲ付ケシメサルナリ。

○四節身分ノ條々 身分ニ關スル條項ハ第十八、第二十、第廿一、第廿

二、第廿三、第廿四、第廿五、第廿六、第廿七、第四十一ナリ。

一、所領ヲ女子ニ讓リ與ヘテ後、不和ノ儀有ルニ依テ、其ノ親悔返スヤ否ノ事。(第十八)

右男女ノ號異ナリト雖父母ノ恩惟同シ、法家ノ倫申ス旨アリト雖女子ハ則悔返サ、ルノ文ヲ憑テ不孝ノ罪業ヲ憚ル可カラス、父母ハ亦敵對ノ論ニ及ハンコトヲ察シテ所領ヲ女子ニ讓ル可カラサル歟、親子義絶ノ起ルヤ既ニ教令違犯ノ基ナリ、女子若向背ノ儀アラハ宜シ

ク父母進退ノ意ニ任スヘシ、之ニ依テ女子ハ讓狀ヲ全クセシカ爲ニ忠孝ノ節ヲ竭クシ、父母ハ撫育ヲ施サンカ爲ニ慈愛ノ思ヲ均シウセシモノ歟。

〔蓋悔返〕トハ親ヨリ婚嫁ノ幣トシテ女子ニ財産ヲ讓與ヘタルノ意ニ依リ前ノ讓狀ヲ取消スヲ云フ、而シテ明法家ノ輩ハ戶令ニ「夫家ニ居ル女子ノ財物ハ悔返ノ法無シ」トアルヨリ一旦女子ニ讓與ヘタル財産ハ其夫ノ進退ニ任スヘシ、悔返スヘカラスト説ケトモ當時戰國ノ世トナリテ女子ノ婿タル者時トシテハ敵ト成リテ女子之ニ從フコトアリ、其ノ時悔返ノ道ナキニ於テハ是レ財産ヲ敵ニ讓與フルニ均シケレハ式目ハ之ヲ改正シテ、何時ニテモ悔返シ得ヘキモノトシ、其ノ理由ヲ付シテ曰、悔返セシメサルノ文アルキハ女子ハ之ヲ恃ミテ實ノ親ニ對シ孝ヲ竭サスシテ父ノ敵タル夫ニ從フヘク、親モ此ノ如キアルニ至ルヲ恐レ

テ讓與フヘキ財産ヲ讓與ヘサルヨリ撫育ノ道ニ欠點ヲ生スヘシト。  
是レ世ノ變遷ノ爲ニ父母ノ子ニ對スル權力ノ増進シタル例ニシテ日  
本法律史上ノ一要點ナリ」

一、父母所領配分ノ時義絶ニ非スト雖、成人ノ子息ニ讓與ヘサル事。(第  
二十二)

右其ノ親、成人ノ子ヲ以テ推舉セシムルノ間、勤厚ノ志ヲ勵マシ、勞功  
ヲ積ムノ處ニ、或ハ繼母ノ讒言ニ就キ、或ハ庶子ノ鐘愛ニ依リ、其ノ子義  
絶セラレスト雖、彼ノ處分ニ漏レテ佗條ノ<sup>失志</sup>ノ條非據ノ至ナリ、仍テ  
今立ツ所ノ嫡子ノ分ヲ割キ五分ノ一ヲ以テ無足ノ兄ニ宛テ給スヘ  
キナリ、但シ少分タリトモ計リ宛テタル者ハ嫡庶ヲ論セス證據ニ依  
ル宜ク、抑、嫡子タリト雖指セル奉公ナク、不孝ノ輩ニ於テハ沙汰ノ限  
ニ非ス。

〔本條ハ父子義絶シタルニ非サルニ親戚中ノ私情ニ依リ嫡子ニ家督ヲ  
讓ラス之ヲ庶子ニ讓リタルトキノ處分ナリ、即チ少分ニテモ嫡子ニ與  
ヘオキタル場合ハ各其ノ處分ニ依ラシムトイヘ、全ク與ヘサリシト  
キハ現家主ノ五分ノ一ヲ與フルナリ。是レニ依テ見レハ財産相續ノ  
原則ハ長子相續ナリシモ、父ノ意ニ依リ嫡子退ケ庶子進ムルコトヲ得  
タルモノニシテ、退ケラレタル者ハ別ニ家ヲ起スノ習慣ナリシナリ。〕  
一、讓狀ヲ得テ後其ノ子令<sup>モシ</sup>父母ニ先キマテ死去セシ跡ノ事。(第二十)  
右其ノ子令存ストイヘ、悔返サシムルニ至テハ何ノ妨カアラシヤ  
況ヤ子孫死去ノ後ハ只々父祖ノ意ニ任スヘキナリ。〕  
一、所領ヲ子息ニ讓リ安堵ノ御下文ヲ給フノ後其ノ所領ヲ悔還シ他ノ  
子息ニ讓與フル事。(第廿六)

右父母ノ意ニ任スヘキノ由具ニ以テ前條ニ載セ了ハンヌ、仍テ先判

ノ讓ニ就キ安堵ノ御下文ヲ給フト雖其ノ親之ヲ悔還シ他ノ子息ニ讓ルニ於テハ後判ノ讓ニ任セテ御成敗アルヘシ。

但シ前條トハ第廿條ヲ指スナリ環翠軒說前判後判ト云フハ安堵狀ノ與ニ

將軍家ノ判ヲ捺スカ故ナリ上同

以上數條ニ依テ之ヲ見レハ大寶令ノ時代ニハ家長在世ノ時其ノ子孫ハ私財ヲ有スルコトヲ禁シタルニ比スレハ一段ノ進步ナリト雖尙ホ子ノ親ニ讓受ケタル財産ニハ完全ノ所有權無ク、親ノ意ニ依リ沒收セラル、コトアリタルナリ。

一、未處分ノ跡ノ事。(第廿七)

右且ハ奉公ノ淺深ニ隨ヒ、且ハ器量ノ堪否ヲ糺シ、各、時宜ニ任セテ分チ宛テラルヘシ。

〔本條ハ父在世ノ時ニ財産相續ノ處分ヲ爲シオカサリシ場合ニ於テ其

ノ分當方ヲ定メタルモノニシテ、是レ亦大寶令ノ時ニ於ケルト大ニ差違スルモノナリ。令ノ時ニ於テハ嫡母繼母及嫡子ハ各、二分庶子ハ一分女子ハ半分ト云フ如ク法律ニ於テ分當ノ比例ヲ定メタリ、然ルニ式目ニ於テハ奉公ノ淺深本人ノ器量ヲ見量リテ主家ノ隨意ニ之ヲ定ムルコト、セリ、是レ又戰國ノ世ニ移リタルヨリ來タルノ變化ナリ。

一、妻妾夫ノ讓ヲ得テ離別セラレ後彼レノ所領ヲ領知スルヤ否ノ事。

(第廿一)

右其ノ妻重科アルニ依リ棄捐セラレ、ニ於テハ假令往昔ノ契狀アリト雖前夫ノ所領ヲ知行シ難シ、又彼ノ妻功アリ過ナク、新キ新キ女ヲ賞シ舊ヲ棄ツルハ讓ル所ノ所領悔還スルコト能ハス。

一、夫ノ所領ヲ讓得タルノ後家令改嫁スル事。(第廿四)

右後家タル輩夫ノ所領ヲ讓得タル者ハ須ク他事ヲ抛テ夫ノ後世ヲ

訪フヘキノ處式目ニ背ク事其ノ咎ナキニ非サルカ、然ルヲ貞心ヲ忘  
レ令改嫁セハ得ル所ノ領地ヲ以テ亡夫ノ子息ニ宛テ給フヘシ、若又  
子息ナケレハ別ノ御計アルヘシ。

〔以上二條ハ正理ヨリ出ツルモノニシテ大寶令ノ精神トモ甚々違ハ  
ス。

一、女人ノ養子ノ事。(第廿三)

右法意ノ如クハ之ヲ許サスト雖右大將家ノ御時ヨリ以來當世ニ至  
ルマテ其ノ子ナキノ女人等所領ヲ養子ニ讓與フル事不易ノ法勝テ  
計フ可カラス、加之都鄙ノ例先蹤惟レ多シ、評議ノ處尤信用スルニ足  
ルカ。

蓋令ニハ子無キ者ニ養子ヲ許スノ條文アレト寡婦ニ之ヲ許スノ條文  
ナシ、故ニ明法家ハ許ス可カラストシタレ既ニ慣例ト成リオリ且都

鄙ノ間ニ先例多シ依テ寡婦ニモ養子ヲ許スヘシトノ評議ハ頗ル信用  
スルニ足ルトナリ。

一、關東御家人月卿雲客ヲ以テ聲君ト爲シテ所領ヲ讓ルニ依リ公事ノ  
足減少ノ事。(第廿五)

右所領ニ於テハ彼ノ女子ニ讓リ各別セシムト雖公事即チ幕府ニ對  
スル納稅等ノ  
務ニ至テハ其ノ分限ニ從テ省キ宛所得ノ一分ヲ省  
テ上納スルナリテラルヘキナリ  
親父存日ニ從ヒ優恕ノ儀ヲ成シ宛テ課セスト雖逝去ノ後ハ尤モ催  
勤セシムヘシ、若權威ヲ募リ勤仕セサレハ永ク件ノ所領ヲ辭退セシ  
ムヘキカ、凡ソ關東祗候ノ女房ダリトモ殿中平均ノ公事ニ泥ムコト  
勿レ、此ノ上猶ホ難澁スル者ハ所領ヲ知行スヘカラス。

〔此ノ一條ハ式目ヲ適用シ難キ公家ノ輩ヲ智トスルニ因リ幕府ノ爲ニ  
不利益ヲ來タヌヲ防クモノニシテ頗ル注目スルニ足レリ。〕

案スルニ當時ノ將軍ハ皆京都ヨリ下向ノ公家ナリシニ依リ之ニ從ヒ下向セシ月卿雲客月卿ハ三位以上雲客ハ五位以上ノ公家ヲ云フモ多カリシ中ニ關東御家人ノ娘ヲ娶リシモアリテ實ノ父ヨリ其ノ娘ニ讓與ヘタル領地ニ對スル公事即チ年貢ハ其ノ實父存命ノ間ハ娘ニ代リ之ヲ納メタリトモ實父ノ死後ハ月卿雲客ニ嫁シタル本人ヨリ納ムヘシ、又將軍家ニ宮仕スル女房トモ、將軍ノ權勢ニ依リテ年貢ヲ拒ムコトヲ得ストノ義ナリ、斯クテ延應二年五月十四日ニ至リ終ニ自今以後雲客以上ニ相具即チ婚嫁ノ義スル女子ニハ所領ヲ讓與スヘカラサルナリト定メタリ。是レ固ヨリ幕府ノ支配ヲ受ケ年貢ヲ納ムヘキ土地ノ減少スル原因ヲ絶ツノ目的ナルコト明ナリ。

一、奴婢雜人ノ事 (第四十一)

左右大將家ノ御時ノ例ニ任セ其ノ沙汰ナク十箇年ヲ過ストキハ理

非ヲ論セス沙汰ヲ改ムルニ及ハス、次ニ奴婢生ム所ノ男女ノ事法意ノ如クハ子細アリト雖同御時ノ例ニ任シ男ハ父ニ付キ女ハ母ニ付クヘキ也。

(本條ノ義ハ現在甲人ノ下女下男ト爲リテ十年ヲ過キタル者ニ付キ乙人ヨリ彼レハ從來自分ノ譜代ナレハ自分ニ屬スヘキモノナリトテ論訴ストモ其ノ理否ニ拘ハラス沙汰ヲ改メストノ義ナリ、又奴婢ニハ元來婚姻ヲ公許セサレハ生ム所ノ子ハ男女トモニ母ニ付カシムルコト戶令ノ規程ナリ、然レトモ式目ハ之ヲ一變シテ男子ハ父ノ主家ニ屬シ女子ハ母ノ主家ニ屬スヘシト爲シタリ。

式目ノ奴婢ハ主家譜代ノ從者トシテ其ノ家ヲ去ルコト能ハサリシニ於テハ自由ノ民ニ非スト雖尙ホ之ヲ令ノ奴婢ノ牛馬ノ如ク賣買セラレタルニ比スレハ幾分カ優レル所アリ、是レ即チ戰國ノ世ニ於テ家々

競テ多ク郎黨ヲ得ントシタルヨリ自ラ優待シテ其ノ逃亡ヲ防止セシトセシニ因ルモノ乎。

○五論訴檢斷ノ條々 論訴ハ民事ニシテ檢斷ハ刑事ナルコト前

述ノ如シ其ノ重モナル條々ヲ左ニ舉ケントス。

一、本奉行人ヲ聞キテ別人ニ付キ訴訟ヲ企ツル事。(第廿九)

右本奉行人ヲ聞キテ更ニ別人ニ付キ内々訴訟ヲ企ツルノ間參差ノ

沙汰不慮ニシテ出來タル歟、仍テ訴人ニ於テハ暫裁判ヲ抑ヘタル可

シ、執申ス人ニ至テハ御禁制アルヘシ、奉行人若緩怠ニシテ廿日ヲ

經ハ廷中ニ於テ之ヲ申スヘシ。

〔蓋受持ノ奉行人ヲ措キテ直ニ上官ニ訴フル等ノ事アリテハ裁判ノ統

一ニ害アルニ因リ訴人ニ對シテハ暫ク裁判ヲ見合セ、取次キタル者ニ

對シテハ之ヲ禁制スヘシ、而シテ奉行人ニ於テ訴訟ヲ請取リテ後廿日

ニ及フモ沙汰セサルトキハ記錄所ノ文殿ト云フ所ニ申出ツヘシトノ

義ナリ、廷中ノ日トテ日子及件數ヲ定メテ聽訴スルナリ、〔環翠軒〕

一度々召文給ルト雖參上セサル科ノ事。(第三十五)

右訴狀ニ付キ召文ヲ遣スコト三箇度ニ及ヒテ參上セサレハ訴人理

有レハ直ニ裁許セラレヘシ、訴人理無ケレハ又他人ニ給フヘキナリ、

但シ所從馬牛并雜物等ニ至テハ員數ニ任セ糺返セラレ、寺社ノ修理

ニ付セラレヘキナリ。

〔環翠軒ノ解ニ曰、一度ノ召文ハ七箇日ヲ以テ限トス、三箇度ノ召文ハ廿

一日ナリ、後悔ノ召文トテ三度召文ノ外ニ又一度之ヲ付ク、其レマテハ

廿八日ナリ、後悔ノ召文ニ思フコト環翠軒ノ注解ニ在リ、三箇度ノ召文ニ就

テ參上セサレハ違背ノ編ナリ、訴人告理アラハ敵方ノ違背ノ編ヲ見テ

訴人ノ方へ御裁許アルヘシ、訴人無理ナレハ論所ヲ他人ニ下サルヘシ



云云ト。

論所所領ニ關セスシテ所從即チ奴婢馬牛雜物ニ關スル場合ニ於テ三度ノ

召文アルモ論人原參決セズ且訴人理アルニ於テハ論人ノ方ニ在ル所

從馬牛雜物等總ヘテ訴人ノ申ス員數ヲ論人ヨリ糺返即チ上テ取ラレテ訴

人ノ方ニ付セララルヘシ若又訴人無理ナレハ其ノ所從馬牛雜物ハ論人

ノ物ナレトモ召文ニ參決セサリシニ因リ之ヲ論人ヨリ沒收シテ寺社

ノ修理ニ轉用セララルヘシトノ義ナリ。

一、兩方ノ證文理非顯然ノ時對決ヲ遂ケント擬スル事。(第四十九)

右彼是證文理否顯隔ノ時對決ヲ遂ケスト雖直ニ成敗アルヘキ歟。

〔即チ對決ハ證文不明ノ時ニ限リテ其ノ他ハ文書裁判ナリシナリ〕。

一、問注ヲ遂クル輩御成敗ヲ相待マス權門書狀ヲ執進スル事。(第三十

右裁許ニ預ル者ハ強縁ノ力ヲ悅ヒ棄置セララル、者ハ權門ノ威ヲ愁

フ、爰ニ得理ノ方人カガウハ頻ニ扶持ノ芳思ヲ稱シ、無理取訴ノ方人ハ竊ニ憲

法ノ裁斷ヲ猜ム、政道ヲ躪ス職トシテ斯ニ由ル、今ヨリ以後確ニ停止

スヘキナリ、或ハ奉行人ニ就キ或ハ廷中ニ於テ之ヲ申サシムヘシ。

一、罪過ノ由披露ノ時糺決セラレス所職ヲ改替スル事。(第四十五)

右糺決無キノ儀御成敗アラハ犯否ヲ論セス定メテ讐憤ヲ貽ス歟、早

ク淵底黒ヲ究メ禁斷セララルヘシ。

〔此ノ一條ハ裁判ヲ經スシテ刑事ノ處分ヲ爲スコトヲ戒メタリ〕。

一、謀叛ノ事。(第九)

右式目ノ趣兼カチテ日ニ定メ難キカ、且ハ先例ニ任セ、且ハ時儀ニ依リ之ヲ

行ハルヘシ。

〔此ノ一條ハ謀叛ノ罪ニシテ大寶律ニ比シ其ノ變更最モ甚シキモノト

ス。大寶律ニ依レハ謀叛ハ八虐ノ第三ニシテ罪科ノ最モ重キモノナ

リ、從テ其ノ處分モ一定シタリ、然ルニ式目ニ至リ何故ニ斯ク改メタリヤト云フニ、是レ封建ノ世ニ際シ謀叛ト謀叛ニ非サルモノトノ間ニ區別ヲ立テ雖キ場合アリ、就中朝廷ニ對シテ言ヘハ謀叛ナルモ幕府ヨリ見レハ謀叛ニ非サル場合モ有リヤニ因ルナリ。

一、同時ノ合戦ノ罪科父子各別ノ事。(第十七)

右父ハ京方ニ交ルト雖、其ノ子關東ニ候シ、子ハ京方ニ交ルト雖、其ノ父關東ニ候スルノ輩、賞罰既ニ異ナリ、罪科何ソ混<sup>ヒトシ</sup>カラシ、又西國ノ住人等父タリト雖子タリト雖一人京方ニ參ラハ住國ノ父子其ノ咎遁ル可カラス、同道セスト雖同心セサルニ依リテナリ、但シ行程境遠、音信通シ難ク、共ニ子細ヲ知ラサル者ハ互ニ罪科ニ處セラレ難キ歟。

〔此ノ一條ハ敵味方ノ關係ニ依リ父子罪科ヲ異ニスルノ規程ナリ。〕

一、殺害及傷ノ罪科ノ事付父子ノ咎相互ニ懸 (第十)

右或ハ當座ノ爭論ニ依リ、或ハ遊宴ノ醉狂ニ依テ不慮ノ外若殺害ヲ犯サハ其ノ身死罪ニ行ハレ并ニ流罪ニ處セラレ、所帶ヲ沒收セラルト雖、其ノ父其ノ子相交ラサルハ互ニ之ヲ懸クヘカラス、次ニ及傷ノ科ノ事同ク之ニ准スヘシ、次ニ或ハ子或ハ孫、父祖ノ敵ヲ殺害セシニ於テハ父祖縱ヒ相知ラスト雖其ノ罪ニ處セラレヘシ、父祖ノ憤ヲ散センカ爲ニ忽ニ宿意ヲ遂クルノ故ナリ、次ニ其ノ子若クハ人ノ所職ヲ奪ハント欲シ、若クハ人ノ財寶ヲ取ランカ爲ニ殺害ヲ企ツト雖、其ノ父知ラサルノ由分明ナラハ緣座ニ處ス可カラス。

〔大寶律ニハ、故殺闘殺謀殺ヲ區別シ式目ニ此ノ區別ヲ明ニセサレトモ尚ホ輕重ニ依リ罰ヲ死罪、流罪、沒收ノ三等ニ分ケタリ。〕

〔本條ニ付キ奇異ナルハ父祖ノ敵ヲ殺害スルノ罪ナリ、敵ハ「カマキ」ト訓ヲ付セアリ、且「父母ノ憤ヲ散スル爲ニ忽チ宿意ヲ遂クル」ト云ヘハ今謂

フ警撃ノ事ナルカ如シ然レハ其ノ祖父ヲ罪スルハ解シ難シ父祖ハ既ニ先ツ殺害セラレテ世ニ無キ道理ナリ故ニ本條ハ猶ホ世ニ在ル父親ニ代リ其ノ敵トスル所ノ者ヲ殺害シタル場合ノ處分ト解スヘシ環翠軒モ父祖ノ爲ニ敵ヲ爲ス者ヲ殺スヲ云フト解シタリ。

一、夫ノ罪科ニ依リ妻女ノ所領沒收セララル、ヤ否ノ事。(第十一)

右謀叛殺害并山賊海賊夜討強盜等ノ重科ニ於テハ夫ノ咎ヲ懸クヘキナリ但シ當座ノ口論ニ依リ若刃傷殺害ニ及ハ、之ヲ懸クヘカラス。

一、惡口ノ咎ノ事。(第十二)

右闘殺ノ基惡口ヨリ起ル其ノ重キハ流罪ニ處セラレ其ノ輕キハ召籠メラルヘキ也問注ノ時即チ裁判時惡口ヲ吐カハ則チ論所ヲ敵人ニ付ケラルヘキナリ又論所ノ事其ノ理無クハ他ノ所領ヲ沒收セララル

ヘシ若所帶ナクハ流罪ニ處スヘキナリ。

一、人ヲ毆ツ咎ノ事。(第十三)

右打擲セララル、ノ輩其ノ恥ヲ雪ンカ爲ニ害心ヲ露ハス歟人ヲ毆ツノ科甚タ以テ輕カラス仍テ侍ニ於テハ所領沒收セララルヘク所帶無クハ流罪ニ處スヘシ良徒以下ニ至リテハ其ノ身ヲ召禁セシムヘキナリ。

〔惡口毆人ハ之ヲ咎ト云ヒ罪科ト云ハサルニ注意スヘシ咎ハ犯罪ノ最モ輕ク且其ノ性質ニ於テ兇惡ノ意ナキモノナリ例ヘハ今ノ違警罪及輕禁錮ニ當ル場合ノ如キ乎〕

一、謀書ノ罪科ノ事。(第十五)

右侍ニ於テハ所領ヲ沒收セララルヘシ若所帶ナケレハ遠流ニ處セララルヘキナリ凡下ノ輩ハ火印ヲ其ノ面ニ捺セララルヘキナリ執筆ノ者

ハ同罪ニ與ル、次ニ論人ノ所帶ノ證文ヲ以テ謀書タルノ由多ク以テ之ヲ稱ス、披見ノ處ニ若謀書タラハ尤モ先條ニ依テ其ノ科沒收還流又ハ火印アル可シ、又文書ノ誤謬ナクンハ謀略ノ輩ニ仰セテ神社佛寺ノ修理ニ付ケラレヘシ、但シ無力ノ輩ニ至テハ其ノ身ヲ追放セラレ可キナリ。

即チ裁判ニ於テ被告ノ證書謀書ナレハ本項ノ罪ニ行フヘク、又疵謬無ク真正ノ證書タルコト顯ナルニ於テハ謀書ナリト云ヒ立テ、裁判ニ勝タント謀リタル者ニ過科ヲ出サシメ以テ寺社ノ修理ニ供フヘク、資力ナキ者ハ追放スヘシトノ義ナリ。

一、強竊ニ盜罪科ノ事付放火 (第三十三)

右既ニ斷罪ノ先例アリ、何ソ猶豫ノ新儀ニ及ハンヤ、次ニ放火ノ事盜賊ニ準據シテ宜シク禁壓セシムヘシ。

〔但シ先例トハ大寶律ノ明文并ニ近時ノ實例ヲ云フカ、斷罪ハ罪ノ判斷ト云フ義ナリ、然レトモ追加ニハ死罪トセリ〕。

一、他人ノ妻ヲ密懷ノ罪科ノ事。(第三十四)

右強姦和姦ヲ論セス人ノ妻ヲ懷抱スルノ輩所領半分ヲ召サレ、出仕ヲ罷メラルヘシ、所帶無キ者ハ遠流ニ處スヘキナリ、女ノ所領同ク之ヲ召サルヘシ、所領無キ者ハ又之ヲ配流セラレヘキナリ、次ニ道路ノ辻ニ於テ女ヲ捕フル事即チ御家人ニ於テハ百箇日ノ間出仕止ム可ク、郎徒以下ニ於テハ右大將家ノ御時ノ例ニ任シ、片方ノ鬚髮ヲ剃除スヘキナリ。

但シ法師ノ罪科ニ於テハ其ノ時ニ當テ斟酌セラレヘシ。

〔律ニハ強姦和姦ニ依リ罪ノ輕重アレトモ式目ハ之ヲ差別セス、環翠軒ハ裁判ニ於テ強和ヲ判別セントスレハ憚ルヘキ事多ク起ルニ因ルト言

ヘリ、次ニ法師ノ罪科ヲ臨時斟酌スルハ妻帯ヲ許サ、ル僧徒ニ於テ特ニ重キヲ要スルカ故ノミニ非スシテ僧徒ニ鬢髮ナキカ故ナリ。  
(以上ハ即チ論訴檢斷ニ關スル條項ノ重ナルモノトス)。

第廿五章 南朝ノ法制

○一、復古ノ形勢 熟南朝ノ形勢ヲ察スルニ、後醍醐天皇及左右ノ

相卿雲客ハ其ノ意、延喜天曆以前ニ於ケル一統ノ政ヲ再興スルニ在リシモ、朝敵ヲ斃スコトヲ得タルハ一ニ武士ノ力ニ因リ、而シテ武士ハ恩賞ヲ以テスルニ非サレハ永ク之ヲ繫グニ由シナカリシヲ以テ、勢ヒ上古郡縣ノ制ヲ起スコト能ハサリキ、是ニ於テ時勢ノ赴ク所ト、朝廷ノ守ル所ト相齟齬シ、遂ニ首尾貫徹ノ制度ヲ得ルニ至ラス、混雜ノ間ニ三四年ヲ經過シテ紊亂再ヒ起リシモノナリ。此ノ時ニ當リ古今ヲ變通スルノ一策ハ武家ヲ以テ貴族ノ列ニ加ヘ、爵祿ヲ以テ其ノ功名心ヲ買ヒ、之ヲ郡縣ニ派出シテ守護セシムルニ在リタレド、然レトモ此ノ如キハ固ヨリ當時ノ公卿カ想像スルマニ好マサリシ所ナリ。

復古數年ノ間ニ於テ整然タル官職法度ヲ得ルニ至ラサリシハ其ノ記錄ノ今日ニ存セサルニテ知ルヘシ、後ニ延元ノ亂アリト雖、若書然ノ制度アルコト猶大化改新ノ時ノ如キアリセハ何ソ傳ヘテ今日ニ至ラサランヤ、後醍醐天皇入京ノ時別ニ堂々タル改新ノ詔勅アリシヲ聞カス、却テ恩賞ヲ重シ、安堵ヲ沙汰スルニ至リテハ唯々舊弊ヲ反覆スルニ過キサリキ。當時ノ制度禁令ヲ錄セルモノハ獨建武記アルノミ、或ハ之ヲ建武年間記ト云フ、是レ唯々一家氏太田相傳ノ私書ノミ、而シテ其ノ体裁ニ至リテハ事緒紛亂シ、時代前後シ、之ヲ完結ノ編輯ト爲スヲ得サルナリ。

○節二建武ノ法制 今試ニ建武記ニ依リ建武元年ヨリ三年ノ間ニ立テラレタル制度官職ノ大要ヲ舉ケントス、是レ固ヨリ政體ノ沿革ニ大關係ナシト雖、其ノ實ハ後世ニ至リ學者ヲシテ郡縣ノ制ノ王政復古ニ伴フヘキヲ主張セシメタル原因ノ一ナリ。

北條一族ノ處分及諸國領知ノ處置ニ關スル公令ヲ一集シタルモノヲ「條々」ト名ツケ建武記ニハ建武二年ノ日附ヲ以テ之ヲ卷首ニ載セタリ、左ノ如シ。

一本領安堵事

開發餘流并類代相傳ノ仁也、故無ク收公沒セラレタル者ハ文書道理ヲ尋究メラレ勅裁アルヘキナリ、根本ノ券契ヲ帶スト雖、相傳不明ナル者ハ沙汰ニ及フ可カラス、文治建久以來恩給ノ地知行中絶セル者同シク沙汰ノ限リニ非ス、但シ其人若々要須メラハ宜シク臨時聖斷アルヘシ。

一當知行地安堵事

一同ノ法ヲ以テ宣旨ヲ下サル、上ハ重テ其ノ沙汰ニ及ハス、但シ非分ノ妨ニ依リテ管領全カラサルノ由愁申ス者ハ當知行ノ所見ヲ尋

究シ、文書ヲ披覽シ正文申ス所ニ相違ナキ者ハ其ノ所ノ名字ヲ載セ  
裁許アルヘシ、若段歩トイヘ正知行セサルノ地ヲ以テ事ヲ安堵ニ寄  
セ掠領セル者ハ支證出來スルニ隨ヒ本領ヲ召放タル可ク、所帶ナキ  
者ハ其ノ身ヲ斷罪セラルヘシ。

一非罪科輩當知行地被充ル行ヲ他人事ニ

相傳ノ支證默止セラレ難キ者ハ縱ヘ恩賞タリトモ之ヲ返付セラレ  
ヘシ、唯々當知行ノ號有リテ由緒無キ者ハ其ノ身朝要ノ仁ニ非サレ  
ハ事ニ依テ用捨アルヘシ案スルニ朝要ハ朝廷要路

一今度沒官地代官職安堵事

本人己ニ朝敵ト爲リ代官何ソ安堵ノ號アラシヤ、但シ別ニ仔細アル  
者ハ臨時恩給タルヘシ。

一沒官地内以一村一名或寄附寺社或讓與諸人各別相傳事

高時法師一族以下朝敵ノ輩知行ノ地悉ク沒官ノ上ハ、與奪ノ遠近ニ  
依ル可カラス、沒官ノ内タルヘシ、但シ件ノ族以前ノ領主ノ子孫ニ相  
傳シ各別相當ノ所見ヲ帶スル者ハ本領安堵ノ法ニ同シ。

一朝恩地等混亂事

一庄一郷内數輩知行ノ仁、本領主ノ名字ヲ繪旨ニ載セラル、者ハ給  
主各別ノ地ヲ混領ス可カラス。

一領家地頭所務事

領家ト云ヒ、地頭ト云ヒ、近年所務ノ例ニ違フ可カラス、子細アル者ハ  
各、奏聞ヲ經ヘシ、近日威勢ヲ以テ恣ニ濫妨ヲ致スノ類其ノ聞アリ、諸  
國ノ擾亂職トシテ茲ニ由ル、先例ニ背キ雅意我ニ任シ其ノ沙汰ヲ致  
ス者ハ縱ヘ理訴タリトモ永ク後訴ヲ棄捐セラルヘシ。

一繪旨遵行事

建武以後ノ繪旨ニ於テハ輒チ改動ノ儀有ル可カラス、子細アリテ改  
シラルヘキ者ハ其ノ趣チ繪旨ニ載セラレ、國司守護等ニ其ノ遵行致  
ス可キノ沙汰ニ就キ仰セラルヘク、兼テハ又同所異名チ以テ繪旨チ  
掠給スルノ類アラハ子細チ注進シ罪科ニ處セラルヘシ。

一不遵勅致濫妨事

或ハ本領ト號シ或ハ新給ト稱シ聖斷チ忽ニスル者ハ縱ヘ勳功ヲ募  
リ恩賞ヲ望ムト雖帶スル證文一字相傳永ク棄捐セラレ、訴訟召上ケ  
其ノ身罪科ニ處セラルヘシ。

一諸國諸庄園狼籍國司守護注進事本條ハ一本ニハ特別ノ發令トナリ  
之チ條々ノ中ニ加ヘス。

注進狀到着セハ即チ決斷所ニ伺フヘク、彼所ノ上卿奉行人チ差定メ  
急速評定チ加ヘ奏聞チ經テ勅答ノ趣ニ任セ國司守護チ召仰スヘシ

勅裁チ敍用セス、城郭チ構ヘ、合戰ニ及フ者ハ國司守護等ノ注進ニ就  
キ濫妨ノ本人ニ懸ケ嚴密ニ其ノ沙汰アルヘシ、在京ノ輩ニ於テハ決  
斷所ニ召サレ在國ノ輩ニ於テハ使節チ差使ヘシ各、日限チ定メ當給  
人ニニ付キ下地ニ於テ沙汰シ、下手人ニ至テハ法ニ任セ之チ斷罪ス  
ヘキ由仰含メラルヘシ、此ノ上尙ホ遵行セス、又知意ノ狀所見アル者  
ハ所領公収セラレ、其ノ身斷罪セラレヘシ、惡黨人ニ於テハ注進到來  
ノ時注ニ任セ其ノ沙汰アルヘシ、若國司守護注進不實ノ條露顯セル  
者ハ所職チ改メラル、上所領召サルヘシ、但シ正員在國セサル者ハ  
代官チ召上ケ所當ノ罪科ニ行ハルヘシ、其ノ身在國セスト雖知意ノ  
條所見アル者ハ罪科ニ處セラルヘシ、又國中狼籍存知ナカラ注進致  
サ、ル者同前(以上)。

又諸國庄園郷保地頭職以下所領御年貢事ト題シテ數條チ定メラル是



レ今ノ税法ニ類スルモノナリ、左ノ如シ。  
一員數事

本領新恩ヲ論セス當時管領田地ノ分實正ニ任セ不日之ヲ注進スヘク、以後正税以下色々雜物等出ス所ノ廿分ノ一ヲ御倉ニ進濟スヘシ但シ貢税貢馬等ノ類ニ至テハ先例ヲ守ルヘシ、若注進ノ田數以下減少ノ條支證出來セハ餘田ニ於テハ収公セララルヘキナリ

一參期事

國ノ遠近ニ隨テ其ノ期ヲ定メ畢ンヌ、彼ノ時文ヲ守リ御倉ニ進納セラルヘシ、若懈怠致ス者ハ參期已後三ヶ月分ハ一倍ヲ以テ進濟スヘシ、此ノ上猶難澁セハ當年所務ヲ他人エ付ケラルヘシ。

一難澁輩事(當時ノ語ニテ難澁ト云フハ年貢滯納ノ事ナリ)

或ハ無催促ト稱シ、或ハ隱密ニ管領スル土地若其ノ年貢難澁セハ指

申スノ仁出來ニ隨ヒ所職ヲ改易セララルヘナリ。

一仕丁役事(朝廷課役ノ法ナリ)。

十町ノ田地ヲ以テ毎年一ヶ月ノ役勤任セシムヘキナリ。

其ノ他區々タル計畫ハ見エタレト、皆一時ノ便宜ニ依ルノミ大化改新ノ時ノ如ク大經綸アルニ非ス、特ニ封建ノ制ト郡縣ノ制ト相混雜シタルハ失策ノ大ナルモノナリ。

第二十六章 織田氏法制

○一 京中制度 織田信長ノ志ヲ得ル數年ヲ出テヌシテ逆臣ノ爲ニ斃サレ、未タ文政ヲ修ムルニ遑アラズ、然レトモ終始天下ヲ私スルノ意ナク、道德ヲ以テ覇業ノ基本トシ、常ニ諸將ヲ戒メテ公平ヲ課マルナカラシメタルハ、今世ニ傳フル二三ノ制令ニ於テ之ヲ見ルヘシ。帝國史略ニ抄出シタル義昭諫言ノ十七ヶ條ニモ此ノ意明白ニ見エタリ。其ノ義昭將軍ヲ二條城ニ敗リ、自ラ號令ノ權ヲ取ルニ及デ京地ノ制ヲ定メタルヲ見ルニ、愛民ノ主義明ナリ、信長記ニ曰、今度義昭公惡逆ノ御働故上京炎上ニ及フコト尤不便ナリトテ赦免セラレ、條々一京中地子錢永代令赦免畢、若從公家寺社方地子錢之内收納有來ル分者相計ヒ替地ヲ以可致沙汰事

一 諸役免除之事

一 鰥寡孤獨ノ者見計ヒ扶持方可令下行之事。

一天下一ノ號ヲ取者何レノ道ニテモ大切ナル事也、但京中諸名人トシテ内評議有テ可相定事。

一 儒道ノ學ニ心ヲ碎キ國家ヲ正サント深ク志ヲ勵ス者、或忠孝烈之者尤大切ナル事ニ候條、下行等他ニ異ナリテ可相計又其器ノ廣狹、能尋問可告知之事。

右條々相計ヒ可申付者也

元龜四年七月吉日村井長門守信長。

○二 關東制度

又天正十年澁川一益ヲ關東ノ管領ト爲スニ當リ、立テタル法度モ見ル可キモノアリ、信長記ニ曰、十一日ニ信長公東國法度仰置レシトテ羽林信忠卿二位法印ニ評議有テ條子書立給ヘリトアリ。一守國者可撰奉行樞要歟、其人則上下因之明也、若非其人則國內爲之

暗矣、明者是治安永久之本、暗者是危亂速亡之兆也、豈其輕乎、撰人在己、己正則不招自至、己不正則雖招不來矣、君有其德必臣也、有其道君雖未、有其德得其臣、舉用則亦能安、是其大公無我至虛所致而已、公生明之至言誠哉、長於人者、寤寐一生工案、可在此所哉之事。

一使臣計其器量、宜任其職而被與恩祿也、其任其職不違則何往而停滯ノ愁アラシヤ、大厦ハ一木ノ支ヘニ非ス、巨獨木鄧林ノ茂ヲ致ス事不能、臣云リ、近習外樣能々可有精察也、近世ノ體ヲ見ルニ、或ハ愛ニ溺テ小人ニ祿ヲ與ヘ、或ハ志ヲ恣ニシ漫ニ賞シテ潛ニ其非ヲ悔、是ヲ僭ト云、以用則無適用、以退則禍患生焉、畢竟所養非所用而每事必蹶也、所用非所養則事不立、于養于用兩失則國何以安乎、忽危亂至テ外國ノ強ヲ恐、或ハ時ノ然ラシムルトス、噫亂世ニ賢人無ニ非ス、只賢人在下、在下則ナキト同シ、以其德不能施而不善人心ヲ恣ニス、故ニ亡ヲ治世ニ不善

人無ニ非ス、不善人在下、在下則其惡不能長而終ニ自化シテ至革面而已、故ニ能ク賢愚上下ノ分不可忽、國家ノ興亡ハ只人ノ用捨ニ可在之事。

一對百姓年貢外不可掛課役而民安則君亦安矣、惡政則民苦、近世擾亂ニ君與民爲二物、噫衆惡自是生而且長、不可能止者也、所詮民間ノ愁ハ主ノ愁ナリ、利衆民府庫之財不可當不可普因民所利、利而自利アル所、專要候、一徹百度舉ル事、有得心漸々ニ其勤可爲肝要候事、

一關役并駒ノ口等之類役何レモ収納堅可令停止之事。

一課寡孤獨ノ輩國之窮民無告者也、尤不便ノ次第歟、能々於被加哀憐者吾本望也、若如此ノ者ニ公事出來セハ、敢可有斟酌歟、然ルニ叔世君臣無道ニノ剛強ヲ恣ニシ、柔弱ノ者ヲ貪ル、彼窮者ニ非儀申懸ル者アラハ親縁舊好共ニ不可遁其罪、夫聖人之政ハ澤及昆蟲トサヘ申傳候而

況不及人乎之事。

一治國家者ハ常ニ可存仁義矣、上好仁義則下化之、下有仁義則國家亂ル、事ナシ、上好孝順則人道下ヨリ修マリ、天下清平也、是ヲ聖智ノ功ト云、仁義孝順興則實利在其中矣、唯能信賞シテ可止乎其所事。

一主國家者賞罰シ用捨スル所、臣ノ忠否纔ニ達スル所ノ訴而已、庶人善不善ヲ論ノ賞罰スル事ハ唯數人ノミ、シカモ其論スル所一己ノ心ニ適與不適ノミ、必天下和樂ノ義ニアラス、訴ノ至ル事モ唯十ニシテ一ニ而已、殊ニ其訴ヲ決スルニ惟暫時ノ當否ヲ以テ大倫ノ實旨ニ本ヒテ正ス事ナシ、噫何トカ治道ス、マン、夫老ニ能事ルヲ感則人ノ孝ヲ感發ス、夫ニ能順ヲ感則人ノ貞ヲ興起ス、然則孝順ハ國ノ本實、何可不賞、故異朝ニハ卓行高節ノ者有則旌表之、諡之、教ヲ海外ニ傳フト云々能々可有思慮事。

一賞罰用赦ノ大體、夫明王ハ賞ヲ以表トシ、舊惡有テ今善有則今ノ善ヲ以舊惡ヲユルスト、又曰罪ノ疑ヲハ推ノ輕之、功ノ疑ヲハ推ノ重之、易曰赦過宥罪ト、先此旨ヲ以可有分別、歟、賞罰公不公能々慎肝要也、古語ニモ善善不進、惡惡不退、則雖有聖王不能致其治ト候、功臣倦則衆爭、寬急宜ヲ失テ國危、祿賢不愛、財賞功勿踰、時ト云々、舉措罰賞ノ間ニ私意アラハ其國亡ント心得アルヘシ、近來ノ體ヲ見ルニ賞ハ甚輕、罰ハ甚重シ、然ニ是ヲ改シ事賞罰上ニアラス、所出ノ法令ニ有リ、易所謂積豕牙是也、又法令ノ嚴急ナルヲ寬セズ、徒罰ノミ寬セハ、亦不可得者也、他以此可推之、舉措賞罰ハ治國樞機トイヘ、臣德齒不遺ハ何ノ爲ニカ用ヒン、故ニ法令ノ後ニ附之事。

一訴事出來之時ハ深可被盡淵底也、溺欲之輩ハ不問理非之當否而或計賄賂之多少、憚親疎遠近又ハ憚權威之所在、加此則誰カ可成安堵之思

乎、是以彌初條之旨可有納得、虞芮ノ訴聽訟者賢人ノ事、無訴者聖人ノ化、以可被其心得事。

一萬事妻妾ノ口入可禁之、女人ノ執行ニ依テ敗テ取事間多シ、往古ノ流例ニノ今案ニ非ス、尤深ク可相慎之事。

一素性宰相之器武將之器等ニ當ル士、尤大切也、若カヤウノ士アラハ儒道ヲ學ヒ可申也、近來武道ノミチ專トスル事、是學道損益ノ評ナキ故也、既ニ文武ト云上治國平天下士ノ所爲ニ非ノ亦誰カ所爲ナランヤ、サレハ文宣王モ仲由カ強ヲ押ヘ給ヒテ六蔽ヲ宣フ、好仁不好學其蔽也愚、好智不好學其蔽也蕩、好信不好學其蔽也賊、好直不好學其蔽也絞、好勇不好學其蔽也亂、好剛不好學其蔽也狂、トカヤ又學問ハ釋門ノミ勤ル事ト意得來ル事無是非次第候、一人ナレハ武士ニ學者有ハ最大切ナル事也、其方如存知予無學ニ候間國家ノ事過舉ノミ可有之候、然

間人民ノ安否如何アルヘキト惆悵至極ニ候事。

一今度豫參ノ國人下安堵之狀了、所領等混雜シ、塚目論有之者能々聞届明白ニ可申付之事。

一國侍拘へ來ル家來被官等ニ於テハ身ノ暇ヲ與フルノ由本主ノ狀ヲ取來ル程ニ無之ハ不可相拘、若自是以前拘へ來ル事有ニ於テハ返サルヘシト本主申理ラハ其者理不盡ノ害ニアハサルヤウニ示合ヒ返シ可申事。

一理不盡ノ族有之ニ依テ欲遂直訴輩其主人聞付及生害候ハ、曲事ニ可申付之事。

一爲主人者何事モ最負偏頗有ヘカラス、古語ニ日月ハ不爲一物晦其明、矣明王ハ不爲一人枉其法ト云リイカニモ明白ニ萬事ヲ行ヒ可申事。

第二十七章 豐臣氏法制

○節一 田尺整理 秀吉戰國ノ後ヲ承ケ一統ノ業ニ汲々マリシヲ以

テ民政ヲ願ルノ進ナリ、洛中ト雖盜賊横行シ庶民ヲ苦メタルコト石川五衛門ノ事跡ニ就テ見ルヘシ、且其ノ人ト爲ヨリスルモ秀吉ハ文字ニ迂ク、二三僧侶ニ顧問シタルコトアルモ一時ノ施策ニ止マリ、永遠ヲ期スルノ法規ニ及ハサリシモノ、如シ。唯々諸國ニ令シテ國郡圖ヲ作ラシメ、寺田、祠田ノ數ヲ錄進セシメ、檢田使ヲ發シ、五畿七道ノ田ヲ大量セシメタルハ著大ノ事業ナリ。古來三百六十步ヲ以テ一段トセシニ田尺整理ノ爲三百步ヲ一段ニ改メ、田ヲ檢スルニ尺地ヲ遺サス分寸ヲ貸サス、檢吏ニ賂遺スル者ハ捕ヘテ獄ニ下シ、以テ歷代田籍詐僞ノ宿弊ヲ正シタリ。此ノ時全國ノ田高一千八百二十五萬〇四百七十七石一斗五升ニシテ田租ニ上田中田下田ノ別アルモ大率收入ヲ三分シテ二

ヲ公收シ民其ノ一ヲ得タリ。又世ニ太閤式目ナルモノヲ傳フレト眞僞未詳ナラス、且法律ニ非ス寧ロ日常生活ニ於テ注意スヘキ要件ナリ。

○節二 大閤式目 太閤式目ハ萬治二年ノ刊本アリ、訛脫最多ク、讀ミ

難キモノ少ナカラスト雖校合スルニ由シナキヲ以テ此ニ其ノ全文ヲ掲載セシ。

一天道者偏直而叶、非道者無佛神、加護事

一無料者如籠名城、有過者無立處之事

一大切與申者御公方地頭之御用案、境納役事

一富人可思怨敵不可秘計之事

一貴者分別人賤者亦無分別之事

一有覺悟者可報先生、愚痴者可歎先生事

一修行者廻國之事懸心者寢覺有事

- 一親者縱小身思共可恐親背仰者不知天道事
- 一耕作商之兩道常可習昇者如左右也
- 一積進退人可扶持事不知算用可有後悔事
- 一馴可馴者夫妻之際亦汕斷有間鋪者男女事
- 一貴賤之人參會薄葉濃者先散之事
- 一祝言佛事成共早可立座鋪寸善尺魔之事
- 一朝暮忘間鋪者家家之稼有懈怠者失家事
- 一萬藝勝者覺悟也心違者能更不入之事
- 一親類近付喧嘩有時最負者聊爾不為致事
- 一公事有時強弱者必下而可落着之事
- 一他人之見能女思大敵其家不可出入事
- 一存分怨敵可音得以一言成怨敵之事

- 一留物者執筆之事
- 一人宿仕事縱知音之方成共聞子細可借事
- 一無心元合道路者於前後不可致同道之事
- 一長夜之寢覺安堵之道汕斷有間鋪事
- 一世上之傳言批判能可聞聖人之狂言成我僞事
- 一喧嘩之場早出者我抽而如好相論事
- 一添身敵大事掛心立居事
- 一男女之仲立拾六七迄可有斟酌之事
- 一父子成共為他人不孝孝行可親事
- 一親子懇者存生之內未來助者不知之事
- 一酒者我氣分次第過者可成煩之事
- 一地頭代官之儀不可致相違有迷惑之儀者寄寄佗言事

- 一於人之御前我俗性立之事
- 一靜謐之後別而惣忘之由申事
- 一就御前之女房達訴訟之事
- 一不知身程人平懷言之事
- 一高位之人致對座之事
- 一貴人之御前高鼻之事
- 一於聽聞座私物語之事
- 一人之前不知上座之事
- 一為下輩舞猿樂深盛之事
- 一閣執事振官領之事
- 一他人之草履踏之事
- 一魚食時器淨穢申事

- 一笛尺八之不知調子之事
- 一辨書知宛當我慢立之事
- 一師匠主親之氣不可返答之事
- 一於御前足音高踏鳴事
- 一立居拔入手之事
- 一上方之御座近祇候申事
- 一主親不知機嫌物申出事
- 一主之先謝蒙仰弓手之方通申之事
- 一寄合人上後惡口申事
- 一人之前疊縁踏之事
- 一戶之鷹陶之方通申事
- 一乍知他人之愁酒宴興行申事



- 一 御前畏時左之手下成事
- 一 湯風呂出入滴懸事
- 一 於人前突頰持申事
- 一 師匠主君之内戚下戚之沙汰申事
- 一 向主親申勝負伐申事
- 一 知者上人之前引經文致雜談申之事
- 一 不知身分限成高官事
- 一 無指奉公致恩賞事
- 一 蒙不孝俳偕御近鳥申事
- 一 不知身分限人嘲哂之事
- 一 調茶所惜奇料理指南之事
- 一 無分席好上座申事

- 一 不役人罪料抑斷之事
- 一 向伴傍輩緩心物語之事
- 一 關所行長居長咄之事
- 一 向貴人直道立申事
- 一 祝言座席禁申咄之事
- 一 背道理共於御前致論說事

第二十八章 德川氏法制

○一節 慶長十年法度 德川家康ハ武將トシテ文政ヲ修メ、廣ク舊記

ヲ求メ、經營極メテ周密ナリ。儒者林道春、僧崇傳金地院ヲ顧問ト爲シ、頼

朝以來、代々將軍ノ法式ヲ損益シ、慶長十一年五ヶ條ヲ令キ、諸大名ヲシ

テ之ヲ遵守シ、又之ニ違背スル者ヲ其ノ領内ニ置カサルコトヲ誓ハシ

ム、其ノ條々ニ曰

一 一季居ノ事、堅被停止ノ上ハ侍ノ儀ハ勿論、中間小者ニ至ル迄抱ヘ置

ク輩ニ於テハ速ニ罪科ニ處セラルヘキ事

一 伴天連門徒制禁ナリ、若シ違背アルノ族ハ、忽ニ其科ヲ遁ルヘカラサ

ル事

一 手負之事、上下ニ依ラス疵付候者之レアレハ他所ヨリ手負來ルニ付

テハ、其處ニ則留メ置キ其名ヲ注シ急度言上アルヘク若シ隠シ置ク

ニ於テハ其科ニ處セラルヘキ事。

一 煙草吸フ事禁斷セラレ畢ヌ、然ル上ハ賣買者迄見付ケル輩ニ於テハ

双方ノ家財ヲ下サルヘキナリ、若シ又路次見付ニ於テハ煙草并ニ賣

主ヲ所々ニ押ヘ置キ言上スヘシ、則付キタル馬荷物以下改メ出ス者

ニ下サル事。付何地ニ於テモ煙草付ルヘカラサル事。

一 牛ヲ殺ス事御制禁ナリ、自然殺スモノニハ一切賣ルヘカラサル事。

右ノ條々御領内エ急度相觸ラルヘク候、此旨仰出サル者ナリ、仍テ執達

件ノ如シ、慶長十七年八月六日。

○二節 朝臣法制 十九年六月更ニ朝臣制法五條ヲ定ム、是レ後ニ至

リテ公家法度ヲ定ムルノ前提ナリ。

一 公家衆家家ノ學問晝夜油斷ナキ様ニ仰セ付ラルヘキ事

一 老若ニ依ラス行儀ニ背ク輩ハ急度流罪ニ處スヘシ、但輕重ニ依リ年

序ヲ定ムヘキ事

一晝夜ノ御番老若俱ニ懈怠ナク相務メ、其外威儀ヲ正シク相調ヘ、祗候ノ時刻式目ノ如ク參勤仕樣仰セ付ラルヘキ事

一晝夜共ニ急用ナキ所町小路徘徊停止ノ事

一公宴ノ外私ニ不似合ノ勝負并ニ不行儀ニ於テハ、青侍以下抱ヘ置ク輩ハ流罪先條ニ同シキ事

右條々相定ムル所ナリ、五攝家傳奏ヨリ其屆之レ有ルノ時ヲ以テ武家ノ沙汰ヲ行フヘキモノナリ。慶長十八年六月廿六日。

○節三法度 元和元年七月大阪落城家康三條令ヲ發シテ普ク天下ニ號令スルノ權アルヲ示ス、一ヲ武家諸法度ト稱シ諸國大名ヨリ以下ヲ拘束ス、二ヲ公家諸法度ト稱シ、時ノ關白二條昭實公ト議シ奏可ヲ經テ定ムル所ニ屬シ天子ヨリ以下京都朝臣ヲ拘束ス、三ハ僧家諸法度ト

稱シ五山十刹ヨリ以下諸山ノ僧徒ヲ拘束ス、當時武家、公家、僧家ハ社會ノ三大等族タリシナリ。

○節四武家法度 武家諸法度ハ又之ヲ元和令ト稱ス、貞永建武ノ二

式目ニ準據スト云フモ相似ル所少シ、林信勝、金地院崇傳其ノ立案ニ與ルト云フ、代々ノ將軍就職ノ時之ヲ潤修シテ領布スルヲ例トス、初メ十三ヶ條アリ。

東府外紀ニ曰、祖神學士林信勝ニ命シ貞永建武二式ニ據リ新式ヲ作り諸官暨ヒ候國ニ領ツト其ノ條々左ノ如シ

一文武弓馬ノ道專ヲ相嗜ムヘキ事

文ヲ左ニシ武ヲ右ニスルハ古ノ法ナリ、急ニ備ヘサルヘカラズ弓馬ハ是レ武家ノ要樞ナリ、夫レ兵ハ凶器タリ、已ムヲ得スシテ之レヲ用ユ、治ニシテ亂ヲ忘レス何ソ修練ヲ勵マサランヤ。

- 一 群飲佚遊ヲ制スヘキ事
- 一 條ノ載スル所ニシテ嚴制ナラシメヨ、殊ニ重ク耽リ色ヲ好ミ博奕ヲ業トスルハ是レ亡國ノ基ナリ。
- 一 法度ニ背ク輩ハ國々ニ隱シ置クヘカラサル事
- 一 法ハ是レ禪節ノ本ナリ、法ヲ以テ理ヲ破リ理ヲ以テ法ヲ破ラス、法ニ背クノ類其ノ科輕カラス。
- 一 國々大名小名並ニ諸給人各相抱キ、士卒叛逆殺害ヲ爲ス人アラハ之レヲ告ケ速ニ追ヒ出スヘキ事
- 一 夫レ野心ヲ挾ム者ハ圖家ヲ覆スノ利器人民ヲ絶ツノ鋒劍タリ、豈ニ允容スルニ足ランヤ。
- 一 自今以後國人ノ外他國ノ者ヲ交セ置クヘカラサル事
- 一 凡テ國ニ因テ其ノ風是レ異リ、或ハ自國ノ密事ヲ以テ他國ニ告ケ、他

- 一 國ノ密事ヲ以テ自國ニ告ク、佞媚ノ萌ナリ。
- 一 諸國居城ハ修補タリト雖必言上スヘシ、況ヤ新儀ノ構營ハ堅ク停止セシムヘキ事
- 一 城百雉ニ過クルハ國ノ害ナリ後壘峻塹ハ大亂ノ本ナリ。
- 一 隣國ニ於テ新儀ヲ企テ徒黨ヲ結フ者之レアラハ早ク言上致スヘキ事
- 一 人皆黨アルモ亦達スルモノ少シ是ヲ以テ或ハ君父ニ順ハス、乍チ隣里ニ違ヒ舊例ヲ守ラス、何ソ新儀ヲ企テンヤ、
- 一 私ニ婚姻ヲ結フヘカラサル事
- 一 夫レ婚合ハ陰陽和同ノ道ナリ容易ニス可カラス、易睽ニ曰、寇ニアラス婚媾ス志將サニ通セントス、寇則チ時ヲ失フト、桃夭ニ曰、男女以テ正シク婚姻以テ時ナレハ國鰥民ナキナリ、縁ヲ以テ黨ヲ爲ス是レ姦

謀ノ本ナリ

一 諸大名參勤作法ノ事

續日本紀ノ制ニ曰、公事ニ預ラサレハ恣ニ己レノ族ヲ集ムルヲ得ス、京程二十騎以上ハ集マルヲ得ス云云、然ハ則多勢ヲ引率セス百萬石以下二十八萬石以上二十騎ヲ過クヘカラス、十萬石以上、其レ相應タルヘシ、蓋公役ノ時ハ其分限ニ隨フヘキ事

一 衣装ノ品混雜スヘカラサル事

君臣上下各別タルヘシ、白緩白小袖紫袷紫裏練無紋小袖御免ナキ衆猥ニ着用アルヘカラス、近代郎從諸卒綾羅錦繡等ノ飾服古法ニ非サル甚シ制セヨ。

一 雜人恣ニ乘輿スヘカラサル事

古來其ノ人ニ依リ御免ナク乗ル家之レアリ、御免以後乗ル家之レア

リ、然ハ近年家郎諸卒ニ及フマテ乘輿ス誠ニ濫吹ノ至ナリ、向後ニ於テハ國大名以上一門ノ歷々ハ御免ニ及ハス乗ルヘク、其ノ外昵近ノ衆并ニ醫陰兩道或ハ六十以上ノ人或ハ病人等御免以後乗ルヘシ、家郎徒卒恣ニ乘ラシムルモノハ其ノ主人越度タルヘキナリ、但公家門跡并ニ出家ノ衆ハ制限ニ非ス。

一 諸國諸侍儉約ヲ用キラルヘキ事

富者彌誇リ貧者及ハサルヲ耻ツ、俗ノ凋弊此ヨリ甚シキナシ、嚴制セシムル所ナリ

一 國主ハ政務ノ器用ヲ撰ムヘキ事

凡ソ國ヲ治ムルノ道ハ人ヲ得ルニ在リ、明ニ功過ヲ察シ賞罰必ス當ツ、善人アラハ則其ノ國彌殷カンニ、國善人ナレハ則其ノ國必ス亡フ、是レ先哲ノ明誠ナリ。

右此ノ旨ヲ相守ルヘキモノナリ。(慶長二十年卯七月日)

○五節 公家諸法度 家志日記ニ見エタル禁中並公家中諸法度左ノ如シ。

一天子御藝能之事。第一御學問也。不學則不明古道。而能致太平者未有之也。貞觀政要明文也。寬平遣戒。雖不究經史。可誦習群書治要云云。和歌自光孝天皇未絕。雖爲綺語。我國習俗也。不可棄置云云。所載禁秘抄御習學專要候事。

一三公之下親王。其故者。右大臣不比等。着舍人親王之上。殊舍人親王。仲野親王。贈太政大臣穗積親王。准右大臣。是皆一品親王以後。被贈大臣時者。三公之下。可爲勿論歟。親王之次。前官之大臣。三公。在官之內者。雖爲親王之上。辭表之後者。可爲次座。其次者諸親王。但儲君者格別。前官大臣。關白職再任之時。攝家之內。可爲位次事。

一清華之大臣。辭表之後。座位可爲諸親王之次座事。

一雖爲攝家。無其器用者。不可被任三公攝關。况其外乎。

一器用之御仁躰。仁一作人雖被及年老三公攝關。不可有辭表。但雖有辭表。有再任事。

一養子者連綿。但可被用同姓女緣者。家督相續。古今一切無之事。

一武家之官位。可爲公家當官之外事。

一改元者。漢朝年號之內。以吉例可相定。但重而於習禮相熟者。熟一作應可爲本朝先規之作法事。

一天子禮服。大袖。小袖。裳御紋十。二象。諸臣禮格別御袍。麴塵青色。帛生氣御袍或引直衣御小直衣等之事。仙洞之御袍赤色。椽或甘御衣。大臣之袍。椽異文。小直衣。親王之袍。椽小直衣。公卿着禁色雜袍。雖殿上人。大臣息。或孫。聽着禁色雜袍。貫首五位藏人。六位藏人。着禁色至極。薦着麴塵袍。是申下御服。

服之儀也。晴之時雖下臚着之袍色。四位以上椽。五位緋。地下赤衣。六位深緣。七位淺緣。八位深縹。初位淺縹。袍之紋。唐艸輪無。家家以舊例着用之。任槐以後異文也。直衣。公卿禁色直衣。始或拜領家家。任先規着用之。殿上人直衣。羽林家之外不着之。雖殿上人。大臣息。又孫。聽着禁色直衣。布衣。直垂。隨所着用之。小袖。公卿衣冠之時者着絞。殿上人不着絞。練貫。羽林家三十六歲迄着之。此外不着之。紅梅。十六歲三月迄諸家着之。此外平絹也。十六歲未滿。透額。帷子。公卿。從。端午。殿上人。從。四月酉。加茂祭。着用普通之事。一諸家昇進之次第。其家家守舊例。可申上。但學問有職職一作識。歌道令勸學。其外於積奉公勞者。雖為超越。可被成御推任。御推叙。下道具備。雖從八位下。依有才智譽。右大臣拜任。尤規模也。勞雪之功。不可棄捐事。

一關白傳奏。并奉行職事等申度儀。堂上地下之輩。於相背者。可為流罪事。

一罪之輕重。可被相守名例律事。

一攝家門跡者。可為親王門跡之次坐。攝家三公之時。雖為親王之上。前官之大臣者。次坐相定。上者可准之。但皇子連枝之外之門跡者。親王宣下有間敷也。門跡之室之位者。可依其仁躰。考先規法中之親王希有之儀也。近代及繁多。無其謂。攝家門跡。親王門跡之外之門跡者。可為准門跡事。

一僧正大正少權。門跡。院家。可守先例。至平民者。器用卓拔之仁。希有雖任之。可為准僧正也。但國王之大臣師範者。格別之事。

一門跡者。僧都大正少權。法印。任叙之事。院家者。僧都大正少權。律師。法印。法眼。任先例。任叙勿論也。但平人者。本寺推舉之上。猶以相撰器用。可申沙汰事。

一紫衣之寺者。住持職先規希有之事也。近年猥勅許之事。且亂臚次。且汚官寺。甚不可然。於向後撰其器用。戒臚相積有智者之聞者。入院之儀。可有申沙汰事。

一上人號之事。碩學之輩者。為本寺撰正權之差別。於申上者。可被成勅許。

但其仁躰。佛法修行。及廿ヶ年者。可爲正。年序未滿者。可爲權。猥競望之儀。於有之者。可被流罪事。

右可被相守此旨者也(慶長二十乙卯年七月日)

○六僧家諸法度 家忠日記ニ依ルニ五山十刹諸山之諸法度如左。

一東班西班牙轉位官資可爲如寺法事。

一康拂者叢林之典章。出世之初步也。近年猥依申下無拂之怙。康拂既欲及退轉。於向後者無拂之怙堅可停止事。

一南禪寺者深紫衣。天龍寺者淺紫衣。其外京都鎌倉之五山黃衣。十刹諸山之出世入院開堂儀式等可相守先規事。

一南禪寺者龜山法皇改皇居爲禪刹尊崇異也。勅書云長老職之事。選器量卓拔才智兼全而佛法爲重擔。勳行爲志節之仁。可補任者也。僧者必以貴人爲尊。乃至雖吾子孫不可以勢住持云云。然近年乍在他山恣申下南禪

之怙。紫衣僧其員過本寺甚以無謂。向後本寺之外猥不可補任。

但者德碩學之仁希有。雖免之稱准南禪位。可爲本寺之次座事。

一新院建立之時。申下綸旨奉書塔頭披露先規也。然近年爲私稱寺號院號自由之至也。向後者令嚴制事。

一庄園方今度差出之上。碩學料相定。畢選其器用。一代先可省之事。

一鹿苑蔭涼之官職者先代之規範也。當時不足叙用。毀破之畢自今以後以

五山長老中皈依之僧一員。可兼備出世之官資。并入院出世之儀式等如先規。可重賞事。

右條々爲守法相續學問昇進所相定。如件(元和元年乙卯七月日)。



第二十九章 公武法制

○節一 公武法制 家康三法度ノ翌月元和八年ヲ以テ公武法制應勅十  
八條ヲ發布セラル、即チ天皇ノ勅ヲ奉シテ朝權ノ由來ヲ説キ、朝廷ト幕  
府トノ關係ヲ明ニシ、宗旨ノ畛域ヲ定メタルモノニシテ、徳川治政根本  
ノ理論見ルニ足レリ、茲ニ其ノ全文ヲ載ス。

○公武法制應勅十八箇條第五

倭朝天神地神十二代天照大神宮國政明白、而シテ神代ヨリ傳ヘ玉フ處  
ノ三種神器ハ天子四海万民撫育ノ爲メナリ、神國ノ例トスル處ハ天魂  
ナリ、皇帝ハ地魂ナリ、天魂地魂ハ日月ナリ、日月行道ノ心ハ天子叙心ヲ  
守リ玉フ根本ナリ、故ニ宮中ハ九天ノ意ニシテ九重ノ内裏十二門方十  
殿ハ天ニナラヒ皇居シ玉フカ故ニ皇帝ハ十善萬乘ナリ、然レハ仁孝聰

明至剛研學顯カニ標準ト爲スヘキ如キ事ヲ日毎ニ天拜シ玉フヘキナ  
リ、學問手習御勤行御懈怠アルベカラス、萬民愁色ナク、四海太平ナル時  
ハ明德アラハレ玉フナリ、三種ノ神器御守、第一ノ事。

淳和獎學兩院別當職關東將軍ヘ任セラレ候上ハ、三親王攝家ヲ始メ公  
家并ニ諸侯ト雖、悉支配致候、國役一切知ラセヘク、政道奏聞ニ及ハス候  
四海ノ鎮メ致シ難キトキハ其罪將軍ニ有ヘシ、第二ノ事。

叡山ハ王城ノ鬼門ヲ守ランカ爲メ、桓武天皇山門神輿振ノ例之レアル  
事ハ、王法政道人氣ニ應スル處ナリ、龍體ノ御守正シカラヌ時ハ天魂憤  
リ怒テ、疫神帝都ヘ入り、洛陽ノ民愁煩ス、然レトモ今政務關東ヘ預リ奉  
ル故ニ、山王ヲ以テ將軍氏神ト致スヘシ、若山門相隨ハサルニ於テハ其  
罪タルヘシ、第三ノ事。

往昔帝王勢州熊野神社佛閣ニ行幸アリ、畢竟万民ノ煩ヲ正シ玉フ處ナ

リ、王臣政道ヲ改テ、武官政道ニ預リ奉ル、若シ知ラサル時ハ將軍ノ誤タルヘキナリ、故ニ當今皇帝法皇仙洞宮中ノ外行幸ノ儀止メ奉ル第四ノ事。

(第五逸亡ス)

僧正官ノ事、天理ニ應セヌシテ甲州武田信玄入道越州長尾鎌信入道ヘ免許シ玉フ、此官ハ僧行正シク相守ル處ノ官ナリ、肉食妻帯ヲ破リ候、武田長尾等ハ合戰ヲ出シ、多ク人ヲ殺害シ、官意ヲ破リ候處ナリ、僧タリトモ猥リニ免許スヘキニアラス、大納言ニ准シテ山ヨリ重シ、天台宗門七大僧正禪宗門五大僧正、淨土宗門三大僧正ニ限ルヘシ、其外滑官相改ル事、諸宗門本山ヘ申スヘク候、猥ニハ僧正免許有マシク、况ヤ僧官禁スヘシ、第六ノ事。

諸宗官方御門跡高官ヲ重ヌル事時ニ應セヌ、所謂ハ佛体ナリ、佛道ハ釋

氏ノ弟子ナリ、大聖世尊釋迦如來ハ釋氏ヨリ出テ、衆生濟度ノ爲ニ頭陀ノ行乞食ノ事ヲ定メ、三衣一鉢ノ三界無庵ハ此處脫字アラシ鳥ノ兩翼ナリ、殊ニ後世極樂淨土ノ道教ニシテ現世ノ役ヲイヌシ、官祿ノ論佛意ニ叶フヘキニ非ス、高官ノ事寺院相慎クヘシ、宮門跡ニ限ラス僧衆心得ヘシ、第七ノ事。

國中ノ諸侯祿ノ高下ヲ論セス、十六以上相果ル時ハ、順養子ヲ以テ其家相續セシムヘシ、十六以下幼少ニシテ相果候時ハ世續之レアルヘキ所謂ナシ、家斷ヘ申ス可ク候、是レ天理ノ應ヌル所ナリ、將軍相續ト雖モ同事タルヘク候、養子相續十六歳ニ及ヒ幼少ニシテ家督致シ候處、其弟之レアル時ハ、心當リ養子書上然ルヘク候、然ル時ハ相續家督致サセ申スヘシ、第八ノ事。

國々諸侯ハ勅命ト雖、宮中參内仕ル間敷候、西國諸大名往來ノ砌洛陽往

來停止セシメ候、密々往來候事露顯ニ於テハ何程大祿ノ家成共絶家致スヘシ、若シ洛外見物致度ハ其趣相届ケ申スヘク、其砌沙汰ニ及フヘク候、差シ免シ共三條橋ノ中ヲ限り申候、第九ノ事。

諸大名官職其家ノ先規家格ヲ以テ、兩院別當沙汰ニ及フヘク候、官位昇進致度直ニ天奏傳マテ、奏聞セシメ、願候當人並ニ奏聞ノ天奏其外取持候輩迄急度罪科ニ行フヘキナリ、其心得肝要ルヘシ、第十ノ事。

公家ヨリ武家ニ縁組ノ事、關東へ相達將軍家ヨリ沙汰ニ及ヒ其上ニテ取組申スヘク、若其ノ儀之レ無ク取結ハレ候ニ於テハ其罪申付ヘク候、縁組ノ上モ猥ニ宮中ノ趣其沙汰仕候儀相聞申スニ於テハ重罪ルヘキ事、公家ヨリ縁邊ノ武家ニ金銀無心等申入候事相慎申スヘク候、所謂ハ祿重ク金銀自在ニ取扱ヤウニ心得候へ共、萬石ハ萬石ノ國役相掛リ天下ノ御用相勤候、公家ハ少祿ナリトイヘ、臣國役ヲ相勤メ民ヲ撫育ス

ル役ナシ、然レハ宮中ヲ相勤メ家ノ扶持相立テ候ノミナリ、誓ナクシテ相勤候時ハ小祿トイヘトモ安シ、况ヤ家相續未代滯リナク、武家國役誤ル時ハ家ニ相掛リ申スヘキ故遠慮致スヘシ、第十一ノ事。

尾張大納言義直紀伊大納言頼宣兩人將軍ト三家ニ相定ムヘシ、是レ將軍萬一傍若無人ノ振舞ヲ致シ國中ノ民愁ニ及フヘキ時ハ、右兩家ヨリ相代リ申スヘク、然レハ天下政道ニ相掛リ申候、之レニ依リ國役相除キ官職從三位ヲ賜リ、尾州六十二歳大納言ヲ賜リ、紀州六十六歳大納言ヲ賜ルヘク候、國中諸候將軍ニ準シ尊敬致スヘシ、第十二ノ事。

尾紀兩家國役相除キ申候へハ、勢州天照大神宮日本國開闢ノ總社ナリ、二十一年目ノ遷宮ハ國家安全天下泰平五穀成就ヲ守ノ例ナリ、故ニ右遷宮ノ檜ハ兩家ヨリ領山ノ木ヲ伐リ出シ、遷宮滯リナキ様、主年毎ニ相勤メ申スヘシ、尤尾州紀州相互ニ相代リ相代リ勤ムヘク、常々山木ニ心

掛ヨ、第十三ノ事。

水戸宰相頼房副將軍免許ヲ賜ルヘク候、其所謂ハ將軍國政邪ナル時ハ老中諸役人評定セシメ、水戸家ヨリ差圖ヲ以テ尾州紀州兩家ヲ見立テ將軍相續奏聞スヘク、侯萬一兩家其任ニ應セサル時ハイツレ諸侯ノ内天下治鎮致スヘシ、品量奏聞候ハ水戸家ニ限ルヘシ、第十四ノ事。

霸王ノ政務相勤申候ハ源二位頼朝公ヨリ日本支配武家相勤申ス所ナリ、武家ノ預リ奉ルモノハ公家國政ユルクシテ國鎮スル丁叶カマシ、今上皇帝據トコロナク往昔政道致スヘキ旨家康勅命ヲ蒙ルナリ、然レハ小祿ニシテ國政相成リ難ク、民ノ撫育致シカマク、國役勤カマシ、公家ヨリ武家ヲ輕スル事心得違ヒナリ、所謂普天ノ下王土ニ在ラサルナク、國民撫育ハ今上皇帝天勅ヲ蒙リ玉フ故ニ萬官萬士ニ命シ國ノ安全スヘクトナリ、公卿ニモ勤行ヲ玉フニ人氣應セスシテ武官ニ命シ玉フナリ

國中靜ニ高下ノ差別ハ國ノ亂ナリ、勤行ヲ重スヘシ、第十五ノ事。

源二位頼朝治世ノ時大江大膳大夫廣元鎌倉下向ニ及ヒ武家ノ憲法ヲ定ム、何レ聖德太子十七箇條ノ憲法ヲ根本ト致スヘシ、然トイヘトモ法ハ天地ノ理ナリ、明白ナレハ世人用ヒ申スヘシ、天地和合ニ應セサル理ハ衆人之レヲ用ヒサルナリ、新法能ク糺シ、民心應セハ用ユヘシ、古法モ時ニ應セサレハ暫ク止ムヘシ、日本老中若年寄寺社奉行ノ三役評定ヲ爲スヘシ、第十六ノ事。

日本國中制札ノ事、寺社奉行名前ヲ以テ國中萬民ヲ教ヘシ、國中人數相集候事、寺社奉行判物ヲ以テ呼ヒ出スヘシ、寺社奉行判物之レナキ時ハ勅命嚴命ナリ、臣人差出シ申サス、古例ヲ以テ社人寺院ノ決斷致スヘシ、第十七ノ事。

日本國支配致ス東叡山住職ハ、今上皇帝御血統ヲ以テ關東御下向之レ